

○人ノ所有物ヲ竊取シタル後其贓物ヲ用キテ更ニ他人ノ損害ニ歸スヘキコトヲ爲シ他ノ法益ヲ侵害シタルトキハ別ニ犯罪ヲ構成スルモノトス

○一箇ノ欺罔手段ヲ施シ數回ニ財物ヲ騙取スルハ數箇ノ連續セル行爲ニ非スシテ單一ノ行爲ナリトス

○恐喝ニ因リ騙取シタル物件ヲ自己ノ物ナリト詐稱シテ他人ニ賣却シ其代金ヲ受領スルモ該行爲ハ當然恐喝罪ニ包含セラレ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○金圓ヲ騙取セント企テ意思ヲ繼續シテ數次ニ虛偽ノ借用證書ヲ行使シ其目的ヲ遂ケタルトキハ刑法第五十四條第一項ニ依リテ之ヲ處分スヘキモノトス

○不動産ノ賣買アリタル後未タ其登記ヲ經サルニ際シ前所有主ヲ欺罔シテ自己ニ直接賣却セシ旨ノ登記ヲ爲サシメタルトキハ縱令被告ハ實質上何等ノ權利ヲ取得セサルモ此時ヲ以テ該不動産ノ騙取ヲ遂ケタルモノトス

○刑法第二百四十六條第一項ノ規定ハ人ヲ欺罔シテ不法ニ財物ヲ自己又ハ第三者ニ交付セシメタル行爲ヲ處罰スルモノナリ

○債務者ノ不動産ヲ競賣シテ得タル代金ニ付テハ債權者ニ於テ特殊ノ權

利ヲ有シ且執行裁判所之ヲ占有スルモノトス從テ該金額ノ所有主タル債務者ト雖モ人ヲ欺罔シテ之ヲ騙取シタルトキハ詐欺罪(刑法第二百四十六條第一項)ヲ構成ス

○自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタルトキハ其目的ヲ達スル手段トシテ欺罔行爲ヲ施スモ其行爲ハ横領罪ヲ構成スルニ止マリ別ニ詐欺罪ヲ構成セス

(同主旨)

自己ノ占有ニ係ル他人ノ金錢ヲ横領スルニ當リ詐欺ノ手段ヲ用ウルモ其所爲ハ横領罪ニシテ詐欺罪ニ非ス

他人ノ物ヲ占有スル者方之ヲ横領シタルトキハ常ニ刑法第二百五十二條以下ノ規定ヲ適用スヘキモノトス故ニ其物ヲ横領スルノ手段トシテ欺罔ノ行爲アリタル場合ト雖モ別ニ詐欺罪ヲ構成スルコトナシ

○苟モ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ於テハ其目的カ自己ヲ利スル爲メナルト否トハ刑法第二百四十六條第一項ノ適用ニ何等ノ影響ナシ

(同主旨)

苟モ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルニ於テハ其自己ノ爲メニスルト否トヲ論セス均シク刑法第二百四十六條第一項ノ詐欺罪ヲ構成ス

○一箇ノ欺罔行爲ニ因リ相手方ヲシテ財物ヲ給付スルコトヲ承諾セシメ

一八三五

一八四九

二〇七〇

二二七

二二

二七六

五四

五八七

一四二

二二四

六八七

五三五

更ニ進テ其交付ヲ受ケタルトキハ之ヲ包括的ニ觀察シテ刑法第二百四十六條ニ該當スル單一ノ詐欺罪ヲ以テ論スヘキモノトス

○刑法第二百四十六條第一項第二項ハ同一罪質ニシテ同一ノ罪ナレハ之カ適用ヲ爲スニ當リ其孰レヲ適用スルモ又ハ之ヲ區別セスシテ概括的ニ適用スルモ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニ非ス

○裁判所ヲ欺罔シ金庫ノ保管ニ係ル公債證書ノ引渡ヲ爲サシメタルトキハ即チ不法行爲ニ因リ之カ占有ヲ妨害シタルモノニシテ其被害者ハ金庫ナリトス

○不實ノ事ヲ記載シタル公正證書ニ基キ裁判所ニ對シ供託ニ係ル公債證書引渡請求權ノ差押ヲ申請シ同時ニ引渡命令ヲ發セシメタルトキハ即チ裁判所ヲ欺罔シ公債證書ヲ騙取シタルモノニシテ其所爲ハ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

○他人ヨリ預リタル預金通帳ニ因リ銀行員ヲ欺罔シ該通帳ニ記載セル金額ノ拂戻ヲ請求シ之ヲ受取ルカ如キハ預金通帳ヲ不正ニ領得スルコトナクシテ遂行スルヲ得ヘキ事項ナルヲ以テ横領罪ヲ成立セシムヘキモノニ非スシテ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

○如上ノ場合ニ於テ縱令銀行カ貯金受取人ノ代理權アルヘキヲ信シ又信

シ得ヘキ正當ノ理由アルカ爲メ其拂渡ハ正當ナリトスルモノ之ニ因リ本人ニ於テ損害ヲ被ムルヘキヲ以テ被害者ナシト云フヲ得ス

○詐欺罪ハ被欺罔者カ被害者本人タルト將タ第三者タルトヲ問ハス苟モ欺罔ニ原因シテ他人ニ財産上ノ損害ヲ生セシメ其財物ヲ不正ニ領得シ若クハ財産上不法ノ利益ヲ得ルニ因リテ成立スルモノトス

(同主旨)

詐欺罪ノ成立ニハ必スシモ被害者自身カ欺罔セラレタル事實アルコトヲ要セス

○縱令拂渡金カ銀行ノ所有ニシテ通帳所有者ノ所有ニ非ストスルモ苟モ欺罔ニ原因シ右通帳所有者ニ財産上ノ損害ヲ及ホサシメ以テ不法ノ利益ヲ得タル以上ハ詐欺罪ノ構成ヲ妨ケス

○詐欺罪ニ於ケル欺罔行爲ハ必スシモ犯人自ラ被害者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ要セス情ヲ知ラサル第三者ニ對シテ欺罔手段ヲ施シ因テ虛偽ノ事實ヲ被害者ニ告知セシムルモ詐欺罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

○娼妓稼ヲ爲サントスル者カ適齡者ナリト詐リ娼妓出稼ヲ條件トシテ貸座敷業者ヨリ金員ヲ交付セシムルハ欺罔手段ニ因ル詐欺行爲ニ外ナラス

○如上ノ場合ニ於テ自己其他ノ者カ後日被害者ニ對シテ損害ヲ賠償スル

四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四	四四
一四三	一四三	一〇一	七六	一〇一	一〇一	七六	七六	七四七	七四七

ノ意思アリ且現ニ其方法存在シ被害者ヲシテ全然其損失ニ於テ財物ノ交付ヲ爲サシメサルモ詐欺罪ノ成立ヲ妨ケス

四四

一四二

○民法上證書ノ無効タルヘキ事由存スルモ證書自體ニ其記載ナク苟モ外形上權利義務ヲ證明スルニ足ルヘキ體裁ヲ具備スルニ於テハ其證書ハ刑法ニ所謂財物ニシテ詐欺罪ノ目的物タルニ妨ナキモノトス

四四

一五七

○偽造又ハ虚偽ノ事項ヲ記載シタル文書等ヲ行使シテ物ヲ騙取シタル場合ニ於テハ其行使ノ行爲ハ詐欺罪ノ構成要件タル欺罔ノ手段タルニ過キスシテ欺罔其モノニ非サルヲ以テ直ニ詐欺罪ノ構成要件ト爲ルモノニ非ス

四四

一八七

○詐欺ノ訴訟行爲ニ依リ裁判所ヲ欺罔シ以テ他人ヨリ財物ヲ騙取セントスル犯罪ニ在テハ訴訟當事者トシテ自ラ訴訟行爲ヲ爲ササル者ト雖モ苟モ其犯罪ヲ共謀シ之カ遂行ニ必要ナル行爲ヲ分擔スルニ於テハ當初ヨリ加功スルト途中ヨリ参加スルトヲ問ハス該詐欺罪ノ共同正犯ヲ以テ論スヘキモノトス

四四

一〇一

○苟モ一旦詐欺手段ニ因リ財物若クハ財産上ノ利益ヲ給付セシメタル以上ハ詐欺罪ハ直ニ成立スルモノニシテ縱令後日ニ至リ其財物若クハ財産上ノ利益ヲ返還スルノ意思ヲ有シ且之ヲ實行シタリトスルモ之カ爲

メ詐欺罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

四四

一〇五

○詐欺ノ方法ニ依リ他人ヲ欺罔シ犯人ノ加入セル振替貯金口座ニ金圓ヲ振込マシメタル場合ニ於テハ其拂込ノ登記ノ完了シタルト否トヲ問ハス詐欺罪ハ完成スルモノトス從テ口座登記前ニ拂込ノ取消アリテ犯人カ其拂込ノ利益ヲ受クル能ハサリシトスルモ之カ爲メニ詐欺未遂罪成立スルコトナシ

四四

二八五

○仲買人ニ定期取引ノ取次ヲ爲ス者ノ如ク裝ヒ右取引ニ要スル手数料トシテ金圓ヲ交付セシメ之ヲ仲買人ニ交付セスシテ自ラ相手方ト爲リ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト類似ノ取引ヲ爲シタル行爲ハ一箇ナルモノ一面ニ於テハ取引所法違犯ニ該リ他ノ一面ニ於テハ詐欺罪ニ當ルモノトス

四五

四七

○文書ハ其公權ニ關スルモノナルト私權ニ關スルモノナルトニ論ナク又其權利義務ニ關スルモノナルト事實證明ニ關スルモノナルトヲ問ハス所有權ノ目的ト爲リ得ヘキ有體物ナレハ刑法上ノ財物中ニ包含セラルルモノトス

四五

四〇五

○貴族院多額納税者議員互選規則ニ依レハ互選人ハ他人ニ委任シテ該議員ノ選舉ヲ爲スコトヲ得サルモノナレハ其選舉委任ノ委任狀ハ法律上

代理權限ヲ發生シ能ハサルモノナリト雖モ尙ホ事實證明ノ用ニ供シ得ラルヘキ文書ナリトス

○甲ナル者乙ニ對シ仲買人ニ取次クヘキ旨詐リ證據金又ハ手数料名義ノ下ニ金錢ヲ交付セシメ又ハ財産上ノ利益ヲ得タル所爲ハ詐欺罪ヲ構成スルモノニシテ引續キ甲カ取引所外ニ於テ取引所ノ定期取引ト類似ノ所爲ヲ爲シタルカ爲メ詐欺罪ノ消滅スヘキ理由ナシ

○無効ニ歸シタル貯金通帳ヲ有效ノモノノ如ク裝ヒ郵便局ニ呈示シ局員ヲシテ該通帳ニ基キ被告ニ拂戻請求權アルモノト誤信セシメ拂戻ヲ爲サシムルニ於テハ被告ハ該拂戻金ニ付キ詐欺ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得ス

○如上ニ重抵當ノ場合ニ於テ被欺罔者ハ第三者ニ對抗シ得ルニ番抵當權者ナルヲ以テ同人ニ何等財産上ノ損害ナシトスルモ先ニ其家屋ニ對シ第一番抵當權ヲ得タルモノト信シ金圓ノ貸與ヲ爲シタル者ハ之カ爲メニ自然財産上ノ損害ヲ被ムルヘキヲ以テ被害ナシト云フヲ得ス(刑事訴訟法第二百三條元年一四三一頁參照)

○債權者カ辨濟ニ因リテ債權ノ消滅シタルニ拘ハラズ仍ホ存續スルモノノ如ク虛偽ノ事實ヲ主張シ連帶債務者數名ニ對シテ同時ニ債務ノ辨濟

ヲ請求シタルトキハ連帶債務ノ性質上各債務者ハ請求ニ因リ債務全額ノ辨濟ヲ爲スヘキ義務アルモノナレハ該訴訟ニ因リ現實ニ侵害セラレ若クハ侵害セラレヘキ虞アル財産的法定ノ箇數ハ債務者ノ數ニ應シテ存在セサルヘカラス

○偽造ノ書ハ無價値ノモノナルノミナラス所有權ノ目的物ト爲ラサルヲ以テ之ヲ騙取スルモ詐欺罪ヲ構成セス

○苟モ通常人ノ鑑識ヲ以テシテハ容易ニ觀破シ能ハサル程度ニ於テ技巧ヲ施シアル偽物ノ指環ヲ金製トシテ質屋ノ鑑識ヲ誤ラシメ之ヲ質物トシテ金圓ヲ交付セシメタルトキハ詐欺罪ノ成立スルコト論ヲ竣タス

○連帶債務者兩人カ各債務ヲ辨濟シタル後其一人カ借用證書ノ自己ノ手中ニ在ルヲ機トシ辨濟期日ヲ變更シ代書人ニ提示シテ他ノ一人ニ對スル立替金返還ノ訴狀ヲ作成セシメ裁判所ニ提出シタルモ後之ヲ取下ケタル場合ニ於テハ該偽造文書ノ行使ト詐欺トノ間ニ手段結果ノ關係ナシ從テ牽聯ノ一罪ヲ構成スルモノニ非スシテ併合罪ノ關係ヲ有スルモノトス

○執達吏カ實質上債權ノ存在セス詐欺罪ニ著手スルモノナルコトヲ知了シタルトキハ當然執行ヲ拒絕スヘキ義務アルモノナルヲ以テ債權ノ存

四五

四〇五

元

一一六〇

元

一五〇二

元

一四三一

元

一五二七

元

一五三三

二

一七六

二

三六七

在セサルニ拘ハラス之ヲ存在スルモノノ如ク装ヒ形式上適法ナル債務
 ○名義ヲ示シ執達吏ヲシテ受任セシムルハ之ヲ欺罔スルモノニ外ナラス
 ○差押債務者ト共謀シ虚偽ノ債權ニ基キ配當加入ヲ爲シ因テ動産及ヒ不
 動産ノ競賣金ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ場合ニ動産競賣金騙取未遂
 ノ點ニ付テハ刑法第二百四十六條第一項同第二百五十條ヲ適用スルヲ
 以テ足ルト雖モ不動産競賣金ノ騙取未遂ニ付テハ同法第二百五十一條
 ニ依リ同第二百四十二條ヲ適用セサルヘカラス

○同条旨

不動産ノ競賣ニ因ル賣得金ノ所有權ハ債務者ニ屬スルモノナレテ以テ債務者カ右賣得金ヲ騙
 取セントシテ遂ケサリシ所屬ハ刑法第二百五十一條ニ依リ第二百四十二條ヲ準用シテ後始メ
 テ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ヲ適用處斷スルコトヲ得ルモノトス

○何等原料品ノ輸入ナク從テ輸入税ヲ納付シタルコトナキニ拘ハラス恰
 ○モ輸入税ヲ納付シ輸入シタルモノノ如ク装ヒ因テ其拂戻名義ノ下ニ金
 圓ヲ騙取シ又ハ騙取セントシタル行爲ハ關稅定率法第九條ノ適用ナク
 純然タル詐欺罪ヲ構成スヘキモノトス
 ○自己ニ對スル某名義ノ金圓借用證書ヲ偽造シ之ヲ同某ニ提示シテ真正
 ナリト誤信セシメ同證書面ノ金圓ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所屬ハ

詐欺未遂罪ヲ構成スルモノトス

○土地ノ差配人ハ地所ヲ占有スルモノニ非サルヲ以テ差配人カ土地所有
 者ヲ欺罔シ之ヲ錯誤ニ陷レ其所有ニ係ル地所ヲ自己ニ賣却セシメ之カ
 登記ヲ了セシムルモ詐欺罪ヲ構成スルニ止マリ業務上ノ横領罪ヲ構成
 スルコトナシ

○詐欺罪ノ成立スルニハ犯人カ相手方ヲ欺罔シ財物ヲ交付セシメ若クハ
 財産上不法ノ利益ヲ收得スルコトヲ必要トスルモノ之ニ因リ相手方ヲシ
 テ現實ニ財産上ノ損害ヲ受ケシムルコトハ其成立要件ニ非ス相手方若
 クハ他ノ利害關係者ノ孰レカニ於テ其損害ヲ負擔スル者アルヲ以テ足
 ルモノトス

○同条旨

詐欺罪ハ他人ヲ欺罔シテ財物ヲ交付セシムル事實アルヲ以テ足り財物交付ニ因リテ相手方ニ
 損害ヲ生スルコトヲ必要トセス其結果カ利害關係ノ存スル第三者ノ方面ニ發生スルモ詐欺罪
 ノ成立ニ消長ヲ來ササルモノトス

○既ニ金圓騙取ノ行爲ヲ以テ詐欺罪ナリト爲シタル以上ハ其後右騙取金
 ○ニ付キ支拂猶豫ヲ受ケタル行爲アルモ新ニ財産上ノ法益ヲ害スルモノ
 アルコトナケレハ該行爲ヲ以テ獨立ナル詐欺罪ニ間擬スヘキモノニ非

六九一

七七一

一〇六一

一〇〇九

五三〇

六二五

三九八

六三一

ス

○他人ヨリ受取ルヘキ請負金ニ付キ其受取方ヲ第三者ニ委任シタル場合
 ○ニ於テ自ラ直接ニ請求書ヲ提出シタル行爲ハ當然ノ權利ニ基キ債務ノ
 履行ヲ請求シタル行爲ナレハ之ヲ以テ欺罔行爲ト爲ス能ハス又右請求
 書ニ基キ請負代金ヲ受領シタル行爲ヲ以テ騙取行爲ト爲スヲ得ス

○眞實ヲ告知スルトキハ相手方ハ財物ヲ交付セサルヘキ場合ニ於テ眞實
 ニ反セル事實ヲ告知シ相手方ヲ錯誤ニ陥レ因テ財物ヲ交付セシメタル
 以上ハ詐欺罪ハ直ニ成立スヘク其對價カ財物ノ價格以上ニ出テ相手方
 ニ於テ現實ニ損害ヲ受ケサリシ場合アリトスルモ之カ爲メニ詐欺罪ノ
 成立ヲ妨ケス

○書畫骨董ノ賣買ニ於テ買主カ其鑑識ヲ利用シテ之ヲ購買シタルモノナ
 リトスルモ賣主ニ於テ偽作物ナルニ拘ハラズ之ヲ眞物ナリト詐言シテ
 賣却スルニ因リ財物又ハ財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナルトキハ詐
 欺罪ヲ構成スルモノトス

○他人ヨリ財物ノ交付ヲ受ケ又ハ財産上ノ利益ヲ領得スヘキ正當ナル權
 利ヲ有スル者カ之ヲ實行スルニ當リ欺罔又ハ恐喝ノ手段ヲ用キ義務者
 ラシテ正數以外ノ財物ヲ交付セシメ又ハ正數以上ノ利益ヲ供與セシメ

タルトキハ詐欺恐喝ノ罪ハ右權利ノ範圍外ニ於テ領得シタル財産又ハ
 利益ノ部分ニ付テノミ成立スルモノトス

(反對)

荷モ欺罔ノ手段ニ依リ金圓ヲ騙取シタル以上ハ縱令該金額中被告ニ於テ正當ニ受領スヘキモ
 ノアルモ其全部ニ付キ詐欺取財ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス
 被告カ或馬匹ノ買受代金ニ付キ虚偽ノ報告ヲ爲シテ産牛馬組合ヲ欺罔シ之ヨリ多額ノ金圓ヲ
 交付セシメタルトキハ其金圓ハ全部詐欺手段ニ因リテ之ヲ騙取シタルモノトス從テ被告ノ支
 出シタル代金ヲ控除シテ騙取金額ヲ算定スヘキモノニ非ス

○他人ヨリ財物又ハ財産上ノ利益ヲ受領スヘキ正當ノ權利ヲ有スル者ト
 雖モ之ヲ實行スルノ意思ナク唯名ヲ其實行ニ假託シ之ヲ手段トシテ相
 手方ヲ欺罔恐喝シ不正ニ財物又ハ利益ヲ領得シタル場合又ハ其領得シ
 タル所以ノ原因カ正當ニ有スル權利ト全然相異ナレル場合ニ於テハ詐
 欺恐喝ノ罪ハ右領得シタル財物又ハ財産上ノ利益ノ全部ニ付キ成立ス
 ルモノトス

○犯人ノ領得シタル財物又ハ利益ノ一部分ニ付キ犯罪ノ成立ヲ認ムルカ
 爲メニハ其財物又ハ利益カ法律上可分ナルヲ要スルモノトス
 ○訴狀ノ提出ニ依ル訴ノ提起ノ場合ニ於テ不實ナル請求ヲ目的トスル訴
 狀ノ提出ハ裁判所ニ對スル欺罔ノ著手ニシテ口頭辯論開始後ニ於ケル

二

一〇四三

二

一一二九

二

一一九

二

一一四三

二

一一五〇二

四三

二六七

元

一一四二八

二

一一五〇二

二

一一五〇二

不實ナル請求ノ演述ハ唯其實行行為ノ一部タルニ止マリ之ヲ以テ著手ト云フヘキモノニ非ス

三

三三六

○病者タル第三者ヲ健康者ナルカ如ク装ヒ以テ保險業者ヲ欺キ生命保險契約ヲ締結シ其結果被保險者ノ死亡ニ因リ保險金ノ交付ヲ受ケタルトキハ其死亡ノ原因カ保險契約者ノ祕シタル病症ニ基クト否トニ拘ハラズ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

三

九〇三

○債權者カ支拂命令ニ對スル貸金額及ヒ督促手續費用ノ支拂ヲ受ケタルニ拘ハラズ更ニ其貸金額ニ付キ再度ノ支拂命令ヲ受ケ假執行ノ宣言ヲ得テ執行シタルニ債務者ノ異議ニ因リ其目的ヲ遂ケサリシトキハ詐欺未遂罪ヲ構成スルモノトス

三

九五五

○他人ノ名義ヲ冒シ署名ヲ偽造シ其印章ヲ不正ニ使用シテ建物所有證明願書ヲ偽造シ之ヲ村役場ニ提出シ村長名義ノ證明文詞ヲ之ニ附記セシメ眞ニ其者ニ於テ下付ヲ受ケタルカ如ク装ヒ書面ヲ受取ルモ詐欺罪ヲ構成スルコトナシ

三

二七二

○被告カ甲銀行名義ノ電信爲替ヲ偽造シ乙銀行ヨリ金圓ヲ騙取セント企テ電報賴信紙ニ發信人甲銀行名義ヲ冒シテ虛偽ノ電信ヲ認メ之ヲ郵便局ニ提出シタルモ其發電セラレサル以前事務發覺シタルトキハ其所爲タル詐欺取財ノ豫備行為ニ過キスシテ未タ之カ實行ニ著手シタルモノニ非ス

○信用産業組合ノ組合長理事カ同組合員ノ協議ニ因リ組合ノ爲メ金五百圓以上七百圓以下ノ範圍内ニ於テ金圓ヲ借用スルノ權限ヲ與ヘラレタルノミナルニ同組合ヨリ金額ノ記載ナキ證書ヲ預リタルヲ好機トシ金三千六十圓ノ連帶借用證書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ千二百圓ヲ騙取シタル行為ハ其全部ニ付キ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

三

二八九

○有價證券偽造行使罪トハ其侵害スル法益ヲ同フセサルカ故ニ有價證券ヲ偽造シ其行使ヲ手段トシテ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シタルトキハ其詐欺ノ點ヲ有價證券偽造行使罪中ニ包含セシメテ不問ニ付スルコトヲ許サズ二者各別箇ノ罪名ニ觸ルルモノトシテ刑法第五十四條第一項後段ノ適用ヲ受クヘキモノナリ

三

一七三

○詐欺罪(刑法第二百四十六條)ノ成立ニハ常ニ必スシモ現實ニ財物ヲ受得スルコトヲ要セス之ヲ得ルコトノ可能ナル狀態ニ在ル場合ニ於テモ亦本罪ヲ構成スルモノトス

三

一八七

○詐欺未遂罪ノ構成ニハ財物ヲ騙取スル爲メ單ニ人ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ欺罔手段ヲ用キタル事實アルヲ以テ足り人ヲ錯誤ニ陥レ又ハ錯誤ニ

三

一九三五

陷ラシムヘキ虞アル程度以上ニ達セシ事實アルコトヲ要スルモノニ非

ス

○頼母子講ノ當籤者ト雖モ講則上當籤金受領ノ前提トシテ連帶借用證書
ヲ講世話人ニ差入ルルコトヲ要スル場合ニ於テ偽造ノ連帶借用證書ヲ

交付シ之ニ依リ當籤金ヲ受領スルトキハ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

○乙者カ甲者ノ詐欺行為ヲ爲スコトヲ知り其目的ノ遂行ニ對シ間接ニ一
ノ便宜ヲ與ヘ甲者ヲシテ詐欺行為ニ著手セシメタル以上ハ直接ニ詐欺

行為ニ加擔セサルモ詐欺罪ノ從犯ヲ構成スルモノトス

○賣渡擔保(信託賣買)ノ目的タル動産カ自己ノ占有中ニ在ルヲ奇貨トシ
賣主ニ於テ其事實ヲ隱蔽シ之ヲ更ニ第三者ニ入質スルトキハ詐欺罪ヲ

構成スルモノトス

○或者カ詐欺ノ方法ヲ用キ保險會社ヲ欺罔シ保險金ヲ騙取シタルニ因リ
テ生スル保險會社ノ損害ハ現實支拂ヒタル保險金ノ全額ニシテ保險料

ヲ受取リタル場合ト雖モ之ヲ控除シテ算定スヘキモノニ非ス

○詐欺罪ヲ構成スル所爲カ他面ニ於テ背任罪ノ要件ヲ具備スル場合ニ在
テハ單純ノ詐欺罪ヲ以テ論スヘク別ニ背任罪ニ問擬スヘキモノニ非ス

〔同條目〕

三	二六〇
四	二二二
四	三〇一
四	六六二
四	七〇三
四	七〇三

他人ノ爲メニ一定ノ事務ヲ處理スル者カ委任者若クハ雇傭者ニ對シテ其任務ト相容レサル詐
欺ノ行為ヲ行ヒ之ヲ欺罔シ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ取得シタル場合ニハ縱
令其行為カ主觀的方面ニ於テ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ニ
出テ客觀的方面ニ於テハ任務ニ違背シテ本人ニ財産上ノ損害ヲ生セシメタルモノトスルモ詐
欺罪ノ外別ニ背任罪ヲ構成セス

○知慮淺薄ナル未成年者又ハ心神耗弱者ニ對シ詐欺又ハ恐喝ノ方法ヲ用
キ之ニ因リテ財物ヲ交付セシメタル所爲ハ刑法第二百四十八條ニ該當
セシテ同法第二百四十六條又ハ同法第二百四十九條ニ該當スルモノ
トス

三
二五九六

○債權詐害ノ目的ヲ以テ虛偽ノ債權ヲ作爲シ真正ノ債權者ニ於テ假差押
ヲ爲シタル有體動産ニ對シ差押ヲ爲シタル行為自體ハ詐欺罪實行ノ著
手タルニ止マリ該有體動産ノ賣得金ノ配當ヲ受ケタル事實アルニ非サ
レハ詐欺罪ノ既遂ト爲ラサルモノトス

四
八八

○不動産ヲ提供シテ金員ヲ騙取シタル場合ニ於テハ該不動産ノ提供ハ詐
欺罪遂行ノ手段ニ外ナラサレハ詐欺額ハ右金員ノ全額ナリトス

四
九八〇

○欺罔手段ヲ施シ人ヲシテ不動産所有權ノ移轉ヲ承諾スル意思表示ヲ爲
サシメタルトキハ未タ登記ヲ經サルモ詐欺既遂罪ヲ構成スルモノトス

四
二二三

〔同條目〕

四
二二三

荷モ詐欺ノ手段ヲ以テ不動産所有權ノ移轉ヲ承諾セシムルニ於テハ之ト同時ニ詐欺取財ノ罪ヲ完成スルモノトス

欺罔手段ヲ施シ入テシテ不動産所有權ノ移轉ヲ承諾スル意思表示ヲ爲サシメタルトキハ詐欺既遂罪ヲ構成ス而シテ其登記又ハ引渡ヲ完了スルカ如キハ本罪ノ成立要件ニ屬セス

○無稽ノ記事ヲ掲載シタル新聞紙號外ヲ届出外ノ場所ニ於テ普通ノ號外ナリト偽リ呼賣ノ方法ニ依リ賣買ノ名ノ下ニ各購讀者ニ交付シタル行爲ハ一面新聞紙法ニ觸ルルト同時ニ他而刑法上ノ詐欺罪ヲ構成スルモノナルカ故ニ刑法第五十四條第一項前段ノ適用ヲ受クヘキモノトス

○保險會社カ商法第四百二十九條第一項但書ニ依リ保險契約ヲ解除スルヲ得サルトキト雖モ尙ホ詐欺罪ノ成立ヲ認ムルコトヲ妨クルモノニ非ス

○保險證券ハ詐欺罪ノ目的物タリ得ルモノトス

○單一ナル約束手形ハ自體分割スヘカラサルモノナレハ總合其金額ノ一部ハ欺罔者ニ於テ正當ニ之ヲ受領シ得ヘキモノトスルモ各部分ヲ分離シ其一部ニ付テノミ詐欺罪ノ成立ヲ認ムヘキモノニ非ス

○被告人カ當初ヨリ國有森林ヲ騙取スル目的ヲ以テ所有又ハ分收ニ關スル虛偽ノ事實ヲ主張シ偽造文書ヲ行使シテ下戻法所定ノ書面ヲ添附シ

タルカ如ク裝ヒ主務大臣ニ該森林ノ下戻ヲ申請シ不許可ノ處分ヲ受ケタル後行政裁判所ニ出訴シタルトキハ其詐欺行爲ハ單純ナル未遂罪ニシテ連續犯ニ非ス

○虛偽ノ證書ニ基キ支拂命令ヲ申請シタル場合ト雖モ申請ノ形式カ適法ナル以上ハ裁判所ハ其申請ノ原因タル債權現存スルモノト推定シ該命令ヲ發スヘキモノナルヲ以テ如上ノ申請ヲ爲スハ裁判所ニ對スル欺罔手段ノ著手ニ外ナラス

(同主旨)

裁判所カ形式上適法ナル支拂命令執行命令又ハ競賣等ノ申請ヲ受クルトキハ法律ノ規定ニ依リ其基本タル債權存在スルモノト推定シ該命令又ハ決定等ヲ爲スヘキモノトス故ニ如上ノ申請ヲ爲ス事實ハ裁判所ニ對スル欺罔手段ト爲ルコトヲ妨ケス

支拂命令ノ申請カ形式上適法ナルニ於テハ裁判所ハ申請者ヲ以テ債權者ナリト推定シ以テ支拂命令ヲ爲スヘキモノナルヲ以テ該申請行爲ハ裁判所ニ對スル欺罔手段ト爲リ得ルモノトス裁判所カ形式上適法ナル支拂命令ノ申請ヲ受クルトキハ法律ノ規定ニ依リ其申請ノ原因タル債權ハ現ニ存在スルモノナリトノ推定ヲ爲シ支拂命令ヲ發スヘキモノナルハ適式ナル支拂命令ノ申請ヲ爲スノ事實ハ裁判所ニ對スル一ノ欺罔手段タルコトヲ妨ケサルモノトス

強制執行ニ際シ形式上適法ナル配當要求ヲ爲ス者アルトキハ裁判所ハ債權ノ存在ヲ推定シ配當表ヲ作り之ヲ實施スルモノナレハ虛偽ノ債權ニ基キ適式ナル配當要求ヲ爲スノ事實ハ裁判所ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ欺罔手段ト爲ルヘキモノナリトス

三二

六〇七

四四

二八九

四

一四六

四四

一九九三

五

三三八

五

五七〇

五

六八一

四三

一一三

四四

七三九

四五

六〇七

三

一四七

○署名者ヲシテ證書ノ内容ヲ誤認セシメタル結果之ニ署名捺印セシムルニ於テハ其欺罔手段ハ證書偽造ノ手段ニ外ナラスシテ署名者ハ偽造ノ器械ニ使用セラレタルモノナレハ證書ノ内容ヲ認識シ乍ラ詐欺手段ニ依リテ之ヲ騙取セラレタル場合ト相異ナルコト論ヲ竣タス

(同三旨)

依頼者ノ文盲ナルニ乘シ行使ノ目的ヲ以テ其意思ニ反スル文書ヲ作成シ依頼者ヲ欺キ之ニ署名捺印セシメタル所爲ハ刑法第百五十九條第一項ニ該當シ詐欺罪ヲ以テ問擬スヘキモノニ非ス

入ヲ欺罔シ他ノ文書ナリト誤信セシメ之カ内容ヲ了知セシメスシテ其署名捺印アル權利義務ニ關スル文書ヲ作成シ之ヲ自己ニ交付セシメタルトキハ文書偽造罪ヲ成立セシメ別ニ詐欺罪ヲ構成スルモノニ非ス

入ノ文盲ナルニ乘シ證書ヲ作成名義人ヲ欺罔シ之カ内容ヲ了知セシメスシテ其署名ノ下ニ捺印セシメ以テ證書ヲ作成シタルトキハ文書偽造罪ヲ構成シ證書騙取罪ヲ構成スルモノニ非ス

○一箇ノ詐欺手段ニ因リ二回ニ保險契約書及ヒ同契約證書ヲ騙取シタル行爲カ爾後保險金ヲ騙取セントシテ其目的ヲ遂ケサリシ行爲ト共ニ金圓騙取ノ包括的意思ノ發動ニ出テタルトキハ其全體ヲ包括的ニ觀察シ一罪ヲ以テ處斷セサルヘカラス而シテ此場合ニハ包括的詐欺行爲ニ付キ既遂ノ擬律ヲ爲スヲ相當トス

○偽造證書ヲ行使シテ受訴裁判所ヲ欺罔シ訴訟ノ相手方ヨリ財物ヲ交付セシメント企テ該證書ヲ證據物トシテ情ヲ知ラサル訴訟代理人ニ交付シ其手ヲ經テ之ヲ提出セシメタル行爲ハ畢竟欺罔手段ニ依リ勝訴ノ判決ヲ得ント欲スル包括的意思ノ發動ニ出テタルモノナレハ包括的一罪トシテ處斷スヘキモノニシテ連續犯トシテ處斷スヘキモノニ非ス

○如上ノ場合ニ於テ丁ハ登記ニ依リ法律上有效ニ該不動産ヲ處分シ得ヘキ状態ニ在ルモノト爲ヌヲ得サレハ其不動産中乙及ヒ丙ノ所有部分ヲ自己ノ所有ト詐リ戊銀行代理店員ヲ欺罔シ之ヲ抵當ニ供スルモ同銀行ハ抵當權ヲ主張シテ真正ノ所有者タル乙又ハ丙ニ對抗シ得サルヲ以テ丁ノ欺罔行爲ニ因リ損害ヲ受クル者ハ乙又ハ丙ニ非スシテ戊銀行ナリトス(第二百五十二條五年一〇一七頁參照)

○入ヲ教唆シ生命保險會社ヲ欺キ保險證券ヲ騙取セシメタル後被保險者ノ死亡スルニ至リ保險金ノ支拂ヲ求メシメタルモ其目的ヲ達セサル行爲ハ包括的ニ觀察シ一罪ヲ以テ處斷スヘク保險會社未遂ヲ以テ保險證書騙取ノ結果ト看做シ之ヲ不問ニ付スヘキモノニ非ス

(同三旨)

入ヲ欺罔シテ借用證書ヲ騙取シ次テ其證書ニ基キ金錢ヲ交付セシメタルトキハ之ヲ包括的ニ

五

七〇五

四二

一六四七

四四

八二七

四四

一五三一

五

七七七

五

八〇九

五

一〇一七

五

一五四一

觀察シ一罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス
他人ヲ欺罔シテ債權ニ關スル公正證書ヲ作成セシメ之ニ基キ金圓ヲ騙取シタル行為ハ之ヲ包
括的ニ觀察シ一罪ヲ以テ處斷スヘク右金圓騙取ヲ以テ公正證書ニ因リ得タル債權ノ結果ナリ
トシテ之ヲ不同ニ付スヘキモノニ非ス

四 二五
四 一七四

○甲又ハ乙ニ於テ丙ト共謀ノ上詐欺ノ實行行為ヲ分擔シ之ニ著手シタル
以上ハ縱令丙カ單獨ニ施シタル詐欺ノ手段ニ付キ認識ナキ場合ニ於テ
モ共同ノ目的タル財物ノ騙取ニ對シ詐欺ノ罪責ヲ免ルルコトヲ得サル
モノトス

五 一七九

○被欺罔者ヲシテ第三者ニ對スル給付トシテ財物ヲ引渡サシメ欺罔者カ
第三者ヲシテ不法ノ利益ヲ得セシメンカ爲メ之ヲ受取リタル行為ハ刑
法第二百四十六條第一項ニ所謂財物ヲ騙取シタルモノニ該當スルモノ
トス

五 一九一七

○欺罔ニ依リ締結シタル保險契約ノ履行トシテ受ケタル利益ハ詐欺罪ノ
觀念上不法ノ利益タル性質ヲ有スルカ故ニ欺罔者カ保險會社ヲシテ該
保險契約ノ履行トシテ保險料ヲ領得セシメタル行為ハ第三者ノ爲メニ
財物ヲ騙取シタルモノニシテ詐欺罪ハ保險料受取ノ時ヲ以テ完成スル
モノトス

五 一九一七

○被告カ朝鮮移住手續ニ關スル利益ヲ授クルコトヲ以テ欺罔シタルカ爲
メ被欺罔者ニ於テ錯誤ニ陥リ保險會社ト保險契約ヲ締結シタルトキハ
該契約ノ締結及ヒ契約ノ履行タル第一回保險料ノ交付ハ被告ノ欺罔行
爲ニ起因スルモノナレハ被告ニ保險料受取ノ權限ノ有無ヲ問ハズ詐欺
罪ヲ構成スルモノトス

五 一九一七

○損害賠償ノ民事訴訟中金錢騙取ノ目的ヲ以テ事實ヲ虛構シ請求金額ヲ
増加シタル場合ニ於テ犯人カ其目的ヲ達スル爲メ詐欺ノ情ヲ知ラサル
他人ヲ教唆シ偽證ヲ爲サシメ以テ裁判所ヲ欺罔シタルモ詐欺ノ目的ヲ
遂クルニ至ラサルトキト雖モ其偽證教唆ノ行為ハ詐欺罪ノ手段ニシテ
刑法第五十四條第一項ノ牽連罪ヲ構成スルモノトス

六 一五四

○株券ヲ他ニ高價ニ賣込ム周旋ヲ爲スモノノ如ク虛構シテ被害者ヲ欺罔
シ金員ヲ騙取シタル場合ニ於テ該株券ハ欺罔手段ニ供セラレタルニ過
キサレハ之ニ依リテ受取リタル金員ノ全部ニ付キ詐欺罪ヲ構成スヘク
受領金員ヨリ株券ノ時價ヲ控除シ其差額ヲ以テ騙取金員ナリト爲スヲ
得ス

六 一三四五

○一箇ノ欺罔手段ヲ施シ二人ヨリ金員ヲ騙取シタルトキハ侵害セラレタ
ル財産的法益ハ二箇ナルカ故ニ一所爲ニ觸ルルモノニシテ刑法

第五十四條第一項前段ヲ適用スヘキモノトス

(同三首)

一箇ノ詐欺手段ヲ施シ二人ヨリ財物ヲ騙取セントシテ遂ケサルトキハ其行爲ハ二箇ノ詐欺未
遂罪ニ觸ルルモノニシテ刑法第五十四條第一項第十條ニ依リ之ヲ處斷スヘキモノトス
一箇ノ欺罔手段ヲ施シ數人ヨリ財物ヲ騙取セントスルハ獨立セル數箇ノ法益ヲ侵害セントス
ルモノナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルル場
合ニ該當スルモノトス

一箇ノ行爲ヲ以テ數人ヲ欺罔シ各被欺罔者ヨリ財物ヲ收受スルニ於テハ縱令其收受ノ時期ヲ
異ニスルモ刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナリトス

○詐欺罪ノ成立ニ必要ナル欺罔アリトスルニハ虛偽ノ意思表示ニ因リ他
人ヲ錯誤ニ陥ルルヲ以テ足り其意思表示カ現在又ハ過去ノ事實ノミナ
ラス將來ニ關スル事項ト雖モ自己ノ現在ニ於ケル意思狀態ニ反シテ之
ヲ告知シ他人ヲ錯誤ニ陥ルルニ足ル以上ハ詐欺罪ノ欺罔手段タルニ缺
クル所ナキモノトス

○詐欺罪ノ欺罔手段ハ一般ニ人ヲシテ動モスレハ錯誤ニ陥ラシムヘキ能
力ヲ有スルヲ以テ足り必スシモ巧妙ナルコトヲ要セサルモノトス

○土地ノ賣買ニ關シ被告ノ欺隱シタル抵當權ニ付キ登記ナク土地ノ買受
人ニ於テ損害ヲ被ムルコトナシトスルモ抵當權者ハ右買受人ニ其權利

ヲ對抗スルコトヲ得サル結果損害ヲ被ムルコト明カナレハ買受人ニ對
スル被告ノ欺罔ト抵當權者ノ被ムル損害トノ間ニ必然ノ因果關係アル
モノニシテ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

○同一ノ被害者ニ對スル一箇ノ行爲ニシテ同時ニ刑法第二百四十六條第
一項及ヒ第二項ニ觸ルル場合ニハ一箇ノ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

(同三首)

一箇ノ欺罔行爲ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得且財物ヲ騙取シタルトキハ刑法第二百四十六條
ニ該當スル單一ナル詐欺罪ヲ構成スルモノトス

(友 對)

人ヲ欺罔シテ金錢ヲ騙取シ且不法ニ債務ヲ免レタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ二箇ノ罪名
ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條第一項ニ依リテ之ヲ處斷スヘキモノトス

單一ナル意思ノ發動ニ因リ人ヲ欺罔シテ金錢竝ニ約束手形ヲ騙取シ且不法ニ債務ヲ免レタル
トキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ刑法第二百四十六條第一項同第二項ノ二罪名ニ觸ルルモノトス

○被害者カ被告ノ詐言ニ因リ月掛定期預金ノ申込ヲ爲シ一ヶ月若クハ二
ヶ月ノ掛金ヲ爲サハ貯金銀行ヨリ申込金額ノ貸付ヲ受ケ得ルモノト誤
信シタル爲メ被告ニ金圓ヲ交付シタルモノナルトキハ被告ノ所爲ハ詐
欺罪ヲ構成スヘク縱令被害者ニ於テ右銀行ニ對シ預金者タル權利ヲ取
得スルモ之カ爲メ本罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

六	四	四	四	七	六
一三四五	五五一	一九九四	三二六	一六二二	一六二二
七	四三	四二	四	七	六
六三四	四五三	六七三	四二二	七一	一七四二

○自己ノ占有中ニ在ル他人ノ不動産ヲ自己ノ物ナリト主張シ之カ返還竝ニ登記簿上ノ名義替換ヲ拒ミタル所爲ハ横領罪ニ該當シ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

七

九〇九

○欺罔ノ手段ハ必スシモ積極的行爲ヲ要スルモノニ非スシテ一定ノ事情ヲ告知スヘキ義務アル者カ故ラニ之ヲ默秘スルカ如キモ亦人ヲ錯誤ニ陥ラシムヘキ欺罔手段ト認ムルニ妨ナキモノトス

七

九三九

(同左)

○單純ナル事實ノ臆嚇ニ因リテ他人ニ錯誤ヲ生セシメ若クハ之ヲ保持セシメタル場合ニ於テハ事實ヲ告知スヘキ法律上ノ義務存スルニ非サレハ之ヲ以テ詐欺罪ノ欺罔アリト謂フヲ得ス

六

一四四九

○準禁治産者タルコトヲ知ラハ相手方カ取引ヲ爲ササルヘキ場合ニ於テ故ラニ其準禁治産者タルコトヲ默秘シ相手方ヲシテ能力者ナルカ如ク誤信セシメ因テ財物ヲ交付セシメタルトキハ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

七

九三九

○無盡ノ組織ニシテ組合員ノ醸出シタル金額カ抽籤又ハ落札ニ依リ其歸屬ノ定マル迄ハ組合員ノ共有タルヘキ場合ニ於テ脱會者又ハ掛金延滞者ノ持口ヲ會社持トシ其持口ニ相當スル掛金ヲ爲ササルニ拘ハラス之

當ノ權利アル會員ノ當籤及ヒ落札ノ機會ヲ阻害スルトキハ其阻害ハ組合員ノ錯誤ニ陥リテ爲シタル意思表示ノ結果ニ非ス之カ意思表示ヲ待タスシテ自己ヲ利セントスルモノナルヲ以テ之ニ因テ其抽籤又ハ落札ニ相當スル現在ノ醸出金ヲ領得スル行爲ノ如キハ横領罪ヲ構成スルトアルモ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス
○借用證書騙取ノ點ニ付キ既ニ處罰セラレタル後其騙取シタル借用證書ヲ利用シテ民事訴訟ヲ提起シ詐欺ヲ爲サントスルカ如キハ借用證書騙取罪ノ結果トシテ之ヲ不問ニ付スヘキモノニ非ス
○刑法第二百四十六條第二項ニ所謂不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシムルトハ適法ノ理由ナクシテ他人ヨリ財産上ノ利益ヲ自己ニ取得スルカ又ハ第三者ヲシテ之ヲ取得セシムルノ義ナリ而シテ其財産上ノ利益ハ必スシモ法律上有效ニ之ヲ取得シ又ハ取得セシムルコトヲ要セス
○刑法第二百四十六條第二項ハ犯人カ詐欺ノ手段ニ依リテ消極的ニ財産上ノ利益ヲ得タル行爲ヲモ處罰スルノ趣意ナリトス
○自己ノ占有スル他人ノ財物ヲ横領スルニ付キ欺罔手段ヲ用キタル場合ニ於テ犯人カ財産上不法ノ利益ヲ得タリトスルモ是レ横領罪當然ノ結果トス

七

一四〇七

七

一四一九

四

一六四

四

一七九

果ニ外ナラサレハ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

四三

一七五

○債權者ヲ欺罔シテ債務ノ免除ヲ得タル後借用證書ノ交付ヲ受クルモ其所爲ハ債務免除ノ結果當然受取ルヘキモノヲ受取リタルニ過キサレハ別ニ詐欺罪ヲ構成セス

四三

七七五

○債務者カ債權者ノ支拂請求ニ對シ之ヲ欺罔スル意思ヲ以テ既ニ辨濟ヲ爲シタル旨ノ回答ヲ爲シ債務ノ辨濟ヲ免レントシタルモ其目的ヲ遂ケサリシトキハ詐欺未遂罪ヲ構成ス

四三

八六三

○刑法第二百四十六條第二項ハ人ヲ欺罔シテ有體ノ財物ニ非サル財産上ノ利益ヲ自ラ收得シ又ハ他人ヲシテ之ヲ收得セシメタル者ニ適用スヘキ規定ナリトス

四三

九九五

○債務者カ債權者ノ支拂請求ヲ受クルニ當リ詐欺ノ手段ヲ用キテ外形上債務ノ免脱ヲ得タル以上ハ其免脱ノ原因ト爲リタル契約カ法律上無効ナルノ故ヲ以テ該利益ヲ將來ニ保持シ得サル場合ト雖モ詐欺罪ノ構成ヲ妨ケス

四三

一〇五〇

○公有水面埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ行政廳ノ許可命令ヲ條件トシテ埋立地所ニ對スル持分ノ讓渡契約ヲ締結シ乍ラ其持分ニ屬スル地所ノ價格昂騰シタル爲メ該契約ヲ無効トシテ其持分ニ屬スル地所ヲ賣却スル

欲シ詐欺ノ手段ヲ用キテ故意ニ其條件ノ成就ヲ妨ケタル所爲ハ刑法第二百四十六條第二項ノ犯罪ヲ構成ス

四三

一一二四

○公有水面埋立工事ニ關スル持分ノ免許權ハ之ヲ移轉スルニ付キ當該行政廳ノ許可ヲ要スルノ外民法上ノ諸權利ト等シク賣買讓渡交換等處分權ノ目的ト爲シ得ルノミナラス一旦工事完成スルニ於テハ其持分ニ相當スル地所ノ上ニ完全所有權ヲ獲得シ得ヘキ性質ヲ有スル一種ノ權利ナルヲ以テ刑法第二百四十六條第二項ニ所謂財産上ノ利益ニ該當ス

四三

一一二四

○被告人カ株式賣買ノ擔保義務ヲ不法ニ免脱セント企テ先ツ甲銀行頭取名義ノ預金手形ヲ偽造シ乙銀行ヲ欺キ同行カ丙銀行ニ對シテ有スル預金ヲ甲銀行ニ振替ヘタル後頭取ノ名義ヲ冒シテ小切手ヲ偽造シ之ヲ丁者ニ交付シテ賣買ノ證據金ニ代用シタルトキハ刑法第五十四條ニ依リ一罪トシテ之ヲ處斷セサルヘカラス

四三

一九九二

○詐欺ノ手段ニ依リ提供スヘキ證據金ヲ提供セスシテ賣買取引ヲ爲スハ刑法第二百四十六條第二項ノ所謂財産上不法ノ利益ヲ得タルモノニ外ナラス

四三

一九九九

○民事訴訟ニ於テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得ンカ爲メ裁判所ニ對シテ虛偽ノ主張ヲ爲シタルトキハ詐欺罪(刑法第二百四十六條)ノ實行ニ著手シ

タルモノトス

○登記官吏ハ其職權ヲ以テ登記申請者ノ申告シタル課税標準ノ價格ヲ調査シ之ニ課税スルノ權限ヲ有スルモノナルヲ以テ不相當ノ標準價格ヲ申告シ之ニ因テ登録税ノ免脱ヲ得タル行為アリトスルモ刑法第二百四十六條第二項ノ罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○通信事務員カ横領又ハ竊取シタル郵便貯金通帳ノ記入金額ヲ引出シタル行為ハ郵便局員ヲ欺罔シ財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナレトモ右横領又ハ竊盜ノ外ニ別罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ刑法第五十四條ノ適用ナシ

○辨濟ノ延期ハ債務者ヲシテ一時債務ノ履行ヲ免レシムルモノナレハ債務者ハ之ニ因テ現實的財産上ノ利益ヲ得ルコトナシト云フヲ得ス從テ詐欺ノ手段ニ依リ辨濟ノ延期ヲ爲サシムルニ於テハ詐欺罪ヲ構成スルコト論ヲ竣タス

○債務者カ債權者ヲ欺罔シ第三者ニ對スル無効ノ債權ヲ之ニ讓渡シ以テ自己ノ債務ヲ免レシメタル行為ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ收得シタルモノナルヲ以テ刑法第二百四十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スルモノトス
○勸業銀行ヨリ債券並ニ割増金ヲ騙取スル目的ヲ以テ除權判決ヲ得タル

四

四

四

四

四

二三

九五

二三

一五六

一七三

トキハ之ト同時ニ其所有者ニ對シ刑法第二百四十六條第二項ノ詐欺罪ヲ構成スヘキモノナルヲ以テ該判決前申發覺シ其目的ヲ遂ケサル場合ニ於テハ詐欺未遂罪ヲ以テ論スヘキモノトス

○賣掛代金支拂ノ請求ニ對シ既ニ無効ニ歸シタル領收證ヲ裁判所ニ提出シ之ニ基キ債務ノ辨濟ヲ免レントシタルハ即チ人ヲ欺罔シ財産上不法ノ利益ヲ得ントシタルモノナレハ刑法第二百四十六條第二項ニ該當スルモノトス

○他人ノ委託ニ因リ取立テタル賃料ヲ費消シタルカ爲メ欺罔手段ヲ用キテ其支拂義務ヲ免レントスルモ將タ又未タ賃料ノ占有中之ヲ引渡サザリシカ爲メ欺罔手段ヲ施シ其支拂義務ヲ免レントシタリトスルモ孰レモ横領罪ノ外別ニ詐欺罪ヲ構成スルモノニ非ス

○米穀取引所仲買人カ定期米賣建ノ注文ヲ爲シタル場合ニ於テ證據金ノ支拂ニ代ヘ其偽造ニ係ル定期預金證書ヲ交付シ以テ證據金支拂ノ義務ヲ免レタルトキハ之ニ因リテ現實的財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナリトス

○債務者カ詐欺ヲ施シ之ニ因リ一時不法ニ債務ノ履行ヲ免レタル行為ハ詐欺罪ヲ構成スルモノトス

四

元

三

三

四

一九八

一五六

一〇六一

一七四三

二五四

○村ノ債務者カ債務ヲ辨濟セサルニモ拘ハラズ恰モ辨濟シタルカ如ク記載シタル公簿ヲ役場ニ備付ケ監督官廳其他第三者ノ閱覽シ得ヘキ状態ニ置キタルトキハ其行爲ハ詐欺罪ヲ成立スルモノトス

○債務者カ故意ニ財産ノ一部ヲ隱匿シ殘餘ノ財産ノ外他ニ財産ナキ旨ヲ詐言シ債權者ヲ錯誤ニ陷レ其者ヲシテ請求ノ猶豫又ハ債務者ニ有利ナル條件ノ下ニ年賦辨濟ヲ受クルコトヲ諾セシメタル所爲ハ刑法第二百四十六條第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス

○詐欺ノ手段ヲ以テ關稅ヲ遁脫シタル行爲ハ單ニ關稅法第七十五條ノ一罪トシテ處斷スヘキモノトス

○法人ノ代表者カ詐欺ノ手段ヲ以テ關稅ヲ遁脫シタル場合ニハ明治三十二年法律第五十二號第一條ニ依リ法人ヲ責任者トシテ處罰スヘキモノニシテ其代表者ニ對シテハ關稅法第七十五條ハ勿論刑法第二百四十六條第二項ヲモ適用スヘキモノニ非ス

○債務者カ裁判所ヲ欺罔シテ債權ノ履行ヲ免レタリトスルニハ其債務履行ノ免除カ裁判所ヲ欺罔シタル結果ニ基クコトヲ要スルモノトス

○債權者カ抵當權ヲ實行セントスル虞アルニ當リ債務者ニ於テ其實行ヲ妨ケ財産上不法ノ利益ヲ得ンコトヲ企テ詐欺ノ手段ニ依リ裁判所ヲ欺

罔シ豫期ノ目的ヲ達セントシタルモ事發覺シテ遂ケサリシトキハ刑法第二百四十六條第二項ノ詐欺未遂罪ヲ構成ス

○甲及ヒ乙カ丙ト共謀シテ丁ヨリ丙ニ對スル貸金請求事件ニ付キ裁判所ヲ欺罔シ丙ヲシテ不法ノ利益ヲ獲得セシムル爲メ特約附ノ借用證書ヲ偽造シ丙ノ訴訟代理人ニ交付シテ裁判所ニ提出セシメ且之ニ牽連シテ甲ハ該證書ノ特約文詞及ヒ宛名カ真正ニ成立シタルモノノ如ク虛偽ノ證言ヲ爲サンコトヲ乙ニ教唆シ偽證ヲ爲サシメ裁判所ヲ欺罔シタルモ事發覺シテ詐欺ノ目的ヲ遂ケ得サリシ場合ニハ其偽證行爲ト詐欺未遂行爲トノ間ニ手段結果ノ關係アルヲ以テ刑法第五十四條第一項ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

○鐵道係員ノ許諾ヲ受ケテ有效ノ乘車券ナクシテ乘車スル行爲カ詐欺ノ手段ニ依リテ行ハレタルトキハ刑法第二百四十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スト雖モ之ト同時ニ鐵道營業法第二十九條ニ間擬シ一箇ノ行爲ニシテ二罪ニ該當スルモノトシテ處罰スヘキモノニ非ス

○登記官吏カ質權者名義ヲ冒シタル偽造ノ質權拋棄承諾書ヲ信シテ犯人ノ申請ニ基キ質權消滅ノ登記ヲ爲シタリトスルモ登記官吏ハ質權ニ關シテ處分ノ權限又ハ地位ヲ有スルモノニ非サレハ犯人ハ登記官吏ノ意

五

二六九

五

八三三

五

一五三七

四

五〇〇

四

八八九

四

一七四五

四

一七四五

四

一九七九

思ニ依リ財産上不法ノ利益ヲ領得スルコト能ハサルノミナラス名義ヲ冒用セラレタル者ハ文書ヲ偽造セラレタルニ止マリ欺罔ニ依リ質權拋棄ノ意思表示ヲ爲シタルモノニ非サルヲ以テ刑法第二百四十六條第二項ノ詐欺罪ヲ構成セサルモノトス

○債務不履行ノ責ヲ免レンカ爲メ債權者ヲ欺罔シ期限ノ到來セル借用證書ヲ騙取シ之ニ代フルニ其未タ到來セサル借用證書ヲ交付シタルトキハ被告ハ之ニ因リ財産上不法ノ利益ヲ得タルモノトス

○金圓騙取ノ手段トシテ裁判所ニ對シ虛偽ノ債權ニ基ク申立ヲ爲シ之ニ依リ先ツ執行命令ヲ得進テ債權轉付命令ヲ得タル場合ニ在リテハ其債權ハ被告ニ歸屬スルヲ以テ詐欺ニ因ル不法利得ノ既遂罪成立スルモノトス

(參照)

詐欺ノ目的ヲ以テ房總博愛會社ナルモノヲ設立シ多數應募者ニ對シ各別ニ欺罔手段ヲ施シ依テ各法益ヲ侵害シタル場合ニ於テハ各應募者ノ被害法益ハ箇箇獨立ナルヲ以テ犯意ノ繼續セルト否トチ問ハス應募者一人毎ニ獨立ノ詐欺罪ヲ構成スヘキモノトス(第五十五條四五年一〇七頁參照)

第二百四十七條

○刑法第二百四十七條ハ他人ノ事務ヲ處理スル者カ自己ノ占有スル他人

四 一七六九

六 一三八五

六 一三三六

六 一三三六

ノ物ヲ横領シタル場合ヲ除キ其他ノ方法ヲ以テ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタル總般ノ場合ニ之ヲ適用スヘキモノトス

四 三三四

○荷爲替ニ於ケル貨物運送ノ取扱ヲ爲ス者ハ質權者ノ爲メニ其貨物ヲ占有保管スルノ責アルヲ以テ刑法第二百四十七條ニ所謂他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者ニ外ナラス

四 六三三

○質權者カ質物トシテ受取り置キタル物件ヲ質權者ノ委託ヲ受ケ保管中質物所有者ノ請ヲ容レ擅ニ之ヲ交付シタル所爲ハ質權ニ侵害ヲ加ヘタルモノナルヲ以テ刑法第二百四十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四 二六九八

○倉庫會社ノ支配人カ寄託者ト共謀シ寄託物ノ質權者ニ對スル債務辨濟前質入證券ト引換ニ非スシテ受寄物ヲ之ニ引渡シタルトキハ刑法第二百四十七條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四 二二三二

○司法省工手カ裁判所廳舎ノ新築工事監督申請負人ノ依頼ニ因リ報酬ヲ得テ右工事ヲ寬ニシタル行爲アリタル場合ニ於テ若シ司法省工手ニシテ公務員ナランカ收賄罪ヲ構成スルト同時ニ背任罪ヲモ構成シ刑法第五十四條ニ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸レタルモノト云フヲ得ヘシ

四 五七〇

○刑法第二百四十七條ニ所謂第三者トハ他人ノ事務ヲ處理スル者ト其事

務ヲ處理セシムル者トヲ除キ其以外ノ者ヲ指稱スルモノトス

○刑法第二百四十七條ニ所謂財産上ノ損害トハ汎ク財産上ノ價值ヲ減少スルヲ謂フモノナレハ必スシモ約束手形ノ裏書人カ現實償還義務ヲ履行シタルコトヲ要セス單ニ裏書人タル義務ヲ負擔セシメタル場合ニ於テモ之ニ對シ財産上ノ損害ヲ加ヘタルモノト云フヲ得ヘシ

○刑法第二百四十七條ノ犯罪ニ付キテハ法令ニ依リテ其職務權限ノ定マレル公務員若クハ私法上ニ於ケル各種ノ法定代理人ノ如キ者ノミニ限ラス契約上ハ勿論慣習ニ依ル場合ニ於テモ苟モ他人ノ爲メニ其事務ヲ處理スル者ハ皆之カ主體タリ得ヘキモノトス

○官廳ニ於ケル雇員ハ其雇員タル身分ニ附著セル何等ノ職務權限ナシト雖モ概括的ニ或種類ノ事務若クハ隨時箇箇ノ勞務ニ從事スルコトヲ官吏ヨリ命セラレ其事務ニ從事スルハ即チ其任務ニ外ナラス從テ區裁判所ノ官吏ヲ補助スル爲メ登記事務ノ一部ニ從事スル場合ニ於テハ其命セラレタル事務ノ處理ハ其者ノ任務ナリトス

○區裁判所雇トシテ登記事務取扱中ノ者ヲ教唆シ所有權移轉登記ノ申請ヲ爲ス際登録稅標準價格ヲ不當ニ低下シタル價格ヲ申出テ被教唆者ヲシテ右申請書ヲ受理シテ登記ヲ了セシメタルハ背任罪ノ教唆ナリトス

四五

八五六

二

五二

三

四九八

三

四九八

三

四九八

○質商タル主人ノ事務ヲ處理スル者カ他人ノ利益ヲ圖リ其占有セル主人所有ノ金圓中ヨリ他人ノ質物ニ對シ普通質取價格ヨリ多額ニ貸出シ又ハ無擔保ニテ貸出シタル行爲ニシテ主人ノ計算ニ於テ其業務擔當者トシテ爲シタルモノナルトキハ背任罪ヲ構成スルモノトス然レトモ叙上ノ者ニシテ名ヲ貸借ニ藉リ其差額又ハ全額ヲ領得スルノ目的ヲ以テ若クハ單ニ自己ノ計算ニ於テ前示ノ貸出ヲ爲シタルモノナルトキハ横領罪ヲ構成スルモノトス

三

二七四

○商人ノ爲メ他人ニ對スル賣掛代金ヲ受取り若シ其支拂ナキトキハ賣買ヲ解除シテ商品ヲ取戻スヘキ事務ヲ擔任スル者カ債務者ト共謀シ其利益ヲ計リ既ニ商品ノ返戻ヲ受ケタル旨虛偽ノ事實ヲ本人店用ノ帳簿ニ記載シ債務者ヲシテ代金ヲ支拂ハスシテ擅ニ該商品ヲ賣却セシメタル所爲ハ背任罪ヲ構成ス

三

二二三

○會社ノ爲メ不用品賣却ノ事務ヲ擔任スル役員カ當初ヨリ賣却代金ヲ自己ニ領得スルノ意思ヲ以テ會社ノ不用品ヲ相當價格ニ賣却シ乍ラ低價ニ賣却シタルモノノ如ク裝ヒ其差額ヲ領得シタルトキハ縱令犯人ト買主トノ間ニ金圓ノ授受ヲ了シタリトスルモ純然タル背任行爲ニシテ横領ノ行爲ニ非ス

三

二二七

○刑法第二百四十七條ハ他人ノ事務ヲ處理スルニ至リタル原因ノ如何ヲ限定セサルヲ以テ毫モ之ヲ法令又ハ契約ニ因リ他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者ノミヲ指稱スト解スヘキ理由ナク義務ナクシテ他人ノ爲メ事務管理ヲ爲ス者ヲモ包含スルモノト解スヘキモノトス

○刑法第二百四十七條ニ所謂自己ノ利益ヲ圖ル目的トハ身分上ノ利益其他總テ自己ノ利益ヲ圖ル目的ナルヲ以テ足り必スシモ其財産上ノ利益ヲ圖ル目的ナルコトヲ要セス

○他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者カ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ損害ヲ加ヘタル場合ト雖モ本人ノ利益ヲ圖ル目的ニ出テタルトキハ犯罪ヲ構成セス

○背任罪ノ成立ニハ必スシモ行爲者カ自己單獨ノ意思ヲ以テ其事務ヲ左右スルノ權限アル事務ニ關シ背任行爲アリタルコトヲ必要トセス縱令他ニ其事務ノ遂行ニ付キ指揮監督其他決裁ノ權限ヲ有スル者アルモ苟モ其行爲者ノ擔任セル範圍内ノ事務ニ付キ背任行爲アリタル場合ニ於テハ本罪ヲ構成スルモノトス

○詐欺罪ヲ構成スル所爲カ他面ニ於テ背任罪ノ要件ヲ具備スル場合ニ於テハ單純ノ詐欺罪ヲ以テ論スヘク別ニ背任罪ニ間接スヘキモノニ非ス

(同主旨)

他人ノ爲メニ一定ノ事務ヲ處理スル者カ委任者若クハ雇傭者ニ對シテ其任務ト相容レサル詐欺的行爲ヲ行ヒ之ヲ欺罔シ財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ取得シタル場合ニハ縱令其行爲カ主觀的方面ニ於テ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ニ出テ客觀的方面ニ於テハ任務ニ違背シテ本人ニ財産上ノ損害ヲ生セシメタルモノトスルモ詐欺罪ノ外別ニ背任罪ヲ構成セス

○刑法第二百四十七條ニ所謂他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者トハ單リ獨立ノ權限ヲ以テ其處理ヲ爲ス者ノミナラス事實上ノ補助者トシテ之ニ與ル者ヲモ包含ス

○會社ノ取締役カ監査役ノ承認ヲ得スシテ自己ノ爲メニ會社ト取引ヲ爲シ且其取引ニ關シテ自ら會社ノ相手方ト爲リタル行爲ハ會社ノ利益ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ取締役ノ任務ヲ誠實ニ遂行シタルモノト云フヲ得ス

(參照)

銀行支配人カ自己ノ利益ヲ圖ルノ目的ヲ以テ彙ニ其銀行ニ對スル債務ノ擔保トシテ差入レ且躬ラ保管スル自己所有ノ物件ヲ擅ニ取出シテ賣却シ其代金ヲ銀行ニ辨濟セサル所屬ハ刑法第二百四十七條ニ該當ス而シテ其物件カ若シ他人ノ所有ニ屬スルトキハ被告ノ行爲ハ一箇ニテ背任罪及ヒ横領罪ノ二罪名ニ觸レルモノトス(第二十八章横領ノ罪四五年八五六頁參照)

『第二百四十八條』

刑法 罪 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

(第二百四十八條)

(同主旨)

三	二六二〇
三	二八六七
三	二八六七
四	一三〇
四	七〇三

三	二九九六
五	八七三
五	一三八〇
四	二三五

○刑法第二百四十八條ニ所謂心神耗弱トハ全然意思能力ヲ喪失スルニ至ラサルモ精神ノ健全ヲ缺キ事物ノ判斷ヲ爲スニ充分ナル普通ノ智能ヲ具ヘサル状態ヲ謂フモノトス

四五

一〇六七

○刑法第二百四十八條ノ罪ハ未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ナル狀況ヲ利用シ詐欺又ハ恐喝ニ該當セサル誘惑其他ノ方法ヲ用キ財物ヲ交付セシムルニ因リテ成立スルモノトス

四

八八

○知慮淺薄ナル未成年者又ハ心神耗弱者ニ對シ詐欺又ハ恐喝ノ方法ヲ用キ之ニ因リテ財物ヲ交付セシメタル所爲ハ刑法第二百四十八條ニ該當セシテ同法第二百四十六條又ハ同法第二百四十九條ニ該當スルモノトス

四

八八

(第二百四十九條)

『第二百四十九條』

○人ヲ恐喝シテ證書類ヲ交付セシメタル所爲ハ自己ノ爲メニスルト否トヲ論セス刑法第二百四十九條第一項ノ犯罪ヲ構成ス

四二

一三七

○恐喝取財ニ因ル損害ハ被害者カ騙取セラレタル物ニ付キ之ヲ判定スヘク其物ト犯人カ犯罪ノ手段トシテ提供シタル物トノ價格ヲ比較シテ判定スヘキモノニ非ス

四二

八三

○他人ニ對シ第三者ノ行爲又ハ人爲以外ノ勢力ニ因リテ害惡ノ來ルヘキ

コトヲ通告シ之ヲ畏怖セシメテ財物ノ交付ヲ受ケタル所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成ス

四二

一〇六四

(同左)

○恐喝ハ恐喝者ニ於テ直接ニ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段トスル場合ニ限ラス間接ニ第三者ノ行爲又ハ天災等ニ依リ危害ヲ加フヘキコトヲ以テ手段ト爲ス場合モ亦之ニ包含セルモノトス

四二

一〇六六

○他人ニ對シテ害惡ノ來ルヘキコトヲ通告シ畏怖ノ念ヲ生セシメ財物ノ交付ヲ受ケタル所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成ス而シテ其害惡ハ犯人自ラ之ヲ加フルコトヲ要セス

四三

九四七

○數人ニ對シテ同一ナル恐喝手段ヲ施用シ畏怖ノ念ヲ生セシメ被害者全員ノ贖出シタル金圓ヲ其一人ヨリ包括的ニ騙取シタルトキハ即チ一所爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ刑法第五十四條ヲ適用シテ之ヲ處罰セサルヘカラス

四三

一五五八

○債務證書ノ形式ヲ具備スル文書ニシテ債務名義者ノ手ヲ離レタル以上ハ縱令債權者ニ交付セラレサル前ト雖モ形式上債權證明ノ具ト爲リ得ヘキハ勿論又所有權ノ目的タルコトヲ得ルモノトス

四三

一六二六

○恐喝罪ヲ遂行スル爲メ官名ヲ詐稱シ又ハ他人ヲ制縛シタルトキハ此等ノ所爲ハ該犯罪ノ具體的構成事實ナルモ其特別構成要素ニ屬セサルヲ以テ刑法第五十四條ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ル

ルモノナリトス

○恐喝ニ因リ騙取シタル物件ヲ自己ノ物ナリト詐稱シテ他人ニ賣却シ其代金ヲ受領スルモ該行為ハ當然恐喝罪ニ包含セラレ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

四三

二〇七〇

○他人ニ對シ或害惡ノ繼續スヘキコトヲ告ケテ不法ニ財物ヲ交付セシメタル所爲ハ恐喝取財罪ヲ構成ス而シテ恐喝ノ手段タル害惡ノ種類如何又其害惡カ權利ノ實行ニ屬スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

四四

二三〇

○人ヲ恐喝シテ金圓等ノ如キ有體ノ財物ヲ自己又ハ他人ニ交付セシメタル場合ニハ刑法第二百四十九條第一項ヲ適用スヘキモノニシテ其第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス

四四

三五五

○恐喝ノ手段トシテ用キラレタル行為カ獨立シテ相手方ヲ畏怖セシムルニ足ラストスルモ苟モ他ノ事情ト相待テ畏怖ノ結果ヲ生セシムヘキモノナルニ於テハ之ヲ以テ恐喝行為ナリト云フヲ妨ケス故ニ此等ノ行為ニ因リ人ヲシテ財物ヲ交付セシメタルトキハ恐喝罪ヲ構成スルコト疑フ容レス

四四

九〇六

○恐喝罪ヲ構成スルニハ不法ニ他人ノ財産權ヲ侵害スル事實アルヲ以テ足り他ニ財産上ニ損害ノ發生スルコトヲ必要トセス故ニ犯人カ恐喝ニ

因リテ交付セシメタル財産上ノ利益ニ付キ相當ノ對價ヲ給付シ以テ相手方ニ損害ヲ生セシメサリシトスルモ之カ爲メニ恐喝罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

四四

二〇九五

○土地所有者ヲ恐喝シ之ヲシテ土地所有權移轉ノ意思表示ヲ爲サシメタル場合ト雖モ未タ登記又ハ引渡ノ手續ヲ完了セサルニ於テハ刑法第二百四十九條第一項ニ所謂財物ノ交付アリタルモノト云フヲ得ス

四四

二〇九五

○恐喝罪ノ被害者ハ常ニ犯罪ノ目的タル財産權ノ主體ナリト雖モ恐喝ヲ受クル者ハ右被害者タルコトヲ必要トセス被害者ト利害關係ヲ有スル者ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

四四

二〇九五

○所有權ハ法令ノ規定ニ依ルニ非サレハ絶對ニ侵害セラレルコトナキモノナルヲ以テ土地所有者ハ如何ナル高價ヲ以テスルモ他人ノ爲メニ所有權ノ移轉ヲ強要セラレヘキニ非ス故ニ苟モ所有者ヲ恐喝シ眞意ニ反スル所有權移轉ノ意思ヲ表示セシムルニ於テハ恐喝罪ノ成立スルコト論ヲ埃タス

四四

二〇九五

○數人ヲ恐喝シ金員ヲ交付セシメント企テ各別ニ之ヲ恐喝シ因テ各自ヨリ金員ヲ交付セシメタル所爲ハ刑法第二百四十九條第一項第五十五條ニ該當スル連續ノ恐喝罪ナリトス

四五

四四八

○刑法第二百四十九條第一項及ヒ第二項ハ同一罪質ニシテ又同一罪名ヲ成スモノナレハ同一ノ被害者ニ對スル一箇ノ行ニシテ同時ニ同條第二項及ヒ第一項ニ觸ルル場合ニハ單ニ一箇ノ罪名ニ觸ルル恐喝罪ヲ構成スルモノトス

四五

四九

○數人相集マリテ絶交ノ通告ヲ爲スカ如キハ相手方ヲシテ將來不利益ヲ被ムルコトアルヘキ恐ヲ懷カシムルニ足ルヲ以テ恐喝ノ手段タルコトヲ妨ケス

元

三九三

○甲カ財物騙取ノ目的ヲ以テ乙ヲシテ恐喝行爲ヲ實行セシメタルモ其目的ヲ遂ケサリシ事實ニ付キ甲ヲ恐喝未遂ニ問擬シ乙ニ付テハ其認識シテ實行セル犯罪ノミヲ論シ脅迫罪トシテ處斷シタルハ違法ニ非ス

元

四四五

○恐喝罪ニ因リ侵害セラルヘキ法益ノ主體カ單一ナル場合ニ於テハ其手段タル恐喝ヲ受ケタル者ノ員數ハ恐喝罪ノ箇數ヲ定ムル標準ト爲ルコトナシ

元

四四五

○他人ノ營業ヲ妨害スヘキ虛偽ノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シ出金セサルニ於テハ引續キ其記事ヲ掲載スヘキ態度ヲ示シ因テ金員ヲ交付セシメタルトキハ右營業妨害ノ行爲ハ恐喝罪ノ具體的構成事實ナリト雖モ金員ノ交付ヲ爲ナシムル爲メニ施シタル手段ニ外ナラザルヲ以テ刑法第五十

四條第一項後段ニ所謂犯罪ノ手段タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルモノトス

二

二二四

○法律上他人ヨリ財物又ハ財産上ノ利益ヲ受クヘキ權利アル者ニ於テ其權利實行ノ手段トシテ他人ヲ恐喝スルモ恐喝罪ヲ構成スルモノニ非ス

二

二二六

○他人ヨリ財物ノ交付ヲ受ケ又ハ財産上ノ利益ヲ領得スヘキ正當ナル權利ヲ有スル者カ之ヲ實行スルニ當リ欺罔又ハ恐喝ノ手段ヲ用キ義務者ヲシテ正數以外ノ財物ヲ交付セシメ又ハ正數以上ノ利益ヲ供與セシメタルトキハ詐欺恐喝ノ罪ハ右權利ノ範圍外ニ於テ領得シタル財産又ハ利益ノ部分ニ付テノミ成立スルモノトス

二

一五〇一

○他人ヨリ財物又ハ財産上ノ利益ヲ受領スヘキ正當ノ權利ヲ有スル者ト雖モ之ヲ實行スルノ意思ナク唯名ヲ其實行ニ假託シ之ヲ手段トシテ相手方ヲ欺罔恐喝シ不正ニ財物又ハ利益ヲ領得シタル場合又ハ其領得シタル所以ノ原因カ正當ニ有スル權利ト全然相異ナレル場合ニ於テハ詐欺恐喝ノ罪ハ右領得シタル財物又ハ財産上ノ利益ノ全部ニ付キ成立スルモノトス

二

一五〇二

○犯人ノ領得シタル財物又ハ利益ノ一部分ニ付キ犯罪ノ成立ヲ認ムルカ爲メニハ其財物又ハ利益カ法律上可分ナルヲ要スルモノトス

二

一五〇三

○犯人ノ領得シタル財物又ハ利益ノ一部分ニ付キ犯罪ノ成立ヲ認ムルカ爲メニハ其財物又ハ利益カ法律上可分ナルヲ要スルモノトス

二

一五〇三

○價格金一圓未満ノ松一本ヲ竊取シタル者ニ對シ金四十五圓ヲ出ササレ
 ○ハ告訴ヲ爲スヘシト通知シ損害賠償名義ノ下ニ該金員ヲ交付セシメタ
 ル以上ハ名ヲ損害賠償ニ藉リテ不當ノ利得ヲ爲シタルモノナレハ其交
 付セシメタル金額全部ニ關シ恐喝罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第二百四十九條ニ所謂財物トハ財産的價値ノ有無ヲ問ハス財産權
 殊ニ所有權ノ目的タルコトヲ得ヘキ物ヲ指稱スルモノナルヲ以テ其作
 成者ニ於テ和罪事實ヲ自認シ且其贓物ヲ第三者ニ交付シタル事實ヲ記
 載シタル證書ノ如キハ一定ノ事實關係ヲ證明スヘキ文書ニシテ所有權
 ノ目的ト爲リ得ヘキモノナレハ恐喝罪ノ目的タル財物ナリト云フヲ妨
 ケス

○苟モ人ニ不利益ナル事項ヲ新聞紙上ニ掲載スヘキ旨ヲ通告スルトキハ
 其通告自體ニ於テ之ヲ畏怖セシムルニ足ルヘク該事項ノ内容ヲ示シタ
 ルト否トハ犯罪ノ成立ヲ左右スルモノニ非ス

(同罪)

凡テ秘密ニ關スル事項ヲ摘發スルコトハ普ク人ノ權益スル所ナルニ因リ苟モ財物ノ交付ヲ受
 カル目的ヲ以テ新聞紙上ニ人ノ秘密ニ關スル事項ヲ掲載スヘキ旨ヲ通告スルニ於テハ通告ヲ
 爲スニ當リ其秘密ニ關スル事項ヲ指示シタルト否トニ拘ハラズ恐喝罪ヲ構成スルモノトス

○知慮淺薄ナル未成年者又ハ心神耗弱者ニ對シ詐欺又ハ恐喝ノ方法ヲ用
 キ之ニ因リテ財物ヲ交付セシメタル所爲ハ刑法第二百四十八條ニ該當
 セスシテ同法第二百四十六條又ハ同法第二百四十九條ニ該當スルモノ
 トス

○他人ニ對シ自己ノ性行經歷及ヒ職業上ノ不法ナル勢威等ヲ利用シテ財
 物ノ交付ヲ要求シ若シ之ヲ容レサルニ於テハ不當ナル不利益ヲ醸サル
 ルノ危険アルヘシトノ念慮ヲ抱カシメ因テ其財物ヲ交付セシムルトキ
 ハ恐喝取財罪ヲ構成スルモノトス

○恐喝罪ヲ構成スヘキ害惡ノ通知ハ人ヲシテ畏怖又ハ嫌忌ノ念ヲ生セシ
 メ意思ノ實行ヲ制限スルモノナレハ足り必スシモ生命身體自由名譽又
 ハ財産ニ對スルモノナルコトヲ要セス

○苟モ恐喝ノ犯意ヲ以テ他人ヲ畏怖セシムルニ足ル文書ヲ郵便ニ付シ受
 信人ニ到達セシメタル以上ハ該文書ハ既ニ行使セラレタルモノナルヲ
 以テ縱令犯人ノ意思ニ基カサル事由ニ因リ受信人カ其内容ヲ了知シ得
 サルニ至ルモ所謂不能犯ト爲ルモノニ非ス

○株式會社タル法人ノ信用ヲ毀損スル記事ヲ新聞紙ニ掲載シ發行シ來リ
 タル者カ法人ノ取締役ニ對シ金錢ヲ交付スルニ非サレハ該記事ヲ繼續

三

六七二

三

七二五

三

一三三七

四五

三三七

四

八二八

五

七五三

五

一〇三三

五

一三三三

連載スヘキ旨ヲ通知シテ之ヲ恐喝シ取締役ハ畏怖ノ念ヲ起シタル結果
第三者ニ委託シ第三者ヲシテ法人ノ爲メ財物ヲ立替ヘ恐喝者ニ交付セ
シメタルトキハ恐喝ニ因リ財産上ノ損害ヲ蒙ムリタル者ハ法人ニシテ
財産上不法ノ利益ヲ受ケタル者ハ恐喝者ナリトス

三三九

○恐喝罪ノ成立ニハ被害者ト被恐喝者トハ同一ナルコトヲ要セサレハ被
害者ノ財産ニ付キ處分ヲ爲スノ權限又ハ地位ヲ有スル者ヲ恐喝シテ畏
怖ノ念ヲ生セシメタル結果トシテ其財産ニ損害ヲ加フルコトニ因リ自
己カ財産上不法ノ利益ヲ得ル以上ハ恐喝罪ヲ構成スルモノトス

三三九

○恐喝ノ結果土地所有者カ所有權移轉ノ意思表示ヲ爲シタル以上ハ所有
權ハ直ニ恐喝者ニ移轉スヘキモノナルヲ以テ刑法第二百四十九條第二
項ニ所謂財産上不法ノ利益ヲ得タルモノニ外ナラス

二〇九五

○恐喝ニ因リテ得タル財産上ノ利益カ消極的ニシテ而モ一時的ニ止マリ
永久的ニ之ヲ保持スル能ハス又積極的ニ利得スル所ナシトスルモ恐喝
罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

四九六

○恐喝罪ノ手段トシテ通知シタル害惡ノ實現カ縱令違法ニ非ストスルモ
之ヲ告知シテ不法ニ財産上ノ利益ヲ得タル以上ハ恐喝罪ヲ構成スルモ
ノトス

六

二二〇六

(參照)

犯人カ先ッ人ヲ恐喝シテ被害者又ハ第三者ヨリ財物ノ交付ヲ受ケヘキ形式的名義ヲ取得シ更
ニ此名義ニ基キ財物ノ交付ヲ受ケ又ハ之ヲ受ケントシタル場合ニハ其形式的名義ヲ取得シタ
ル時ニ於テ既ニ刑法第二百四十九條第二項ノ犯罪ヲ構成ス從テ其財物授受ノ有無ハ之ヲ問フ
ノ要ナキモノトス(第二百四十六條四四年七四七頁其一參照)

(第二百五十一條)

『第二百五十一條』

四二

二二九三

○親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ成立ニ必要ナル實體的條件ニ非スシテ其
訴追ヲ被害者ノ意思ニ係ラシムル形式の條件ニ外ナラス從テ或犯罪事
件カ其起訴ノ當時效力ヲ保有セル訴訟手續ニ準據シテ適法ニ裁判所ニ
繫屬シタル以上ハ爾後法律ノ改正ニ依リ其犯罪ヲ親告罪ト爲スモ之カ
爲メ起訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

四二

一〇七三

○刑法實施前親族ニ對シテ詐欺取財未遂罪ヲ犯シタル者カ其當時既ニ起
訴セラレタル場合ニハ刑法第二百五十一條同第二百四十四條ヲ適用ス
ヘキモノニ非ス

四二

九四〇

○合資會社ハ法人ナルヲ以テ犯罪行爲ニ因リ會社ニ損害ヲ加ヘタル以上
ハ同會社ノ社員カ加害者ノ直系親族ナレハトテ刑法第二百四十四條同
第二百五十一條ヲ適用シ其刑ヲ免除スヘキモノニ非ス

四五

八五六

○差押債務者ト共謀シ虛偽ノ債權ニ基キ配當加入ヲ爲シ因テ動産及ヒ不

○動産ノ競賣金ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ場合ニ動産競賣金騙取未遂ノ點ニ付テハ刑法第二百四十六條第一項同第二百五十條ヲ適用スルヲ以テ足ルト雖モ不動産競賣金ノ騙取未遂ニ付テハ同法第二百五十一條ニ依リ同第二百四十二條ヲ適用セサルヘカラス

(同主旨)

不動産ノ競賣ニ因ル賣得金ノ所有權ハ債務者ニ屬スルモノナルヲ以テ債務者カ右賣得金ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所爲ハ刑法第二百五十一條ニ依リ第二百五十二條ヲ適用シテ後始メテ同法第二百四十六條第一項第二百五十條ヲ適用處斷スルコトヲ得ルモノトス

○自己ノ利益ノ爲メニ他人ノ物件ヲ占有スル者カ其親族ノ爲メニ右物件ヲ騙取セラレタル場合ニ於テハ被害者タル地位ニ在リト雖モ他ニ所有者タル被害者存スルヲ以テ占有者ノ告訴ナキヲ理由トシテ該犯罪ヲ不問ニ付スルヲ得ス

○刑法第二百四十二條同第二百五十一條ノ規定ハ占有者カ適法ニ其占有權ヲ以テ所有者ニ對抗シ得ル場合ニ限リ適用セラルヘキモノトス

○恩給年金ノ帶有者カ其證書ヲ債權擔保ノ爲メ債權者ニ交付シタル後債權者ノ意ニ反シ又ハ之ヲ欺罔シテ其占有ヲ回復スルコトアルモ刑法第二百五十二條同第二百五十一條ニ依リ竊盜罪又ハ詐欺罪ニ問擬スヘキモノトス

第二十八章 横領ノ罪

○私書變造及ヒ其行使罪ト横領罪トノ間ニ因果ノ關係アルトキハ刑法第五十四條ニ依リ重キニ從ヒ一罪トシテ之ヲ處分スヘキモノトス故ニ該犯罪ノ一部ニシテ重罪ナル以上ハ重罪ノ手續ヲ以テ其全部ヲ審理セサルヘカラス

○刑法第二百五十二條乃至第二百五十四條ノ横領罪ノ目的物タル他人ノ物ニハ當然共有物ヲモ包含スルモノトス

○横領罪ニハ常ニ背任行爲ヲ包容スルヲ以テ一箇ノ行爲ニ對シ横領罪ト背任罪ノ兩立シ得ヘキモノトス

(反對)

銀行支配人カ自己ノ利益ヲ圖ルノ目的ヲ以テ其銀行ニ對スル債務ノ擔保トシテ差入レ且躬ヲ保管スル自己所有ノ物件ヲ擅ニ取出シテ賣却シ其代金ヲ銀行ニ辨濟セサル所爲ハ刑法第二百五十七條ニ該當ス而シテ其物件カ若シ他人ノ所有ニ屬スルトキハ被告ノ行爲ハ一箇ニシテ背任罪及ヒ横領罪ノ二罪名ニ觸ルルモノトス

○荷モ犯人カ自己ノ占有スル他人ノ物件ニ付キ所有者ヲ排除シテ自己ノ爲メ其占有ヲ持續スル以上ハ其目的カ物ノ經濟的價値ノ利用ニ存スル

七 二二九

四 二〇七

四 五八七

四 八五六

四 二三五

二 六二五

四 二九八

三 一四八三

七 二二九

ト將タ又他ノ事由ニ因リ不法ニ之ヲ抑留センカ爲メナルトヲ問ハス常ニ横領罪ヲ構成スルモノトス

(同主旨)

横領罪ニ於ケル他人ノ物ヲ不正ニ領得スル意思ノ實行ハ之ヲ不法ニ處分スルニ依テ見ハルルコトアルノミナラス又之ヲ不法ニ抑留スルニ依テ見ハルルコトアリ故ニ恣ニ所有者ヲ排除シテ自己ノ爲メ其占有ヲ持續スルニ於テハ横領罪ノ成立スルコト疑ナ容レズ

○刑法横領罪ノ規定ニ所謂占有トハ必スシモ物ノ握持ノミヲ指スニ非ス事實上及ヒ法律上物ニ對スル支配力ヲ有スル状態ヲ汎稱スルモノトス

(同主旨)

刑法ニ所謂占有ト認ムルニハ物ヲ現實ニ支配スルヲ以テ足り必スシモ之ヲ握持スルノ事實アルコトヲ要セス

○自己ノ占有スル物ニ付テハ騙取ノ觀念ヲ容レズ故ニ之ヲ自己ニ領得スルニ付キ詐欺ノ手段ヲ用ヒタレハトテ横領罪ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス

(同主旨)

自己ノ占有ニ係ル他人ノ金錢ヲ横領スルニ當リ詐欺ノ手段ヲ用ウルモ其所爲ハ横領罪ニシテ詐欺罪ニ非ス
他人ノ物ヲ占有スル者カ之ヲ横領シタルトキハ常ニ刑法第二百五十二條以下ノ規定ヲ適用スハキモノトス故ニ其物ヲ横領スルノ手段トシテ欺罔ノ行爲アリタル場合ト雖モ別ニ詐欺罪ヲ

四	四	四	四	四	四	四
九四	八九七	四五七	六〇五	四五七	一四三	二二四

(第二百五十二條)

構成スルコトナシ
自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタルトキハ其目的ヲ達スル手段トシテ欺罔行爲ヲ施スモ其行爲ハ横領罪ヲ構成スルニ止マリ別ニ詐欺罪ヲ構成セス

○横領トハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不正ニ領得スルノ意思ヲ實現セシムル一切ノ行爲ヲ謂フモノニシテ共犯者ニ對シ物ヲ交付スルノ事實ニ依リ右不正領得ノ意思ノ實現ヲ認ムルコトヲ得ルモノトス

『第二百五十二條』

○横領罪又ハ舊刑法ノ委託物消費罪ニ於ケル騙取若クハ詐欺ノ所爲ハ其金品ノ横領消費等ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ之ヲ施スヲ以テ足り必スシモ該金品ノ處分ニ付キ意思能力ト行爲能力トヲ兼有スル者ニ對シテ之ヲ施ササルヘカラサルモノニ非ス

○他人ヨリ金錢ノ寄託ヲ受ケタル者カ其委託ノ本旨ニ違ヒテ擅ニ之ヲ費消スルトキハ刑法ニ所謂横領ノ罪ヲ構成ス而シテ費消者カ之ヲ辨償スル資力又ハ意思ヲ有スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○刑法第二百五十二條第一項ニ所謂横領トハ犯人カ占有スル他人ノ物ニ關シ權利ナキ處分行爲ヲ爲スノ義ナリ

○横領罪ニ於ケル横領トハ他人ノ物ノ經濟的價值ヲ不法ニ領得スルノ謂

四三	四四	六	四二	四二	四二	四二
二二四	五八七	八八六	六四二	七五九	九一七	九一七

ナリ從テ犯人カ財物ノ委託者若クハ其他ノ利害關係人ニ對シテ欺罔手段ヲ施シ横領ノ意思ヲ實行スル場合モ亦之ニ包含セラレヘキモノトス

○自己ノ占有セル他人ノ財物ヲ横領スルニ付キ欺罔手段ヲ用キタル場合ニ於テ犯人カ財産上不法ノ利益ヲ得タリトスルモ是レ横領罪當然ノ結果ニ外ナラサレハ別ニ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○他人ニ交付スル爲メ委託ヲ受ケタル金圓ヲ擅ニ其委託者ニ對シテ有スル債權ノ辨濟ニ充當シタル以上ハ他人ノ金圓ヲ横領セシモノナルヲ以テ其債權ノ存在ハ犯罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

○他人ノ所有ニ屬スル未登記ノ建物ヲ自己ノ所有物ト詐リ其保存登記申請ヲ爲シ不實ノ登記ヲ受クルモ犯人ハ法律上未タ有效ニ其建物ヲ處分シ得ヘキ状態ニ在ラサルヲ以テ刑法上他人ノ不動産ヲ占有スルモノト云フヲ得ス

○犯人カ保管ニ係ル金品ヲ不正ニ領得スルノ目的ヲ以テ其返還ヲ免ルヘキ事實上ノ状態ヲ作爲シタルトキハ横領罪ヲ構成ス

○公債證書ノ寄託ヲ受ケタル者カ擅ニ他人ニ對シ商品仕入代金ノ擔保ニ供スルコトヲ承諾シテ之ヲ交付シタルトキハ即時ニ横領罪ヲ構成ス而シテ被交付者カ該證券ヲ仕入先ニ交付シテ使用ノ目的ヲ遂ケタルヤ否

ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

○當事者ノ意思ニ依リ紙幣一枚ヲ特定物トシテ寄託シタル場合ニ於テハ受託者カ擅ニ處分シタル數額ニシテ計算上受託額ノ幾分ニ過キサルトキト雖モ尙ホ寄託物ノ全部ニ對シテ横領罪成立スルモノトス

○賣買ニ因リ不動産ノ所有權買主ニ移轉シタルニ拘ハラズ登記簿上其所有名義カ依然トシテ賣主ニ存スルトキハ該不動産ハ賣主ニ於テ有效ニ處分シ得ヘキ状態ニ在ルヲ以テ賣主ハ刑法上他人ノ不動産ヲ占有スルモノトス

○共犯者ノ一人カ其占有セル他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル意思實行ヲ爲スニ於テハ縱シヤ他ノ共犯者カ該物件ヲ占有セサルモ其總員ニ對シテ即時ニ横領罪ヲ構成スルモノトス

○質權者カ債務者ノ承諾ナクシテ質物ヲ擔保ニ供シタル所爲ハ横領罪ヲ構成ス

○横領罪ハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不法ニ處分スルニ因テ成立シ其處分ノ目的カ自己ノ爲メニスルニ在ルト否トハ本罪ノ構成ニ何等ノ影響ヲ及ホサス

○他人ヨリ金圓借受方ノ委託ヲ受ケ擔保物ヲ交付セラレタル者カ其委託

四三

一五〇五

四三

一五五六

四四

三二

四四

四〇五

四四

四二〇

四四

六〇五

四三

一七五

四三

一七五

四三

二七二

四二

六二五

四三

一三三三

ノ範圍外ニ於テ自己ノ爲メニ該擔保物ヲ利用シ委託以外ニ金圓ヲ借受ケタルトキハ横領罪ヲ構成スルモノトス

四四

二八五

○如上ノ場合ニ於テ縱令其物件ハ委託者ノ爲メニモ擔保トシテ之ヲ利用シタリトスルモ孰レノ部分力之ヲ委託者ノ爲メニ利用シタリヤ確的ニ之ヲ識別スルニ由ナキヲ以テ該横領行爲ハ受託物件全體ニ付キ成立スルモノト認メサルヘカラス

四四

二八五

○一旦横領シタル他人ノ物件ニ付キ重ネテ處分行爲ヲ爲スモ是レ前ノ横領罪ニ包含處罰セラルヘキ行爲ニ外ナラサルヲ以テ別ニ犯罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

四四

二八五

(同罪旨)

苟モ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不正ニ領得シタル以上ハ即時ニ横領罪成立スルモノトス而シテ其領得以後該目的物ニ對スル處分行爲ノ如キハ更ニ別罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

四三

一七四五

○横領罪ハ自己ノ支配内ニ在ル他人ノ所有物ヲ不法ニ自己ニ領得スル意思實行アルニ因リテ成立スルモノナレハ苟モ他人ノ所有物ニ對シテ不法ニ其經濟的價值ヲ利用收得若クハ處分スルニ於テハ其結果或ハ物質的ニ自己ヲ満足セシメサル場合アリトスルモ其行爲ハ他人ノ所有物ヲ自己ニ領得シタルモノニ外ナラサルヲ以テ横領罪ノ成立ヲ妨ケス

四四

一七四五

○土地ノ假裝賣買ニ因ル登記簿上ノ名義人カ擅ニ之ヲ自己ノ物トシテ他人ニ借貸シタル以上ハ該地所ニ關シ不正ニ領得スル意思ヲ外部ニ表現セシメタルモノナルヲ以テ横領罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

四五

五四五

○登記簿上不動産ノ所有名義ヲ有スル者ハ眞ノ所有者ニ非サルモ第三者ニ對シ有效ニ處分シ得ヘキ状態ニ在ルモノナルヲ以テ刑法上他人ノ不動産ヲ占有スルモノトス

四五

五七六

(同罪旨)

假裝ノ賣買ニ因リ登記上或土地建物ノ所有名義ヲ有スル者ハ刑法ニ所謂他人ノ物ノ占有者ナリトス從テ其土地建物ヲ擅ニ賣却シタル所爲ハ同法第二百五十二條ノ横領罪ヲ構成ス

四二

五四

○二十三名ノ共有不動産ニ關シ二十一名ノ持分ニ付キ登記名義人ト爲リタルニ過キサル場合ニ於テハ刑法第二百五十二條ニ規定スル占有者ニ非サルヲ以テ縱令自己ノ名義ニ於テ登記シタル持分ニ抵當權ヲ設定シ依テ之ヲ不法ニ處分スルモ横領罪ヲ構成スルコトナシ

四五

九七七

○刑法第二百五十二條及ヒ第二百五十三條ノ横領罪ノ目的物ハ自己ニ領得スル意思ニ非スシテ占有ヲ始メタルモノナラサルヘカラス故ニ當初ヨリ自己ニ領得スル意思ヲ以テ不法ニ他人ノ物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメタル場合ニ於テハ竊盜詐欺其他ノ犯罪ヲ構成スヘキモ之カ費消其他

ノ處分行爲ニ因リテ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○甲ハ他人ニ對スル贈物ノ金圓支辨ノ任ヲ負ヒ乙カ其配付方ヲ擔當シタル場合ニ於テ乙カ一時其信用ヲ利用シ自己ノ名義ヲ以テ買入レタル反物ハ甲ノ事務ノ處理上自己ノ名義ヲ以テ第三者ヨリ買取リタル物ニ外ナラサルヲ以テ其所有權ハ乙ニ存スルモノトス從テ乙ニ於テ之ヲ處分スルモ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○他人ノ委託ニ因リ取立テタル賃料ヲ費消シタルカ爲メ欺罔手段ヲ用キテ其支拂義務ヲ免レントスルモ將タ又未タ賃料ノ占有中之ヲ引渡サザリシカ爲メ欺罔手段ヲ施シ其支拂義務ヲ免レントシタリトスルモ孰レモ横領罪ノ外別ニ詐欺罪ヲ構成スルモノニ非ス

○特定物ノ借主カ他人ヲシテ自己ニ代リテ借用物ヲ握持セシムルモ借主ハ其物ニ對スル現實ノ支配力ヲ失フモノニ非サルヲ以テ刑法上ノ占有者ナリトス

○物ノ占有者ニ非スト雖モ占有者ト共謀シ不正ニ其物ヲ處分シタル以上ハ横領罪ヲ構成スヘク其處分行爲カ犯人以外ノ第三者ニ對シ行ハレタルト犯人相互間ニ行ハレタルトヲ區別スヘキ理由ナシ

○同左

有占者ニ非サル者カ他人ノ物ノ占有者ト共謀シ横領ノ目的ヲ以テ其占有者ヨリ自己ニ物ノ占有ヲ移スノ行爲ハ横領ノ意思實行ニ外ナラサルヲ以テ刑法第六十五條第一項及ヒ第二百五十二條第一項ニ該當スル横領罪ヲ構成スルモノトス

○村長カ村ノ基本財産ヲ以テ貸付ケタル債權ニ對スル返金又ハ基本財産ノ賣却代金等ヲ直接ニ受領スルモ其手續ハ違法ニシテ金員ノ所有權ハ村ニ歸屬スルモノニ非ス從テ村長カ該金員ヲ占有中横領シタル所爲ハ單純ノ横領罪ヲ構成スルニ止マリ業務上ノ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○見本ハ取引スヘキ商品ノ品質ニ關スル標準ニ過キサルモノトス從テ其見本タル性質ヲ變セサル限ハ法律ニ於テモ將タ慣例ニ於テモ取引ノ目的物ト爲リ得ルモノニ非サレハ單ニ見本トシテ預リタル物品ヲ其預リタル旨趣ニ反シ擅ニ他ニ賣却シタル行爲ハ横領罪ヲ構成ス

○會社ノ爲メ不用品賣却ノ事務ヲ擔任スル役員カ當初ヨリ賣却代金ヲ自己ニ領得スルノ意思ヲ以テ會社ノ不用品ヲ相當價格ニ賣却シ乍ラ低價ニ賣却シタルモノノ如ク裝ヒ其差額ヲ領得シタルトキハ縱令犯人ト買主トノ間ニ金圓ノ授受ヲ了シタリトスルモ純然タル背任行爲ニシテ横領ノ行爲ニ非ス

○他人ノ財物ヲ占有スル者カ事務管理トシテ所有者ノ爲メニ之ヲ支出シ

四五

九八四

三

六二五

三

一〇六一

三

一一三九

三

一一二八

四四

一一二七

三

一一三〇

三

一一三三

三

一一三七

○親族間ノ横領行爲ニ對シ刑法第二百五十二條ヲ適用スルニ當テハ單ニ被告ト被害者トノ間ニ親族關係アルコトヲ指示スルノミヲ以テ足レリトセス進テ其親族關係カ同第二百四十四條第一項前段列記ノ者ニ該當セサルコトヲ判示セサルヘカラサルモノトス

(同主旨)

親族間ノ横領行爲ニ對シ刑法第二百五十二條ヲ適用スルニ當リテハ單ニ犯罪者ト被害者トノ間ニ親族關係アルコトヲ指示スルニ以テ足レリトセス同法第二百四十四條第一項前段列記ノ者ニ該當セサルモノナルコトヲ判示セサルヘカラス

○受寄者カ寄託者ヨリ一定ノ事務ヲ處理スルノ委任ヲ受ケ其事務ノ處理ニ關シ寄託者ノ利益ノ爲メニノミ使用スヘキ條件ヲ以テ金錢ヲ受領シタル場合ニハ其金錢ノ所有權ハ受寄者ニ移轉スヘキモノニ非ス從テ之ヲ自己ノ用途ニ費消スルトキハ横領罪ヲ構成スルモノトス

○横領ノ目的物カ數人ノ共有ニ係ル場合ニ於テハ犯人カ共有者ノ一人ナルト否トニ拘ハラズ其行爲ハ共有者各個ノ持分ニ對シ行ハレタル多數ノ權利侵害ニ非スシテ各共有者カ共同シテ有スル所ノ單一ノ所有權ニ對スル侵害ニ止マルモノトス

(同主旨)

數十名ノ共有ニ屬スル積立金ヲ連續シテ横領シタル場合ニ於テハ之ニ因リテ侵害シタル法益ハ共有ニ屬スル一箇ノ所有權ニシテ共有者各自ノ有スル持分ニ非ス從テ該横領行爲ハ一箇ニシテ一箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルニ過キス
共有物ノ横領ニ因リテ侵害セラルヘキ法益ハ共有ニ屬スル一箇ノ所有權ニシテ共有者各個ノ有スル持分ニ非ス從テ其行爲ハ一箇ニシテ一箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルニ過キス

○他人ノ物ノ占有者カ第三者ニ對シテ不法ニ其物ヲ賣渡シ若クハ擔保ニ供セントスル意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ此時ニ於テ横領罪ハ直ニ完成シ同時ニ其物ハ贓物ヲ組成スヘキヲ以テ其情ヲ知リテ之ヲ買受ケ若クハ擔保トシテ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ當然贓物ニ關スル罪ノ成立アルモノトス

(同主旨)

自己ノ占有スル他人ノ物件ヲ横領シタル場合ニ在テハ其物件ハ占有者カ權限外ニ於テ之ヲ處置シタルモノナレハ其處分行爲ト同時ニ贓物ヲ組成スルモノトス
甲者カ或團體ノ爲メニ會員ヨリ金圓ヲ集取シタル後擅ニ別途ノ使用金トシテ乙者ニ交付シ乙者其情ヲ知テ之ヲ收受シタルトキハ該會員ハ交付ニ因テ横領罪ノ贓物ト爲リ其交付ヲ受ケタル所爲ハ贓物ノ收受ト爲ルモノトス
苟モ自己ノ占有セル他人ノ物ヲ不法ニ賣渡サントスル行爲アルニ於テハ相手方カ之ヲ買受ケル意思表示ヲ爲スヲ疎タズシテ横領罪ハ完成シ其領得物ハ贓物タルノ性質ヲ具有スルモノト

四五 三 四 四三 四四

三七七 九六六 一一二 七 四六三

三

一五八

三

二九四

三

一〇六七

三

二四〇一

三

二四〇一

ス從テ情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル相手方ノ行爲ハ横領罪ノ共犯ニ非スシテ贓物故買罪ニ該當スルモノトス

○横領罪ノ目的物ハ單ニ犯人ノ占有スル他人ノ所有物ナルヲ以テ足レリトシ必スシモ物ノ給付者ニ於テ民法上其返還ヲ請求シ得ヘキモノナルコトヲ要セス

(同主旨)

○公務員ニ贈賄スル目的ヲ以テ他人ニ金錢ヲ委託シタル者ハ民法第七百八條ニ依リ其取戻ヲ爲スコトヲ得サルモ之ヲ爲メニ該金圓ノ所有權ヲ喪失スヘキモノニ非ス

被告カ不法ノ原因ノ爲メ物ノ給付ヲ受ケタル場合ニ於テ給付者ハ民法ニ依リ物ノ返還ヲ請求シ能ハサルトキト雖モ之ヲ爲メニ其所有權ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ被告ノ占有セル物ハ依然他人ノ所有物トシテ存續スルモノトス

○民法上不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得スト雖モ之ヲ爲メニ給付者カ其物ニ付キ所有權ヲ喪失スルモノニ非サルヲ以テ給付ノ受領者カ不法ニ之ヲ領得スルニ於テハ自己ノ占有セル他人ノ物ヲ横領スル行爲ニ該當スルモノトス

○自己ノ占有スル他人ノ白紙賣渡證書ヲ横領シ之ヲ材料トシテ文書ヲ偽造シタル場合ニ於テハ横領ト偽造トハ手段又ハ結果ノ關係ヲ有セス各獨立罪ヲ構成スルモノトス

○甲カ其弟乙及ヒ丙ト或不動産ヲ三分シ各所有部分ヲ定メ之ヲ授受シ各自耕作シ居リタル場合ニ於テ甲ノ子丁カ其事實ヲ知り乍ラ擅ニ相續登

記又ハ保存登記ヲ爲シ全部自己ノ所有名義ト爲スモ該不動産中乙及ヒ丙ノ所有部分ニ付テハ右ノ登記ハ法律上何等ノ效力ヲ生セサルヲ以テ丁ハ之ニ依リ其不動産ノ占有者ト爲ルモノニ非ス

○森林主事ハ其職務上當該森林ヲ保護看守スルニ過キスシテ其森林ノ樹木ニ付テハ法律上及ヒ事實上之ヲ支配スル地位ニ在ラサルヲ以テ刑法第二百五十二條及ヒ第二百五十三條ノ所謂占有者ニ該當セス

○横領罪ノ成立ニハ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ自己ノ物トシテ領得セントスル意思ノ實現アルヲ以テ足リ必スシモ之ヲ處分隱匿シ又ハ其占有ヲ喪失シタリト詐稱スルコトヲ要セス

(同主旨)

横領罪ノ成立ニ必要ナル横領ノ行爲ハ犯人カ他人ノ物ヲ自己ノ物トシテ不正ニ領得スルノ意思ヲ有シ此意思アリト認ムヘキ外部行爲ヲ實行シタルノミヲ以テ足リ必スシモ其目的物ニ對シ消費交換若クハ贈與等ノ處分行爲ヲ爲スコトヲ要セス

○横領罪ハ犯人ニ於テ自己ノ占有セル他人ノ物ヲ自己ニ領得スル意思ヲ發現スル行爲アリタル瞬間ニ於テ完成シ特ニ其物ニ對スル處分行爲ノ完了ヲ要セサルモノトス

○組合財産ハ總組員ノ共有ニ屬スルモノナレトモ一部ノ組員ニ於テ擅ニ之ヲ横領シタルトキハ該共有物ノ全部ニ付キ横領罪成立スルモノトス

七二四

一五七六

一三六一

一五三二

一三九三

二〇二九

一〇一七

一三〇二

一三三〇

二二二九

二二二

一四四四

(同左旨)
 共有金ノ分割前ニ於テハ共有者ノ一人ハ持分ヲ有スルニ過キササルヲ以テ若シ自己ノ爲メニ之ヲ費消シタルトキハ其費消セル金錢ノ全額ニ付キ横領罪ヲ構成スルモノトス
 共有金ノ分割前ニ在テハ共有者ノ一人ハ単ニ持分ヲ有スルニ過キササルヲ以テ之ヲ横領シタルトキハ其金員ノ全額ニ付キ横領罪ヲ構成スヘキモノトス
 共有物ノ分割前ニ在テハ各共有者ハ其物全部ニ付キ持分ヲ有スルニ過キササルヲ以テ之ヲ占有セル共有者ノ一人カ自己ノ爲メニ費消シタルトキハ其費消セル全額ニ付キ横領罪ヲ構成スルモノトス

- 一箇ノ横領行爲ニ依リ包括的ニ單一ナル寄託關係ヲ侵シタル場合ニハ所有者ノ多數ナルトキト雖モ單純ノ一罪ヲ構成スルニ止マルモノトス
- 贓金受領ノ際之ヲ知ラサル點ニ付キ過失アリタルトキハ該金圓ノ上ニ行使スル權利ヲ取得セサルト同時ニ之ヲ還付セサル以上其時ヨリ本所有主ノ爲メ該金ヲ保管スル法定義務ヲ負擔スヘキモノナレハ之ヲ費消スルトキハ横領罪ヲ構成スルモノトス
- 雇人カ雇主ノ居宅ニ於テ雇主ノ物品ヲ販賣スル場合ニ在テハ其物品ハ雇主ノ占有ニ屬シ雇人ノ占有ニ屬スルモノニ非ス從テ雇人カ雇主ノ右占有ヲ侵ストキハ竊盜罪ヲ成立シ横領罪ヲ以テ論スヘキモノニ非ス
- 代理人タル被告甲カ本人タル乙ニ對シ現實ニ丙會社ヨリ買渡ヲ受ケタル物品ノ正數ニ對スル代金トシテ乙ヨリ受領シタル金員ハ受領ノ當時心裡ニ如何ナル不法意思ヲ懷抱スルモ横領ノ物體タルニ妨ナキモノトス

四	二	三	五	六	七
五九	二三	二六〇	一五〇	一〇九	三

- 苟モ自己ノ占有スル他人ノ物ヲ不正ニ領得シタル以上ハ横領罪ハ完全ニ成立スルモノニシテ其所有者ノ何人ナルヤハ之ヲ確定スルノ要ナキモノトス
- 自己ノ占有中ニ在ル他人ノ不動産ヲ自己ノ物ナリト主張シ之カ返還竝ニ登記簿上ノ名義書換ヲ拒ミタル所爲ハ横領罪ニ該當シ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニ非ス
- 苟モ自己ノ占有スル他人ノ物ニ付キ不法領得ノ意思ヲ表象スル行爲アル以上ハ横領罪ヲ構成シ其行爲カ法律上所有權移轉其他何等效果ヲ生セス從テ法律上所有者ノ權利行使ニ障礙ヲ與ヘサルモ該犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス
- 倉荷證券ノ所持人ハ寄託物ヲ任意ニ處分シ得ヘキ地位ニ在ルヲ以テ刑法上其寄託物ノ占有者ト認ムヘキモノトス
- 無盡ノ組織ニシテ組合員ノ醸出シタル金額カ抽籤又ハ落札ニ依リ其歸屬ノ定マル迄ハ組合員ノ共有タルヘキ場合ニ於テ脱會者又ハ掛金延滞

七	七	七	七	七	七
二七四	二三三	九〇九	八八五	八一五	七

者ノ持口ヲ會社持トシ其持口ニ相當スル掛金ヲ爲ササルニ拘ハラス之ヲ爲シタルカ如ク裝ヒ多數ノ組合員ヲ欺キ當籤又ハ落札ヲ爲シ因テ正當ノ權利アル會員ノ當籤及ヒ落札ノ機會ヲ阻害スルトキハ其阻害ハ組合員ノ錯誤ニ陥リテ爲シタル意思表示ノ結果ニ非ス之カ意思表示ヲ待タスシテ自己ヲ利セントスルモノナルヲ以テ之ニ因テ其抽籤又ハ落札ニ相當スル現在ノ釀出金ヲ領得スル行爲ノ如キハ横領罪ヲ構成スルコトアルモ詐欺罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○公務員ノ爲シタル職務行爲ハ即チ公務所ノ行爲ニ外ナラサレハ刑法第二百五十二條第二項ニ所謂公務所ニハ其之ヲ構成スル所ノ公務員ヲ包含ス

○執達吏ハ執達吏規則ニ依リ公務ニ従事スル吏員ナルヲ以テ執達吏役場ハ刑法ニ所謂公務所ニ該當シ執達吏ノ職務上ノ行爲ハ執達吏役場ナル公務所ノ行爲ナリトス

○公示ノ方法ニ依リテ差押ヘラレタル物ヲ費消シ竝ニ費消ノ目的ヲ以テ其物ニ施サレタル封印ヲ解キタル所爲ハ法律上一箇ノ所爲ナルモ一面差押ノ目的物ヲ擅ニ處分セントスル意思ヲ實行シ他ニ差押ノ方法タル公示書及ヒ封印ノ實效ヲ失ハシメタルモノナレハ一箇ノ所爲ニシテ數

箇ノ罪名ニ觸ルルモノトス

○封印標示ノ破毀若クハ抹消行爲ハ法律上當然刑法第二百五十二條第二項横領罪ノ構成要素中ニ包含セラルヘキモノニ非スシテ同法第九十六條ノ罪名ニ觸ルルモノト解スルヲ相當トス

第二百五十三條

【第二百五十三條】

○刑法第二百五十三條ハ其所謂業務及ヒ他人ノ範圍ニ付キ何等ノ制限ヲ爲ササレハ業務トハ總テノ業務若クハ職業ヲ汎稱シ其執ル所ノ事務カ自己ノ爲メタルト否トヲ區別セス又他人トハ自己以外ノ者ヲ總稱シ其占有スル物ノ所有カ何人ニ屬スルヤヲ問ハサルモノトス

○仲立人カ其媒介ヲ依頼セラレタル行爲ニ付キ當事者ノ一方ヨリ豫メ給付ノ目的物ヲ受領スルコトハ商法ノ認許セサル所ナルヲ以テ其受領行爲ハ仲立人ノ業務上ノ行爲ナリト云フヲ得ス

○仲立人カ其媒介シタル行爲ニ付キ當事者ノ一方ヨリ受領セル金品ヲ横領シタル所爲ニ對シ刑法第二百五十三條ヲ適用スルニハ其受領行爲ハ商法第三百七條所定ノ見本ニ關スルモノナルカ又ハ當事者ノ意思表示若クハ慣習上之ヲ其業務ニ屬スルモノト爲シタル事實ヲ判定セサルヘカラス

二七

四 三

六 三

四 六二

四 九七

四 二四五

七 一四七

四 一三〇六

二 八四

(同罪)
仲立人カ其媒介シタル賣買行爲ニ付キ買主ヨリ代金ヲ受取リタル後、之ヲ自己ノ用途ニ費消シタル場合ニ於テ其代金ノ受領カ賣買當事者ノ別段ノ意思表示不又ハ慣習ニ依リタルモノナルコトヲ明確ニセスシテ漫然刑法第二百五十三條ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

四二

九七一

○苟モ自己ノ職務トシテ或事務ヲ執ル以上ハ雇人カ主人ノ事務ヲ取扱フ場合ト雖モ其所爲ハ刑法第二百五十三條ニ所謂業務上ノ行爲ニ外ナラス

四三

七九七

○金錢ノ出納ニ關シ全責任ヲ負フヘキ分任出納官吏ノ命ニ從ヒ現金ノ出納ヲ爲ス者ト雖モ苟モ職務ヲ以テ其金員ノ取扱ヲ爲ス際之ヲ横領シタルトキハ業務上ノ横領罪ヲ構成ス

四四

五八四

○村長カ町村内ニ於ケル區ノ所有ニ係ル不動産ヲ競賣シ其競落代金ヲ保管中擅ニ之ヲ自己ノ用途ニ費消シタル所爲ハ業務上自己ノ占有スル區ノ財産ヲ横領シタルモノナルヲ以テ刑法第二百五十三條ニ依リ處罰スヘキモノトス

四四

八八三

○郡長カ日本赤十字社ノ囑託ニ因リ該社員ノ年醜金及ヒ寄附金ノ出納其他ノ事務ニ従事スル以上其事務ハ素ヨリ郡長タル職務ノ範圍内ニ屬セスト雖モ刑法第二百五十三條ニ所謂業務ニ該當スルモノトス

四四

八九〇

○三等郵便局ノ通信事務員ハ其局長ヲ補助シ通信ニ關スル諸般ノ事務ニ従事スルモノナルヲ以テ同局長ニシテ爲替資金ヲ保管スヘキモノナル以上ハ其補助機關タル通信事務員ニ於テモ職務上之ヲ保管スヘキハ當然ナリ從テ該資金ヲ横領シタル所爲ハ業務上ノ横領罪ナリトス

四四

一〇八一

○通信事務員カ横領又ハ竊取シタル郵便貯金通帳ノ記入金額ヲ引出シタル行爲ハ郵便局員ヲ欺罔シ財産上不法ノ利益ヲ得タルモノナレトモ右横領又ハ竊盜ノ外ニ別罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ刑法第五十四條ノ適用ナシ

四四

一一三

○町村カ郡制第九十條ニ依リ町ニ分賦セラレタル郡費ヲ郡役所ヘ納入スルハ上司ノ指令ニ依リ町長ニ委任セラレタル事務ノ一部ナルヲ以テ町長カ收入役ヨリ右分賦ニ係ル郡費ヲ受取リタルトキハ職務上之ヲ保管スルノ責アルモノト云ハサルヘカラス從テ擅ニ之ヲ費消シタルトキハ刑法第二百五十三條ノ横領罪ヲ構成スルヤ論ヲ竣タス

四四

一四三五

○村長カ收入役ト共謀ノ上犯意ヲ繼續シテ數回ニ收入役ノ保管ニ係ル公金ヲ横領シタルトキハ刑法第六十五條ニ依リ同法第二百五十三條同第五十五條ニ該當スル横領罪ノ共犯ナリトス然レトモ村長ハ占有者タル身分ナキ者ナルヲ以テ單ニ同第二百五十二條第一項ノ刑ヲ科スヘキモ

ノトス

○公金保管者カ正當ノ手續ヲ經スシテ其所有者ノ爲メニ之ヲ費消シタルモノナルトキハ縱令制規ノ支出手續ノ履マサル違法アリトスルモ之ヲ以テ自己ニ領得スル意思實行アリト云フヘカラス

○收入役ノ代理ニ關スル郡長ノ許可カ縱令法律ノ規定ニ適合セストスルモ收入役代務者トシテ其職務ヲ掌リ自己ノ業務トシテ金品ヲ保管占有中之ヲ横領シタル所爲ハ刑法第二百五十三條ニ該當スルモノトス

○人民總代ナル者ハ一定ノ職務ヲ有スル一定ノ地域ニ於ケル住民團體ノ私的代表機關ニ過キスト雖モ人民總代トシテ一定ノ事務ヲ有シ之ヲ常業トシテ行フ以上ハ收入ノ有無ト事務ノ性質トヲ問ハス之ヲ刑法上ノ業務ト云フヲ妨ケス

○人民總代及ヒ漁業組合理事ナル二箇ノ資格ヲ有スル者カ各別ニ業務上占有セル大字住民及ヒ漁業組合ナル二箇ノ團體ニ分屬スル財産ヲ横領スル行爲ヲ連續シタルトキハ業務上ノ横領罪ナル一箇ノ連續犯成立スヘキモノトス

○如上ノ場合ニ於テ縱令一箇ノ行爲カ普通ノ横領罪ニ該リ他ノ一箇ノ行爲カ業務上ノ横領罪ニ當ルトスルモ右二箇ノ行爲ニシテ犯意ヲ繼續シ

テ反覆實行シタル場合ニ於テハ之ヲ一括シテ一罪トシ重キ業務上ノ横領罪ヲ以テ論スヘキモノトス

○府縣ノ技手ハ其上官タル土木課長ノ命ニ依リ土木ニ關スル事務ニ從事スヘキ職責ヲ有スルモノナルヲ以テ縣ノ土木課長ヨリ縣立病院ヲ取毀チタル古材木ノ保管ヲ命セラレタル以上ハ職務上之ヲ保管スヘキモノトス

○荷送人カ米穀ヲ荷受人ニ賣渡シタルトキハ荷送人カ之ヲ特定シ運送取扱人ニ交付シタルトキニ於テ既ニ買主タル荷受人ノ所有ニ歸スルモノニシテ荷受人若クハ貨物引換證ノ所持人ハ單ニ該米穀ノ上ニ引渡差止權若クハ擔保權ヲ有スルニ過キサレハ之ヲ占有スル運送人カ買主タル荷受人ニ交付スルモ他人ノ所有物ヲ横領シタルモノト云フヲ得ス

○刑法第二百五十二條及ヒ第二百五十三條ノ横領罪ノ目的物ハ自己ニ領得スル意思ニ非スシテ占有ヲ始メタルモノナラサルヘカラス故ニ當初ヨリ自己ニ領得スル意思ヲ以テ不法ニ他人ノ物ヲ自己ノ占有ニ歸セシメタル場合ニ於テハ竊盜詐欺其他ノ犯罪ヲ構成スヘキモ之カ費消其他ノ處分行爲ニ因リテ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○刑法ニ所謂占有アリト認ムルニハ物ヲ現實ニ支配スルノ事實アレハ則

四四 一五〇

四四 一七五

四五 一〇七

四五 二四四

四五 二四四

四五 二四四

四五 七三

四五 八五六

四五 九八四

チ足ルモノナレハ村長カ其支配内ニ存スル村ノ基本金ヲ保管スル爲メ
 之ヲ銀行ニ預入レタリトスルモ其支配關係ニ毫モ消長アルコトナク刑
 法第二百五十三條ニ所謂自己ノ占有スル他人ノ物ニ該當スルモノトス
 ○村ノ吏員カ其職務上占有セル村有公金ヲ縣會議員軍隊其他ノ歡迎費ニ
 供シタルトキハ縱令其目的カ私利ヲ營ムニ在ラサリシトスルモ村有公
 金ヲ以テ支辨スヘカラサル費用ニ支出シタルモノナルヲ以テ横領罪ヲ
 構成スルモノトス

○村長ハ水難救護法ノ規定ニ依リ遭難船舶救護ノ事務ニ從事シ救護費用
 ヲ船長又ハ船舶所有者ヨリ納付セシメ之ヲ支辨スルノ職務權限アルモ
 ノナレハ右費用ノ保管中之ヲ横領シタルトキハ刑法第二百五十三條ノ
 犯罪ヲ構成スルモノトス

○他人ノ依頼ヲ受ケテ賣却シタル物品ノ代金ハ之ヲ受領スルト同時ニ委
 託金ノ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ依頼者ニ於テ特ニ之カ自由使用ヲ
 許シタル場合ニ非サル限ハ私ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス而シテ又斯ル
 自由使用ノ慣習ハ法律上之ヲ認容シ能ハサルモノナルヲ以テ擅ニ之ヲ
 費消シタル行爲ハ横領罪ヲ構成スルモノトス
 ○土地ノ差配人ハ地所ヲ占有スルモノニ非サルヲ以テ差配人カ土地所有

元	元	二	二	二
二二二	一三六	五三	七二	

者ヲ欺罔シ之ヲ錯誤ニ陥レ其所有ニ係ル地所ヲ自己ニ賣却セシメ之カ
 登記ヲ了セシムルモ詐欺罪ヲ構成スルニ止マリ業務上ノ横領罪ヲ構成
 スルコトナシ

○株式會社ノ取締役社長又ハ專務取締役ハ必スシモ常ニ其業務トシテ當
 然會社財産ヲ保管シ之ヲ占有スルモノニ非サレハ取締役カ會社ノ財産
 ヲ横領シタル場合ニ刑法第二百五十三條ヲ適用センニハ先ツ其業務上
 占有ノ事實ヲ確定セサルヘカラス

○市助役カ他人ト共謀シテ自己ノ保管セル公文書ヲ市役所以外ニ帶出シ
 之ヲ隱匿セシメタル行爲ハ自己領得ノ意思ヲ外形ニ表示シタルモノナ
 ルヲ以テ其行爲ノ終局ノ目的如何ヲ問ハス横領罪ヲ構成スルモノトス

○公務員カ其職務上保管スル金品ハ縱令職務ヲ免セラレタル場合ト雖モ
 事務引繼ヲ爲シタル後ニ非サレハ之カ保管ノ責ヲ免ルルコトヲ得サル
 モノナルヲ以テ擅ニ該金品ヲ費消シタル行爲ハ業務上ノ横領罪ナリト
 ス

(同罪)
 公務員カ其職務上保管スル物件ハ縱令職務ヲ免セラレタル場合ト雖モ事務引繼ヲ爲シタル後
 ニ非サレハ之カ保管ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス從テ其事務引繼ヲ爲スニ當リ該物件ヲ横領シタ

二	二	二	三	三
七六	一〇〇	二四〇	二六〇	五

ル所爲ハ刑法第二百五十三條ノ所謂業務上占有スル他人ノ物ヲ横領シタルモノニ外ナラス
 ○收入役カ業務上保管シタル金員ト村長ヨリ委託ヲ受ケタル村有基本財産ニ屬スル金員トヲ混一シテ保管中數箇ノ連續行爲ヲ以テ横領シタル行爲ハ之ヲ一括シテ其重キ業務上ノ横領罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス
 (同主旨)

村收入役カ公金及ヒ私金ヲ打混シ一括シテ之ヲ保管スル場合ニ於テ連續シテ其幾部ヲ横領シタルトキハ單ニ連續犯タル業務上横領ノ一罪ヲ構成スルノミニシテ數罪ヲ成立セシムルモノニ非ス又別ニ普通ノ横領罪ヲ成立セシムルモノニ非ス

○農會費及ヒ赤十字社年釀金ノ保管ニ關スル事務ノ如キ收入役カ從來ノ慣例ニ依リ執行スル事務ハ其職務上ノ行爲ニハ非サルモ刑法第二百五十三條ニ所謂業務上ノ行爲ナリトス

○講會ノ金員ハ之ヲ落札者ニ交付スルニ因リ始メテ其所有ニ歸スルモノナルヲ以テ落札者タル講員ニ之ヲ交付スル迄ハ講金タル性質ヲ失フコトナシ從テ講會ノ會主ハ之ニ對シテ業務上保管ノ責任ヲ有シ之ヲ横領スルニ於テハ業務上ノ横領罪ヲ構成スルモノトス

○森林主事ハ國有林ヲ占有スルモノニ非サルヲ以テ之ト共謀シ國有林ノ立木ヲ盜伐シ其贓物ヲ以テ製材シ且官ノ記號ヲ不正ニ使用シ罪跡ノ隠滅ヲ圖リタル行爲ハ森林法第八十四條ノ竊盜罪ニ該當スルモ横領罪ヲ

構成スルモノニ非ス

○收入役事務取扱トシテ事實上收入役ノ事務ヲ執行シ之ニ因リテ公金ヲ保管スルカ如キハ其適法ナルト否トヲ論セス刑法ニ所謂業務上公金ヲ占有スルモノナリトス

○一枚ノ村會議員投票用紙ト雖モ選舉上之ヲ使用スルニ關シ特殊利益ヲ有スルモノナルヲ以テ財產權ノ目的ト爲ルモノトス從テ村役場書記カ職務上保管シ乍ラ之ヲ不正ニ領得シタル行爲ハ刑法第二百五十三條ノ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス

○質商タル主人ノ事務ヲ處理スル者カ他人ノ利益ヲ圖リ其占有セル主人所有ノ金圓中ヨリ他人ノ質物ニ對シ普通質取價格ヨリ多額ニ貸出シ又ハ無擔保ニテ貸出シタル行爲ニシテ主人ノ計算ニ於テ其業務擔當者トシテ爲シタルモノナルトキハ背任罪ヲ構成スルモノトス然レトモ叙上ノ者ニシテ名ヲ貸借ニ藉リ其差額又ハ全額ヲ領得スルノ目的ヲ以テ若クハ單ニ自己ノ計算ニ於テ前示ノ貸出ヲ爲シタルモノナルトキハ横領罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第二百五十三條ニ所謂業務上ノ職務又ハ營業等ニ因リテ自己ノ生活ヲ維持スル業務ニ限定セララルモノニ非ス苟モ一定ノ事務ヲ常業ト

四四 三六六

三三 三三九

四四 二八〇

三三 三六〇

三三 七九

三三 七九七

三三 八八一

三三 一〇三八

三三 二七四

シテ行フ以上ハ等シク同條ノ所謂業務ニ該當スルモノニシテ其業務ノ法令若クハ慣例ニ因ルト將タ契約ニ因ルト又ハ之ニ因リテ生活上ノ利益ヲ得ルモノナルト否トヲ問フコトナシ

(同主旨)

刑法第二百五十三條ニ所謂業務トハ職業若クハ職務ヲ汎稱スルモノトス而シテ其職務タルニハ法令若クハ慣例ニ因ルト將タ契約ニ因ルトヲ問フコトナシ

○町長カ慣例ニ基キ宮内省ヨリ毎年御獵場區域内ノ耕地所有者ニ對シ下賜セラルル金圓ヲ保管スルハ町長タルノ地位ニ伴フ職務外ノ業務ナルヲ以テ之ヲ領得シタル行爲ハ業務上ノ横領罪ナリトス

○頼母子講ノ頭取トシテ講金ヲ占有スル者カ爾後其頭取ヲ罷メタル事實アリトスルモ後任者ニ引繼ヲ爲ササル間ハ依然其業務ニ因リ生シタル保管ノ責任ヲ負フモノトス從テ該金錢ヲ横領シタル所爲ハ業務上ノ横領罪ヲ構成ス

○村長カ村ノ基本財産ヲ以テ貸付ケタル債權ニ對スル返金又ハ基本財産ノ賣却代金等ヲ直接ニ受領スルモ其手續ハ違法ニシテ金員ノ所有權ハ村ニ歸屬スルモノニ非ス從テ村長カ該金員ヲ占有中横領シタル所爲ハ單純ノ横領罪ヲ構成スルニ止マリ業務上ノ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○村ノ收入役カ如上ノ金員ヲ受領シタルトキハ其金員ハ村ノ基本財産ト爲ルヲ以テ村長ハ職務上之ヲ保管スルノ責任アリ從テ自己カ保管中之ヲ横領スルニ於テハ業務上ノ横領罪ヲ構成スヘキモノトス

○村長カ村ノ請負ニ係ル工事施行ノ事務ヲ擔任シ其工事ニ關スル一定ノ費用ヲ支辨センカ爲メ收入役ヨリ村ノ公金ヲ受領シテ保管スル場合ニ於テ村ノ爲メニスルノ意思ヲ以テ之ヲ指定外ノ村ノ經費ニ流用スルモ不正ニ領得スルノ意思ヲ實行シタルモノト云フヲ得サルヲ以テ横領罪ヲ構成スルコトナシ

○一定ノ資格ニ依リ或團體ノ金錢ヲ保管スル權限ヲ有スル者ハ一時他人ヲシテ代リテ該金錢ヲ保管セシムルモ之カ爲メ保管ノ責任ヲ解除セラレサルト同時ニ其金錢上ニ現實ノ支配力ヲ喪失スルモノニ非ス故ニ之ヲ不法ニ領得セハ刑法第二百五十三條ノ罪ヲ構成スルモノトス

○自己ノ管理セル他人ノ物件ヲ不正ニ領得スル意思ヲ以テ故ラニ之ヲ他人ニ引渡シタルトキハ其引渡カ權利移轉ノ法律上ノ名義ニ依ルト否トニ拘ハラズ横領罪ヲ構成スルモノトス

○公吏カ職務上受領保管スル金額ト職務外受領保管スル金額トヲ混合シテ識別スヘカラサルニ至ラシメタルトキハ其職務上保管ノ關係ハ混合

三四五

四

三四五

三

三四五

三

三

四

四

四九七

セラレタル金額ノ全部ニ及フモノトス

○森林主事ハ其職務上當該森林ヲ保護看守スルニ過キスシテ其森林ノ樹木ニ付テハ法律上及ヒ事實上之ヲ支配スル地位ニ在ラサルヲ以テ刑法第二百五十二條及ヒ第二百五十三條ノ所謂占有者ニ該當セス

○村ノ基本財産カ金員ナル場合ニ現實ノ保管者タル收入役カ自己ノ職務上保管セル村ノ收入金及ヒ其他ノ金員ト混合シ之ヲ識別シ能ハサル状態ニ於テ占有中村長ト共謀シテ其混合セル金圓ノ全部若クハ一部ヲ横領シタルトキハ各自其横領金額ノ全部ニ付キ業務上横領罪ノ刑責ヲ免レサルモノトス

○庶務課長トシテ稅務署ニ職ヲ奉シ歳入金ノ徵收竝ニ會計事務ニ從事スル屬ハ其職務上内國稅ノ徵收ニ關スル金品ヲ保管スル責任アルモノトス

○後見人カ其保管ニ係ル被後見人ノ不動産ニ關シ之ヲ不正ニ領得スルノ意思ヲ外部ニ表見シタル以上ハ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス

○監視人トシテ組合ノ爲メ組合員ヨリ維持金加盟金及ヒ經費取立ノ事務ニ從事スル者カ其取立ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ組合ノ相當係員ニ交

○刑法第二百五十三條ノ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス
○村長タル被告カ收入役ノ補助トシテ慣行上村ノ出納事務ヲ擔當シ來リタル以上ハ之ヲ業務上ノ行爲ト謂フニ妨ナキモノトス
○村役場書記ハ町村制上收入役ノ職務ニ屬スル税金受領ノ權限ナシト雖モ苟モ慣行上自己ノ業務トシテ納稅人ヨリ現金ヲ受領シ之ヲ保管中擅ニ消費シタルトキハ業務上自己ノ占有スル他人ノモノヲ横領シタルモノニ外ナラサルモノトス

(同主旨)

○村役場書記カ税金滞納者ヨリ税金竝ニ督促手数料ヲ受取リ之ヲ收入役ニ交付スルコトヲ慣例ト爲シ居リタル以上ハ之ヲ一種ノ業務ト云フニ妨ナクハ其保管中ノ金員ヲ擅ニ毀消スルトキハ業務上ノ横領罪ヲ構成スルモノトス

○他人カ公務員ノ職務範圍ニ屬スルモノト信シ其公務員ニ對シテ財物ヲ移付若クハ送致シ公務員モ亦公務員タル資格ニ於テ之ヲ受領シ保管セルトキハ縱令實體上ハ職務ノ範圍外ナリトスルモ其受領及ヒ保管ハ公務員ノ資格ヲ以テスルモノナレハ形式上ヨリ觀察シテ之ヲ業務上ノ占有ト謂フヘキモノトス

○町村役場書記カ慣例上町村長ノ命ニ依リ事務ノ執行トシテ町村稅ヲ取

四

一八二六

五

一三〇一

五

一四五九

六

五七〇

六

六九九

六

八四四

六

一〇六六

六

一四四一

六

五九六

六

一五七〇

立テ保管スルハ業務上之ヲ占有スルモノナルニ依リ該事務ハ書記タル職務ノ範圍内ニ屬セスト雖モ刑法第二百五十三條ニ所謂業務ニ該當ス故ニ右税金ヲ横領シタル書記ノ行爲ニ對シテハ同條ヲ適用處分スヘキモノトス

七

一〇九

(同左旨)

村役場書記カ從來ノ慣例及ヒ村長ノ命令ニ依リテ執行スル事務ハ其業務ニ屬スルモノナルヲ以テ右事務執行中受領シタル他人ノ金員ヲ費消シタル以上ハ刑法第二百五十三條ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

四

一〇八

○町役場書記タル被告カ収入役ノ補助若クハ代理人トシテ町有公金ヲ保管スルハ適法ニ非ストスルモ慣例上右ノ如キ行爲ヲ認容セラレ現實ニ町ノ公金ヲ被告ノ手ニ保管セシメタル事實アル以上ハ該公金ノ保管ハ被告カ業務上占有シタルモノト謂フヘク之ヲ横領シタルトキハ業務上横領罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

七

一〇四

○郵便局集配人タル被告カ郵便局ノ取扱ニ係ル被告ノ配達スヘキ紙幣在中ノ普通郵便物ヲ占有中不法ニ之ヲ領得シタル所爲ハ業務上横領罪ニシテ刑法第二百五十三條ニ該當スルモノトス

七

一三六五

○本財産ニ編入スル前ニ在リテハ村ノ基本財産ニ非ス從テ右果實トシテ受クヘキ金錢ヲ受領スルハ金錢ノ出納ヲ管掌スル収入役ノ職務ニ屬スルヲ以テ收入役カ如上金錢ヲ受領シ擅ニ自己ノ用途ニ費消スルトキハ業務上横領罪ヲ構成スルモノトス

七

一五二

(參照)

質屋營業者カ數人ノ所有ニ屬スル質物ヲ保管中數同ニ之ヲ横領スルモ各人ノ財産權ハ各獨立ノ存在ヲ有スルモノナルヲ以テ一箇ノ連續犯ヲ構成スルモノニ非ス(第五十五條四五年一〇七頁參照)

四

一〇三

○郵便事務ニ従事スル者カ自己ノ職務上保管スル郵便物ヲ不法ニ自己ノ物トシテ處分シタルトキハ刑法第二百五十三條ノ横領罪ヲ構成スルモ郵便法第五十一條ニ依リ處斷スヘキ限ニ在ラス

四

一一三

郵便事務ニ従事スル者ニシテ郵便官署ノ取扱中ニ係ルモ自己ノ職務上ノ占有ニ屬セサル郵便物ヲ不法ニ自己ノ支配内ニ移シタル場合ニ於テハ郵便法第五十一條ノ犯罪成立スヘシト雖モ郵便現業事務ニ従事スル者カ其職務上占有セル郵便物ヲ不法ニ領得シタルトキハ業務上ノ横領罪成立スルモノトス

三

四五〇

(第二百五十四條)

○占有者ト相手方トノ間ニ於テ形式的ニ或物ヲ授受シタル場合ト雖モ之カ内容ニ錯誤アリタルトキハ其授受ハ當事者ノ眞意ニ非サルヲ以テ該物件ハ刑法第二百五十四條ニ所謂占有ヲ離レタル他人ノ物ナリトス

四

二二九

○遺失物法第十條ニ依レハ村長ハ役場ノ管理者トシテ遺失物ノ交付ヲ受タルノ權能アルニ過キスシテ物件其物ニ關シ當然占有者タルヘキモノニ非ス故ニ收入役ニ於テ役場ノ事務室ニ遺失シタル物件ヲ拾得シ之ヲ横領シタル所爲ハ刑法第二百五十四條ノ罪ヲ構成スルモノトス

○他人ノ占有ヲ離レタル物ニ關シテ横領罪ヲ構成スルニハ犯人カ其物ノ占有者タル身分ヲ有スルコトヲ要スルヲ以テ共犯者中ノ之ヲ有セサル者ニ付テハ刑法第六十五條第一項ノ適用ニ依リ始メテ共犯タル責任ヲ負ハシムヘキモノトス

○他人ノ占有ヲ離レ且自己ノ占有内ニ在ラサル物ニ對シテハ單ニ不正領得ノ意思ヲ發現セシムルニ止マリ事實上ノ支配力カ之ニ伴ハサル場合ニハ横領罪ヲ構成セサルモノトス

○遺産ヲ横領スル意思ヲ以テ戶籍簿ヲ偽造行使シ自己ノ支配力ノ下ニ在ル者カ死亡戶主ノ相續人ト爲リタル觀ヲ裝ヒタルニ過キサル行爲ハ自己ノ占有セサル物ニ對シ不正領得ノ意思ヲ外部ニ發現セシメタルニ止マリ刑法第二百五十四條ノ横領罪ヲ構成スルモノト爲スニ足ラサルモノトス

○封緘郵便ニ封入ノ物件ニ對シ差出人ノ有スル占有ハ郵便物ノ送達ヲ受

託シタル郵便官署ノ當該官吏カ該郵便物ヲ保管スルニ依リテ之ヲ持續スルモノナレハ其吏員カ郵便物自體ノ所持ヲ失ヒタルトキハ差出人ハ當然該占有ヲ喪失スルモノトス
○如上ノ郵便物ハ刑法第二百五十四條ニ所謂占有ヲ離レタル他人ノ物ニ該當スルヲ以テ被告カ擅ニ之ヲ領得シタル行爲ハ同條ニ依ル横領罪ニ該リ竊盜罪ヲ構成スルモノニ非ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條

『第二百五十六條』

○贓物ニ關スル罪ハ贓物タル事實ヲ認識シテ其收受運搬寄藏故買又ハ牙保ヲ爲スニ因リ成立シ該贓物カ何人ノ被害ニ係ルモノナルヤハ問フ所ニ非ス

○贓物罪ニ於ケル贓物ハ犯罪行爲ニ因リ收得セシ物件ナルコトヲ要スルニ過キスシテ其物件ヲ收得シタル行爲カ既ニ處罰セラレ若クハ贓物罪ト共ニ起訴セラレタルコトヲ要セス

○横領ノ目的物件タル紙幣及ヒ銀貨ヲ他ノ紙幣ト兩替スルモ通貨タル點ニ於テ彼此相異ナルコトナケレハ兩替ノ一事ニ因リ贓物タル性質ヲ失

四四

四四

六

六

二九五

二九五

一一三

一一三

六

五

二

一〇六

一七三

八七

六

一〇六

フモノニ非ス

○遺失物ヲ拾得シタル後之ヲ處分スル意思ヲ以テ他人ニ交付シタルトキハ其瞬間ニ於テ該物品ハ贓物タル性質ヲ具備スルモノトス

○刑法第九十條及ヒ第九十一條ノ目的ハ公序良俗ノ保護ニ存シ財産上ノ權利ニ關スル一個人ノ利益ノ保護ニ存セテ其領得物ハ贓物ニ非ス

○潰金及ヒ鉛塊カ竊取シタルアルミニウム製辨當箱及ヒ鉛管等ヲ潰シ又ハ溶解シタルモノナル以上ハ其原形ヲ變更スルモ被害者ニ於テ所有權ヲ失フヘキモノニ非サレハ贓物タル性質ヲ失フヘキモノニ非ス

(同主旨)

強竊盜ノ犯人カ贓物ノ原形ヲ變更シタルノミニシテ工作ヲ加ヘタルニ非サルトキハ被害者ハ之カ爲メニ其所有權ヲ失フコトナシ

○被告カ盜贓品タル情ヲ知り乍ラ之ヲ賄賂トシテ收受シタルトキハ即チ一箇ノ行爲ニシテ收賄及ヒ盜贓收受ノ二罪名ニ觸レタルモノトス

○刑法第二百五十六條第一項ノ收受罪ハ贓物タル情ヲ知り無償ニテ之ヲ取得シタル場合ニ限り成立スルモノニシテ贓物タル情ヲ知りテ質ニ取リ之ヲ取得シタル行爲ハ同條第二項ノ寄藏罪ニ該當スルモノトス

二	三七四
三	一八三
四	八六
五	一六四
四	七二
四	四〇
四五	四四三

○贓物收受ノ行爲ヲ贓物ノ運搬其他ノ行爲ト共ニ連續シテ實行シタル場合ニ於テハ一箇ノ贓物ニ關スル罪トシテ重キ刑法第二百五十六條第二項ノ刑ニ依リテ之ヲ處斷スヘキモノトス

○他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル罪ト其贓物ヲ收受スル罪トハ孰レモ他人ノ所有ニ係ル財物ニ關スル犯罪ニシテ互ニ密接ノ關係ヲ有ス從テ贓物收受罪ノ公訴事實中ニハ竊盜罪ノ事實モ亦包含セララルモノトス

(同主旨)

贓物罪ト盜罪トハ孰レモ他人ノ所有ニ係ル財物ノ領得ニ關スル犯罪ニシテ互ニ密接ノ關係アリ從テ犯人ニ對シ贓物罪ノ起訴アリタル以上ハ其範圍ニ於テ贓物收受罪ノ外竊盜教唆ノ事實ヲ審理判決スルモ不法ニ非ス

○贓物收受罪ハ贓物タルノ情ヲ知り無償ニテ之ヲ取得シタル場合ニ限り成立スルモノニシテ又贓物ノ故買トハ贓物タルノ情ヲ知り金錢其他ノ物件ヲ對價トシテ其所有權ヲ取得スル契約ヲ爲スコトヲ謂フモノトス

(同主旨)

贓物ノ故買トハ其贓物タル情ヲ知り乍ラ金錢其他ノ物件ヲ對價トシテ贓物ノ所有權ヲ取得スル契約ヲ爲スコトヲ謂フモノトス

○贓物故買罪ハ贓物タルノ情ヲ知テ之ヲ故買スルニ因リ成立ス從テ竊盜犯人ニ對スル公訴及ヒ私訴カ時効ニ因リ消滅シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成

二	一〇五
三	二〇九
三	一八九
六	四五
二	一四七

否ニ何等ノ關係ナシ

○贓物ノ牙保ヲ爲ス爲メ贓物ノ交付ヲ受ケ之カ牙保ヲ爲シタルトキハ刑法第二百五十六條第二項ノ犯罪ヲ構成スルニ止マルモノトス

○他人ノ罪證ヲ湮滅スル爲メ其贓物ヲ隱匿シタル行爲ハ一箇ニシテ刑法第二百五十六條第二項及ヒ第四百四條ノ二箇ノ罪名ニ觸ルルモノナルヲ以テ刑法第五十四條ニ依リ一罪トシテ處分スヘキモノニシテ單ニ第四百四條ノ犯罪ヲ構成スルモノトシテ處分スヘキモノニ非ス

○盜贓故買罪ノ成立スルニハ之ニ先チ強竊盜ノ被害者アルヘキハ勿論ナルモ其被害者ノ何人ナルヤハ盜贓故買罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○刑法第二百五十六條ノ罪ハ收受ノ場合ヲ除キ總テ同一ノ刑ニ該ルヲ以テ同一ノ意思發動ニ因リテ贓物ノ運搬寄藏故買又ハ牙保ノ各行爲ヲ連續實行シタル場合ニ於テハ其行爲ハ刑法第五十五條ニ所謂連續シタル數箇ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルモノナレハ一罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス

○苟モ贓物タル情ヲ知り之ヲ故買シタル以上ハ刑法第二百五十六條第二項ノ罪ヲ構成スヘク其贓物ヲ賣却シタル者カ起訴若クハ處罰セラレタ

ルト否トハ該犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○貸金ノ擔保トシテ贓物ヲ受取リ之ヲ藏匿スルカ如キハ刑法第二百五十六條第二項ニ所謂寄藏ナリトス

○贓物牙保罪ハ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ其有償處分ニ關スル媒介ヲ爲スニ因リテ成立スルモノナレハ直接買主ニ對シテ交渉ヲ爲ササルモ他人ニ委嘱シテ交渉ヲ爲サシメ以テ賣買ノ媒介ヲ爲シタルトキハ該罪ヲ構成スルモノトス

○贓物故買罪ノ成立ニハ犯人カ贓物即チ他人ノ財産權ヲ害シ不法ニ領得シタル物ナル情ヲ知りテ之ヲ買得スルヲ以テ足り其如何ナル犯罪ニ因リテ取得シタルモノナルカヲ知悉スルヲ要セス

○刑法第二百五十六條第二項ノ寄藏罪ハ贓物タルノ情ヲ知り委託ヲ受ケ之ヲ藏匿スルニ因リ成立スルモノニシテ寄藏ノ有償ナルト無償ナルトハ同罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

○贓物故買罪ハ有償名義ヲ以テ贓物ヲ授受スルニ因リテ成立シ犯人カ其授受ニ因リテ達セントシタル法律上ノ效果ノ發生スルト否トハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○十四歳ニ滿タサル者カ他人ノ財物ヲ竊取シタル場合ト雖モ客觀的ニ犯

四二	四三五
四四	九四八
四四	九八一
四四	二二五
二	一〇五

二	一〇八〇
二	一四七二
三	四二
三	二九七
三	三三六
三	二二四

罪ノ構成要素ヲ具備スルトキハ其行爲ハ竊盜ニシテ其財物ハ贓物ナリトス故ニ情ヲ知テ其財物ヲ買受ケタル者ハ贓物故買罪ヲ以テ之ヲ處斷セサルヘカラス

(同主旨)

十四歳ニ滿タサル者カ他人ノ財物ヲ竊取シタル場合ト雖モ客觀的ニ犯罪構成ノ要素ヲ具備スルニ於テハ其行爲ハ盜ニシテ其財物ハ贓ナルコト論テ決タス從テ情ヲ知テ其贓ヲ買受ケタル行爲ハ贓物故買罪ヲ構成スルモノトス

十四歳未滿ノ者カ竊取シタル財物ト雖モ苟モ犯罪構成ノ客觀的要素ヲ具備スル以上ハ法律ニ所謂贓物タルノ性質ヲ具有スルモノトス

○他人ノ物ノ占有者カ第三者ニ對シテ不法ニ其物ヲ賣渡シ若クハ擔保ニ供セントスル意思表示ヲ爲シタル場合ニ於テハ此時ニ於テ横領罪ハ直ニ完成シ同時ニ其物ハ贓物ヲ組成スヘキヲ以テ其情ヲ知リテ之ヲ買受ケ若クハ擔保トシテ交付ヲ受ケタル者ニ對シテハ當然贓物ニ關スル罪ノ成立アルモノトス

(同主旨)

自己ノ占有スル他人ノ物件ヲ横領シタル場合ニ在テハ其物件ハ占有者カ權限外ニ於テ之ヲ處置シタルモノナレハ其處分行爲ト同時ニ贓物ヲ組成スルモノトス
被告カ既ニ占有シタル物ト雖モ犯罪ニ因テ横領シタルモノハ刑法第二百五十六條ニ所謂贓物ナリトス

○甲者カ或團體ノ爲メニ會員ヨリ金圓ヲ集取シタル後擅ニ別途ノ使用金トシテ乙者ニ交付シ乙者其情ヲ知テ之ヲ收受シタルトキハ該會員ハ交付ニ因テ横領罪ノ贓物ト爲リ其交付ヲ受ケタル所爲ハ贓物ノ收受ト爲ルモノトス

○苟モ自己ノ占有セル他人ノ物ヲ不法ニ賣渡サントスル行爲アルニ於テハ相手方カ之ヲ買受ケル意思表示ヲ爲スナクハテ横領罪ハ完成シ其領得物ハ贓物タルノ性質ヲ具有スルモノトス從テ情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル相手方ノ行爲ハ横領罪ノ共犯ニ非スシテ贓物故買罪ニ該當スルモノトス

○竊取又ハ強取シ來リタル貴金屬類ノ原形ヲ變シテ作りタル金塊ヲ故買シタル所爲ハ刑法第二百五十六條第二項ノ罪ヲ構成スルモノトス

○苟モ他人ノ不法ニ領得セル贓物タルノ情ヲ知リテ之カ典賣交換等ノ周旋ヲ爲シタル以上ハ自己ノ名義ヲ以テスルト否トニ論ナク贓物牙保罪ヲ構成スヘキモノトス

○盜賊故買罪ト竊盜罪若クハ竊盜教唆罪トハ各別箇獨立ノ犯罪ナルカ故ニ同一人カ贓物故買ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ竊盜ヲ教唆シ其盜賊ヲ故買シタルトキト雖モ後者ハ前者ニ吸收セラレテ獨立ノ存在ヲ失フヘキモノニ非ス

(同主旨)

○竊盜教唆罪ト贓物故買罪トハ法律上其罪質ヲ同ウセサルカ故ニ縱令被告カ入テ教唆シテ竊取

三	二三八二
四	二〇八
三	八六一
四	一一一
四三	七
四四	四六二

四	四六三
二	七四
四	七二
五	一五
五	九六
五	九六

セシメタル贓物ヲ故買シタリトスルモ其故買ノ所爲ハ竊盜教唆罪ニ吸收セラルヘキモノニ非ス

竊盜教唆ト贓物故買トハ各其罪實ヲ異ニスルヲ以テ人ヲ教唆シテ財物ヲ竊取セシメ以テ贓物ヲ故買シタルトキハ竊盜教唆及ヒ贓物故買ノ二罪成立スルモノトス

教唆者ハ實行行爲ヲ爲スモノニ非サレハ竊盜ノ教唆者カ其贓物ヲ寄藏シタル行爲ハ竊盜教唆贓物寄藏ノ併合罪ヲ構成スルモノトス

○盜贓品タル情ヲ知テ之ヲ買受ケタル所爲ハ贓物故買罪ヲ構成ス而シテ其贓物ニ對スル竊盜犯人カ盜難被害者ノ直系卑屬ナルト否トハ犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ホスコトナシ

○苟モ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ其寄託ヲ受クルニ於テハ刑法第二百五十六條第二項ノ寄藏罪ヲ構成ス而シテ被告カ爾後該物品ヲ收受スルモ別ニ同條第一項ノ罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○贓物故買ノ罪ト古物商トシテ古物賣買ヲ記帳セサル罪トハ各別箇ノ法益ヲ害スル獨立ノ行爲ニシテ其一ニ他ノ一ヲ包含セサレハ古物商カ贓物ヲ故買シ其賣買ヲ記帳セサル行爲ニ對シ二罪ノ成立ヲ認メテ處斷シタルハ相當ナリ

○甲者贓物タルノ情ヲ知ラスシテ善意無過失ニテ橫領罪ノ犯行者タル乙ヨリ之ヲ取得シタル場合ニ於テ該物件ハ贓物タルノ性質ヲ喪失スルヲ以テ

以テ縱令被告ニ於テ片面的ニ贓物タルコトヲ知り乍ラ之ヲ甲ヨリ買受ケタリトスルモ贓物故買罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○苟モ現ニ贓物タルノ情ヲ知り乍ラ之ヲ買受クル以上ハ其買受カ他人ノ損益計算ニ於テ行ハルルト否トヲ問ハス贓物故買罪ヲ構成スルモノトス

『第二百五十七條』
○刑法第二百五十七條ハ主犯ト贓物ニ關スル犯人トノ間ニ同條所定ノ關係アルトキニ於テ贓物ニ關スル犯人ノ刑ヲ免除スル旨ヲ規定シタルモノナレハ贓物ニ關スル犯人相互ノ間ニ同一ノ關係アルモ免刑ノ理由ト爲ラス

〔第二百五十七條〕

○刑法第二百五十七條ハ主犯ト贓物ニ關スル犯人トノ間ニ同條所定ノ關係アルトキニ於テ贓物ニ關スル犯人ノ刑ヲ免除スル旨ヲ規定シタルモノナレハ贓物ニ關スル犯人相互ノ間ニ同一ノ關係アルモ免刑ノ理由ト爲ラス

○刑法第二百五十八條、第二百五十九條

『第二百五十八條、第二百五十九條』

○保存期間ヲ經過シタル官文書ト雖モ之ヲ毀棄スルニ於テハ文書毀棄ノ罪ヲ構成スルモノトス

○公吏カ其職權内ニ於テ作成シタル文書ハ縱令其方式ニ欠缺アルモ公務所ノ用ニ供スル文書ニ非スト云フヲ得ス從テ之ヲ毀棄シタル所爲ハ刑

刑法 罪 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

〔第二百五十八條、第二百五十九條〕

○保存期間ヲ經過シタル官文書ト雖モ之ヲ毀棄スルニ於テハ文書毀棄ノ罪ヲ構成スルモノトス

○公吏カ其職權内ニ於テ作成シタル文書ハ縱令其方式ニ欠缺アルモ公務所ノ用ニ供スル文書ニ非スト云フヲ得ス從テ之ヲ毀棄シタル所爲ハ刑

四二

四四

四四

五

五

五

五

五

二五八

七四五

四三六

二二七

二二七

二二七

二二七

二六八

六

六

六

三

三

三

三

三

二五七

二五七

二五七

二五七

二五七

二五七

二五七

二五七

九六七

法第二百五十八條ノ犯罪ヲ構成ス

○登記所ノ保管ニ係ル登記書類ニ貼附シアル印紙ヲ剝離シテ之ヲ竊取シタル場合ニハ該官文書ノ毀棄ハ刑法上竊盜ニ伴フヘキ當然ノ結果ニ非サルヲ以テ其毀棄ノ責任ハ當然竊盜ノ責任中ニ吸收セラルヘキモノニ非ス

四二

二〇四七

○刑法第二百五十八條ニ所謂公務所ノ用ニ供スル文書トハ公務所ニ於テ使用ノ目的ヲ以テ保管スル文書ノ謂ニシテ其作成者カ公務員タル私人タルトヲ問ハス又其作成ノ目的カ公務所ノ爲メニスルト私人ノ爲メニスルトヲ別タス現ニ公務所ニ於テ使用ニ供スルモノヲ汎稱スルモノトス

四四

二〇四二

○刑法第二百五十八條及ヒ第二百五十九條ニ於ケル文書ノ毀棄トハ文書ノ實質的部分ヲ有形的又ハ無形的ニ毀損シ其全部又ハ一部ヲ利用スル能ハサル状態ニ措ク行爲ノミナラス文書ノ形式的部分ヲ毀損スル行爲ヲモ包含ス而シテ其形式的部分カ文書ノ證明力ニ影響ヲ及ホスモノナリヤ否ヤハ問フ所ニ非ス
○公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル行爲カ官文書偽造及ヒ偽造官文書行爲ノ行爲ト事實上ノ關係ヲ有スルニ止マリ法律上右犯罪ノ手段タ

四四

二〇三八

(第二百六十條)

○建造物毀壞罪(舊刑法第四百十七條)又ハ損壞罪(刑法第二百六十條)ノ構成ニハ建造物ノ全部若クハ其一部ヲ損壞スルヲ以テ足り必スシモ其損壞ノ爲メニ建造物ノ用方ヲ全然不能ナラシムルヲ要セス又其損壞ノ部分ハ建造物ノ主要ナル構成部分タルコトヲ要セサルモノトス

四五

二〇四

○硝子障子ノ如キ器物カ建造物ノ一部ヲ構成スルモノト認メ得ルニハ建造物ノ外部タルト否トニ論ナク唯其一部ニ建付ケアルノミヲ以テ足レリトセス更ニ之ヲ毀損スルニ非サレハ取外シ得サル状態ニ在ルコトヲ要ス

四三

六五七

○建造物トハ家屋其他之ニ類似スル建築物ヲ指稱スルモノニシテ屋蓋ヲ有シ牆壁又ハ柱材ニ依リ支持セラレテ土地ニ定著シ少クトモ其内部ニ人ノ出入シ得ヘキモノタルコトヲ要ス

四三

二〇三八

(同(五))

刑法 罪 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

三

二〇〇〇

刑法ニ所謂建造物トハ家屋其他之ニ類似スル營造物ヲ指稱ス從テ竹垣ノ如キハ之ニ包含セサルモノトス

○邸宅ノ表門カ其圍障ノ一部ヲ成シ開閉シテ以テ通行ニ備フルニ止マリ人ノ出入シ得ル内部ヲ有セサルトキハ建造物ナリト謂フヲ得ス從テ之ト一體ヲ成セル潜戸ヲ破壊スルモ刑法第二百六十一條ニ該當スルノミニシテ建造物損壞罪ニ問擬スヘキモノニ非ス

第二百六十一條

○舊刑法第四百二十一條及ヒ刑法第二百六十一條ニ所謂毀棄若クハ損壞トハ管ニ物質的ニ器物其物ノ形體ヲ變更又ハ滅盡セシムル場合ノミナラス事實上若クハ感情上其物ヲシテ再ヒ本來ノ目的ノ用ニ供シ能ハサル状態ニ至ラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス

第二百六十一條

○他人ノ養魚池ニ敷設シアル水門ノ板及ヒ格子戸ヲ取外シ鯉魚ヲ流失セシメタル所爲ハ刑法第二百六十一條ニ所謂物ノ傷害ニ該當ス

○被告カ墳墓ノ所有者トシテ其地域ヲ通行スル權利ヲ有シ從テ他人カ之ニ板塀ヲ設置シタル行爲ハ此等ノ權利ヲ侵害スル不法行爲ナリトスルモ被告ハ之カ救濟手段トシテ自ラ板塀ヲ撤去スルノ權利ヲ有セサルモノトス

第二百六十四條

○刑法第二百六十一條ノ毀棄罪ノ被害者ハ毀棄セラレタル物ノ所有者ニ外ナラサレハ告訴權ヲ有スル者ハ其所有者ニ限レルモノトス

四三

一三〇九

三

一三〇〇

四二

四三二

四

一九七

三

一三〇〇

七

一三三二

四

一三六

舊刑法

舊刑法

第一編 總則

第一章 法例

○我刑法ハ帝國カ治外法權ヲ有スル地ナルト否ヲ論セス總テ帝國人民ヲ支配ス
○目的タル行爲ニシテ罪ト爲ラサルモ其目的ヲ達スル手段ニシテ犯罪ヲ構成スル以上ハ之ヲ處罰スヘキハ勿論トス

○刑法上被害者ト稱スヘキ者ハ犯罪ニ因リ私法上ノ權利ヲ侵害セラレ其賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキ地位ニ立ツモノヲ云フ而シテ證人カ偽證ヲ爲シタル場合ニ在テハ國家ノ公益ヲ害シタルニ過キサルヲ以テ其裁判所ヲ構成セル判事其人ノ私法上ノ權利ヲ侵害シタルモノト云フヲ得ス
○日本帝國ノ臣民ハ外國ニ在テモ帝國ノ法律ニ服従スルノ義務アルモノトス

(同法例)

凡ソ一國ノ臣民ニシテ其國民タルノ分限ヲ有スル者ハ皆ニ其本國ニ居住スル年月日ニ止マラス縱令外國へ居住シ若クハ滯在中ト雖モ本國ノ法律ニ服従スヘキ義務アルコトハ言ヲ候
○荷毛帝國ノ法律ニ服従スルノ義務アル者カ犯罪ヲ遂行スルニ於テハ其場所ノ我領土内ナルト否トヲ問ハス帝國法律ノ制裁ヲ受クヘキモノトス

(同法例)

舊刑法 總則 法例

四	六	四〇	三六	三五	二六	三三	四	四〇
一	二	四	六	六	一	四	一	一
一五	四三	一七	一四〇	八四〇	一四	一六	一〇	一〇

帝國臣民ハ外國ニ於テ罪ヲ犯スモ尙ホ帝國法律ノ制裁ヲ受ク

【第一條】

(民)

○刑事トハ刑法ニ規定セル重罪輕罪違警罪ノ三種ノ刑ヲ謂フ

【第二條】

○事後ノ從犯ハ法律上之ヲ罰スヘキ正條ナシ

○村役場ノ書記村長ノ命令ニ戾リ村長ニ屬スル責任ヲ盡ササル所爲ハ法律上罪ト爲ラス

○出來合印ヲ押捺使用シタル所爲ハ法律上罪ト爲ラス

○虛無ノ名義ヲ以テ私書ヲ偽造スルモ法律上罪ト爲ラス

○不正ノ方法ヲ用ヒス單ニ過去ニ屬スル恩誼上ノ關係ヲ說テ偽證ヲ囑託シタル所爲ハ法律上罪ト爲ラス

○物品賣却ノ依頼ヲ受ケ賣主ノ指定價格ヨリ高價ニ賣却シタル上其超過額ヲ賣主ヨリ受領シタル所爲ハ法律上罪ト爲ラス

○廢棄ニ屬シタル度量衡ヲ使用シテ利ヲ得タル所爲ハ法律上罪ト爲ラス

○後ノ所爲ハ前ノ所爲ノ結果ニシテ別ニ犯罪ヲ構成セサル場合ニ在リテモ其前所爲ニ付キ被告カ曾テ處罰ヲ受ケタルコトナキ場合ニ於テハ後ノ所爲ニ付キ處罰ヲ免ルルヲ得ス

○封筒面ノ署名ヲ偽造シテ使用シタル所爲ハ舊刑法中之ヲ罰スルノ正條ナクハ罪トシテ論スヘキモノニ非ス

○入テ欺罔シテ財產上不正ノ利益ヲ得タル所爲ハ舊法ニ在テハ罪ト爲ラサルモノトス

【第三條】

【第三條】

○法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス

○犯罪行為連續ノ中間ニ法律ノ改正アリタル場合ニ於テハ其終了當時ノ法律ニ依テ處斷スヘキモノトス

○效力ヲ停止セラレタル法律ノ效力ノ回復ハ新法ノ頒布ト云フコトヲ得ス然レトモ其適用ニ至テハ新ニ頒布セラルタル法律ト異ナルコトナシ

○腐敗清酒ヲ模造シ造石稅ノ免除ヲ得ントシタル犯罪行為カ現行酒造稅法施行後ナルトキハ其清酒ノ釀造力施行前ニ係ル場合ト雖モ現行酒造稅法ヲ適用スヘキモノトス

○法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得ス而シテ新法ノ刑舊法ノ刑ヨリ輕キ場合ニ付テハ刑法第三條第二項ノ例外アリト雖モ新舊兩法ノ刑全ク同一ナルトキハ該例外ノ場合ニ該當セス從テ舊法ヲ適用スヘキモノトス

(同第三條)

新舊法ヲ比照スルニ當リ新舊共ニ其刑相均シキトキハ舊法ニ從ヒ處斷スヘキモノトス

○舊法ニ於テ再犯加重ノ例ニ依ルヘキ犯罪ニ付キ新法カ再犯加重ノ例ヲ用井サル旨ヲ規定シタルトキハ其犯罪ハ如何ナル場合ト雖モ再犯罪ノ前科タルコトヲ得ス

○刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照スル場合ニ於テ舊法(刑法)ハ數罪俱發例ヲ適用シ新法(森林法)ハ數罪併科スルトキハ舊法ヲ以テ輕シトス

○新舊法ヲ比照スル場合ニ於テ輕罪刑ノ輕重ハ體刑ニ在テハ刑期ノ長キモノヲ以テ重シトシ罰金刑ニ在テハ多額ノモノヲ以テ重シト爲ス

○新舊二法ノ輕重ヲ比較スルニ當リ二法共ニ附加刑アルトキハ附加刑ノ種類ノ異同如何ニ拘ハ

二八	四	四一
三一	六	六六
三三	二	四五
三六	一	四九
三六	一	四三
三六	一	一〇八
三八	一	九〇六
三三	一	三
三三	一	四〇

二八	一	一五二
三三	二	二六
二八	四	三
三〇	六	六八
三〇	九	二七
三三	五	八二
三三	九	二九
三四	五	一〇三
四二	一	三二八
四二	一	六〇五

- 借主カ抵當貸主兼保證人トシテ擅ニ他人ノ名義ヲ借用證書ニ記入シ之ヲ行使シタル場合ニ在リテハ其擔保ニ關スル部分ノミヲ沒收スヘキモノトス
- 關係人ノ資格ヲ詐リ公正證書ニ署名捺印シタルトキハ其證書ハ全部偽造セラレタルモノニシテ公證人ノ手ニ成レル部分ノミ有效ニ存在シ得ルモノニ非ス從テ其證書全部ヲ沒收シタルハ相當ナリ
- 猥褻物ハ法律上公然之ヲ陳列シ又ハ販賣スルコトヲ禁シタルモノニシテ單ニ之ヲ所持スルハ違法ニ非ス故ニ法律ノ禁制ヲ犯シテ公然其物件ヲ陳列シ又ハ販賣シタルトキ始メテ禁制物トシテ之ヲ沒收スヘキモノトス
- 甲者カ約束手形ヲ偽造シ取立委任ノ趣意ヲ以テ表面上讓渡裏書ヲ爲シ之ヲ乙者ニ交付シタルニ止マリ他ニ正當ナル裏書ヲ以テ該手形ヲ讓受ケタル者ナキ場合ニハ其讓渡裏書ハ原手形ト共ニ無効ト爲ルカ故ニ該手形全部ヲ沒收スヘキモノトス
- 甲者自ラ債務者ト爲リ且乙者ノ代理資格ヲ詐テ同人ヲ連帶債務者ト爲シ金員貸借ノ公正證書ヲ作成シタル場合ニ於テハ其證書中甲者ニ關スル部分ハ有效ニシテ乙者ニ關スル偽造ノ部分ト分割シテ存在シ得ヘキモノトス從テ該證書全部ヲ沒收シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ
- 既存ノ受取證書ノ記載ニ附加變更ヲ爲シ新ナル效力一生セシメタルトキハ該證書ハ全然偽造證書ト爲リ別ニ原證書トシテ存在スヘキモノトス從テ其證書全部ヲ沒收シタルハ相當ナリ
- 犯人カ借用證書ノ一部ヲ偽造シ詐欺取財ノ手段トシテ之ヲ行使シタル場合ニ該證書全部ヲ偽造ナリトシ刑法第四十三條第一號ニ依リテ之ヲ沒收シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス

三七	一七九〇
三七	二〇八五
三八	四六三
三八	一〇一六
三八	一一五二
三九	一一二九
三九	七九五

- 借主本人ノ署名捺印ノ如キ證書主要ノ部分カ偽造ト爲リタル以上ハ前者ノ署名捺印ハ當然其效力ヲ喪失シ偽造證書ノ一部分トシテ他ノ部分ト共ニ沒收セラレヘキモノトス
- 不用ニ屬シタル約束手形ニ宛名ノ記載ナキ奇貨トシ擅ニ自己ノ氏名ヲ記入シテ之ヲ行使シタルトキハ應禁物トシテ該手形ノ表面全部ヲ沒收スヘキモノトス
- 甲乙共謀シ丙名義ノ文書ヲ偽造行使シテ利スル所アラント企テ乙丙二人カ甲ヨリ金員ヲ借受ケタル旨ノ公正證書ヲ偽造シタルトキハ該證書ニ於ケル甲乙間ノ貸借契約ハ虛偽ノ意思表示ニシテ何等ノ效力ヲ有セス故ニ法禁物トシテ其全部ヲ沒收スヘキモノトス
- 秤秤ト分銅トハ相待テ一箇ノ衡器ヲ成スモノナレハ苟モ秤秤ニ不正ノ工作ヲ加ヘテ定規ヲ増減シタル以上ハ縱令分銅其物ニハ何等ノ變改ヲ爲ササルモ共ニ禁制物トシテ之ヲ沒收スヘキモノトス
- 身分證明書ノ一部ヲ偽造シタル場合ト雖モ其他ノ部分ハ獨立シテ何等ノ效用ヲ爲サズ證明書ト分離スヘカラサルモノナルヲ以テ其全部ヲ沒收スヘキモノトス
- 苟モ内國通用ノ金銀貨又ハ銅貨ノ偽造ニ著手シタル以上ハ未ダ其偽造ノ完成セラレサル物件ト雖モ仍ホ舊刑法第四十三條第一號ノ禁制品タルコトヲ失ハス
- 犯罪ノ準備ニ供シタル物件ヲ以テ犯罪ノ用ニ供シタル物件トシテ沒收シタル裁判ハ擬律錯誤ノ不法アルモノトス
- 彈丸ハ短銃中ニ填充シアルモノナレハ既ニ被害者ニ向テ其短銃ヲ擬シ犯罪ノ實行ニ著手シタル以上ハ既發未發ニ論ナク彈丸ハ短銃ト共ニ犯罪ノ用ニ供セラレタルモノトス
- 犯罪供用ノ物品ハ縱令犯罪事實審理ノ必要上分析スルコトアルモ之カ爲メ犯罪供用ノ性質ヲ變スルモノニ非ス從テ之ヲ沒收セシ判決ハ相當ナリ

三九	八六四
四〇	七一
四〇	三〇五
四一	四六五
四一	三四三
四二	六五三
四二	八九
四二	一九
四三	四三

- 郵便税ヲ免ルル目的ヲ以テ使用濟ノ郵便端書ヲ再ヒ使用シタルトキハ其端書ハ犯用物件トシテ沒收セラル
- 印影ヲ偽造證書ニ押捺シテ行使シタルトキハ其印顯ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ナリ
- 虚偽ノ負債ヲ證明スル爲メ競賣代金配當要求ノ申請ニ用井タル借用證書ハ犯罪供用ノ物件ナリトス從テ假ニ該證書ニシテ當事者間ニ於テ有效ナルモノトスルモ沒收スヘキモノトス
- 要塞地帯法第七條ハ方法ノ如何ヲ問ハス要塞司令官ノ許可ヲ得スシテ要塞地帯内水陸ノ形狀ヲ測量シ又ハ其形狀ニ付キ或物體ノ上ニ後日ニ存在セシムヘキ性質ヲ有スル表顯ヲ爲スコトヲ禁止シタルモノトス從テ之ヲ表顯スル爲メ使用シタル寫眞器械ハ犯罪組成ノ物件ニ非スシテ犯罪供用ノ物件ナリトス
- 未遂罪ノ場合ト雖モ犯罪ハ既ニ成立シタルモノナルヲ以テ其犯罪ノ用ニ供シタル物件ハ沒收スヘキモノトス
- 單ニ兇器ヲ携帯シテ竊盜ヲ爲シタルニ止マラズ尙ホ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタルノ事實アルトキハ其兇器ハ犯罪供用ノ物件トシテ沒收スヘキモノトス
- 酒造税法第二十二條ノ規定ハ酒類ノ製造ヲ罪トシテ禁スルノ旨趣ニ非ス唯酒類ヲ製造スルニ當リ政府ノ免許ヲ受ケサル行爲ヲ處罰スルノ精神ニ外ナラサレハ其製造ニ用井タル器械ノ如キハ之ヲ犯罪ノ用ニ供シタル物件ト云フヲ得ス
- 犯罪ノ用ニ供シタル證書ハ縱令被告ニ於テ之ヲ他人ニ返還スルノ義務アリトスルモ該義務ノ發生ニ因リテ直ニ其所有權ヲ失フモノニ非ス從テ之ヲ沒收シタル判決ハ相當ナリ
- 持兇器竊盜罪ハ兇器ヲ携帯スル行爲ト竊盜ノ行爲ト相合シテ成立スルモノトス故ニ其兇器ハ所謂犯罪ニシテ犯罪供用ノ物件ニ非サレハ之ヲ沒收スヘキ限ニ在ラス

三〇	三三	三四	三五	三五	三六	三七	四〇	四〇
二	九	四	九	一	九	二九	四七	四七
一五	六三	二二	三四	五六	八三	二九	四七	四七

(同(刑例))

- 刑法第三百七十條ノ「兇器ヲ携帯シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者」云云ニ適當スル犯罪ハ兇器ヲ携帯スル行爲ト竊盜ノ行爲ト相合シテ茲ニ之ヲ組成スルモノナレハ其兇器ハ所謂犯罪ニシテ沒收スヘキモノニ非サルナリ
- 賣買取引ニ付キ證據金ヲ納メシムルト否トハ取引所ノ定款ヲ以テ定ムヘキ事項ニシテ取引ノ成立要件ニ非ス故ニ證據金ハ取引所法違犯行爲ヲ組成スル物件ニ非スシテ其行爲ノ用ニ供シタル物件ナリ
- 不法ノ原因ノ爲メ交付セラレタル金圓ニシテ被告人ノ手裡ニ現存スル以上ハ刑法第四十三條第三號ニ依リ之ヲ沒收スヘキモノトス

【第四十四條】

第四十四條

- 刑法第四十四條ニ所謂所有主ナキトキトハ絶對的ニ無主物タル場合ヲ云フニ非ス所有主ノ發見セラレサル場合ヲ云フ
- 所持ナル言詞ハ所有ノ意味ヲ包含ス
- 刑法第二百六十一條第二項ハ同法第四十四條ノ例外ナリ
- 犯罪供用ノ物件ト雖モ物件ニ對シ犯人以外ニ所有者クハ占有ノ權利ヲ有スル者アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス

(同(刑例))

犯罪ノ用ニ供シタル物件ト雖モ其物件ニ對シ犯人以外ニ所有者クハ占有ノ權利ヲ有スル者アルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス

二七	二八	二八	三〇	三〇	三二	三二	四〇	四二
九七	一四二	一四三	一〇五	一〇五	八八	八八	一六五	七〇六
九七	一四二	一四三	一〇五	一〇五	八八	八八	一六五	七〇六

- 第一審裁判ハ共同被告人ニ非サル民事被告人ト刑事被告人ト連帶負擔ノ判決ヲ爲シタルハ不法ナリ而シテ控訴人ハ私訴全部ニ對スル控訴ヲ爲シタルモノナルニ原院力有ノ不法アル第一審判決ヲ認可シタルハ亦不法ヲ免レズ
- 共犯事件ノ一部ニ加功セサル被告人ニ對シ總費用ノ連帶負擔ヲ言渡シタル裁判ハ刑法第四十七條ノ適用ヲ誤リタル不法アルモノトス
- 刑法第三百八十八條ノ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ト之ヲ増加スル爲メ虛偽ノ負債ヲ承諾シタル者トハ性質上共犯ナリトス從テ訴訟費用ハ連帶負擔セシム
- 刑法第四十七條ハ數名ニテ行ヒタル犯罪ニ付キ共犯人カ共ニ訴追セラレ同一ノ判決ヲ以テ刑ノ言渡ヲ受クル場合ニ適用セラルヘキモノトス從テ共犯人中ノ一人ニ對シテノミ公訴起リタルトキハ共同被告人キテ以テ同條ヲ適用シ裁判費用ノ連帶負擔ヲ命スル能ハサルハ當然ナリ
- 共同被告人トシテ有罪ノ判決ヲ受ケタル以上ハ自ラ訴追セラレサル前他ノ共同被告人ニ依リテ生シタル裁判費用ト雖モ共ニ連帶負擔スヘキモノトス
- 衆議院議員選舉法第八十七條第一項第二號ノ選舉ニ關シ人ヲ響應シ及ヒ之ヲ受ケタル犯罪ハ選舉ヲ爲ス者ト之ヲ受ケル者トアリテ始メテ成立スヘキモノトス故ニ其裁判費用ハ刑法第四十七條ニ依リ之ヲ連帶負擔セシメサルヘカラス
- 繼續犯罪中ノ一所爲ヲ實行シタル者ハ縱令中途ヨリ脱退スルモ其被告事件ノ爲メニ生シタル公訴裁判費用ニ付キ他ノ共犯者ト共ニ連帶負擔ノ責ヲ免レサルモノトス

「第四十八條」

（第四十八條）

○ 贓金ヲ以テ買得シタル贓物ニ非サルモノニ非ス

- 假下トハ現在ノ贓品ヲ假ニ被害者ニ下付スルノ謂ニシテ眞ノ還付ノコトニ非ス從テ判決ヲ以テ之ヲ言渡スニ非サルハ法律上還付ノ效ナシトス
- 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ請求ナシト雖モ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス（刑法第四十八條）トノ法則ハ犯人カ其物件ニ付キ何等權利ヲ有セサル場合ニ適用スヘキモノトス從テ質權者タル犯人カ一旦賣却シタル質物ヲ取戻シ其占有中ニ押收セラレタル場合ニ於テハ其贓物ハ質權者タル犯人ニ還付スヘキモノトス
- 衣類ハ之ヲ解放シタルトキト雖モ其性質ヲ變スルモノニ非ス從テ騙取ニ係ル衣類カ解放セラレテ被告ノ手裡ニ存スルトキハ刑法第四十八條ニ依リ還付ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス
- 刑事裁判所カ被告ハ行政裁判所ノ判決ニ因リ山林ノ給付ヲ受ケタル事實ヲ認め乍ラ該判決ヲ無視シ贓物犯人ノ手ニ存スルモノトシテ直ニ其還給ヲ命ジタルハ不法ナリ
- 司法警察官カ被告ノ手裡ニ存在セル贓物ヲ押收シ假ニ之ヲ被害者ニ下付シタルトキハ裁判所ハ刑法第四十八條ノ規定ヲ適用シ現在ノ贓品トシテ假下ノ儘被害者ニ還付スル旨ヲ言渡ササルヘカラス從テ此場合ニ刑事訴訟法第二百二條ヲ適用シタルハ違法ナリ
- 贓物ノ還給ニ關スル刑法第四十八條ノ規定ハ民法上ノ請求權ヲ基礎トスル原狀回復ノ一方法ニ過キサレハ同條ニ依リテ直ニ其還付ヲ命スヘキヤ否ヤハ民法上ノ權利關係如何ニ從ヒテ之ヲ決セサルヘカラス

（同法例）

刑法第四十八條ニハ「若シ贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ請求ナシト雖モ直ニ之ヲ被害者ニ還付ス」ト規定セルモ贓物ノ還給ハ民法上ノ請求權ヲ基礎トスル原狀回復ノ一方法ニ過キサルヲ以テ直ニ其還給ヲ命スヘキヤ否ヤハ民法上ノ權利關係如何ニ因リテ定マルヘキモノト

二七	四八一
三〇	一三三
三四	一三五
三五	四〇
三五	一四六
三七	一五三
三八	九七九
二八	一八四
三六	四九
三九	二五九
三九	五二〇
三九	一一九

二六	一八四
三六	四九
三八	六五五
三九	二五九
三九	五二〇
三九	一一九

ス從テ恐喝取財カ當事者ノ意思表示ニ因由スル場合ニ於テハ被害者ヨリ財物證書類ノ還付ヲ請求シ又ハ其他ノ方法ニ因リ取消ノ意思ヲ表示スルニ非サレハ裁判所ハ進テ其還給ヲ命スルコトヲ得サルモノトス

第五節 刑期計算

第五十一條

『第五十一條』

○刑法第五十一條ニ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ストアルハ單ニ上訴ヲ爲ササル場合ヲ定メタルモノトス而シテ同條第一二號ニハ刑名ノ文字ナキヲ以テ其前判宣告ノ法文ニハ無罪ノ宣告モ亦該當スルモノナリ

○甲事件ニ對シ有罪ノ判決確定ト爲リタル後犯人カ乙事件ノ爲メニ引續キ勾留セラレタル日數ハ該判決確定ト同時ニ檢事ヨリ刑ノ執行ヲ指揮シタル場合ノ外之ヲ刑期ニ通算スルコトヲ得ス

○第一審ノ裁判ニ對スル被告ノ控訴第二審裁判所ノ棄却スル所ト爲リシモ上告ノ末大審院ハ之ヲ破毀シテ他ノ裁判所ニ移送シタルニ移送ヲ受ケタル裁判所ハ第一審ノ裁判ヲ認可シ被告ノ控訴ヲ棄却シ大審院モ亦遂ニ被告ノ再上告ヲ棄却シタル此場合ニ於テ刑期計算ハ移送ヲ受ケタル裁判所ノ判決宣告ノ日ヨリ起算シ第一審ノ裁判宣告ノ日ヨリ當初大審院カ破毀ノ宣告ヲ爲シタル日迄ノ被告入監中ノ日子ハ被告ノ上訴正當ニ歸シタルモノニ付キ之ヲ刑期中ニ算入スヘキモノナリ

○上訴中ニ係ル日數ヲ刑期ニ算入スルハ必ズ公判宣告ニ對スル上訴正當ナル時ニ限ルモノトス故ニ其他ノ言渡ニ對スル上訴ハ正當ナルモノトシテ算入スルヲ得ス

○被告カ控訴申立成立セサルモ其後檢事總長ノ非常上告ニ因リ前判ヲ破毀スルトキハ刑期計算ハ前判宣告ノ日ヨリ起算スルモノトス

○一旦上告ヲ爲シ既ニ之カ取下願ヲ提出シタルトキハ其開届ヲ受ケル迄ハ上告進行中ニ係リ其取下願ノ開届ヲ受ケタルトキハ上訴不當ノ場合ト同一ニ歸シタルモノナルヲ以テ第二裁判宣告ノ日ヨリ上告取下願開届ノ日迄ハ刑期ニ算入スルヲ得サルモノトス

○甲裁判所ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルニ控訴院ニ於テ管轄違ノ理由ヲ以テ事件ヲ乙裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ其判決確定シタルトキハ甲裁判所ノ訴訟手續ハ全然無効ニ歸スヘキモノトス從テ其管轄違ノ判決以後更ニ第一審ノ判決アル迄ノ勾留ハ未決勾留ト同視スヘキモノニシテ刑期ニ算入スルヲ得ス

○故障ハ上訴ニ非ス故ニ故障申立テ理由アリトシタルトキト雖モ刑法第五十一條第一號ヲ適用スルヲ得ス

○大審院ニ於テ甲控訴院ノ判決ヲ破毀シテ乙控訴院ニ移送シタル場合ニ於テ其後ノ上訴正當ナルヲサル以上ハ大審院ノ破毀ノ判決ヨリ乙控訴院ノ判決迄ノ日數ハ刑期ニ算入スヘキモノニ非ス

○公訴裁判費用ニ關スル點ノミニ付キ第一審判決ヲ更正シタル場合ト雖モ上訴ハ正當ナルヲ以テ刑法第五十一條第一號ニ依リ其刑期ハ前判宣告ノ日ヨリ起算スヘキモノトス

○關席判決ニ對シ故障ヲ申立テ有罪ノ對席判決ヲ受ケ控訴審ニ於テ原判決取消ノ上更ニ有罪ノ判決ヲ受ケタル場合ニ於テハ其刑期ハ前判即チ對席判決ノ日ヨリ起算スヘキモノニシテ關席判決ノ日ヨリ起算スヘキモノニ非ス

○控訴ノ判決ニ對シ上告ヲ爲シ上告棄却セラレタル場合ハ刑期ハ後判宣告ノ日即チ上告裁判所

二五	三	九一
二五	五	三九
二九	二	一五
二九	一一	一七
三〇	八	六
三三	六	一〇
三四	六	一

三六	一三〇	
二四	二	一四三
四〇	六八六	
二四	二	一三三
二五	二	八〇

○凡ソ刑ノ言渡ハ其對審タルト關席タルトナ間ハス之カ執行ヲ目的ト爲スモノナルヲ以テ被告カ執行ヲ免ルル點ニ付テハ兩者相異ナラス則チ刑法第六十二條ヲ關席判決ニ適用スルヲ得サルノ理ナシ

○關席判決ヲ受ケタル者ニシテ刑ノ執行ヲ通レタルトキハ逮捕ノ令狀ヲ以テ其期滿免除ヲ中斷ス

第三章 加減例

○數罪俱ニ發シタル場合ニ於テ酌量減輕ヲ爲スヘキモノアルトキハ先ツ減輕例ヲ適用シ然後數罪俱發例ニ據リテ處斷スヘキモノトス

第七十條

第七十條

○被告カ富儀購買ノ所爲再犯ニ係ルトキハ明治十五年第二十五號布告第二條ニ定メタル二十日以上四月以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ノ二倍ノ範圍内ニ於テ處分スヘキモノトス乃チ被告ハ前キニ同罪ニ付キ重禁錮二月十五日罰金十圓ニ處セラレタルモノナレハ同布告第三條(第一條第二條ノ罪ヲ再犯シタル者ハ同條ニ定メタル刑期金額ノ二倍ニ處ス但初犯ニ科シタル刑期金額ニ下ルコトヲ得ス)ノ但書ニ從ヒ本件ノ最下減ヲ重禁錮二月十五日罰金十圓ト定メサルヘカラス左スレハ縱令二等ヲ酌減スルモ其最下限ヲ一月七日ノ重禁錮即チ二月十五日ノ四分ノ二、五圓ノ罰金即チ十圓ノ四分ノ二ニ下スコトヲ得ス然ルニ原裁判所カ被告再犯ノ所爲ニ對シ重禁錮一月罰金六圓ニ處シタルハ加減法ヲ誤リタルモノナリ又同布告ノ第二條ニ二倍トアルチ前キニ被告ニ科シタル刑期金額ノ二倍ニ處スヘキモノト解釋スルハ誤解ナ

二七	四六七
二八	三四
三六	七三

第七十一條

第七十一條

○賭場開張罪ノ從犯ヲ以テ論シ刑法第二百六十條ノ刑ニ一等ヲ減シ(二月七日以上九月以下ノ重禁錮一圓五十錢以上七十五圓以下ノ罰金)處斷スヘキモノナルコトヲ說示シ年ヲ二月ノ重禁錮七圓ノ罰金ニ處シタルハ刑ノ適用ヲ誤リタルモノトス
○刑法第三百六十七條ニハ云云六月以上五年以下トアリテ之ニ一等加重スレハ其長期ハ六年三月ト爲リ更ニ一等ヲ減スレハ四年八月九日ト爲リ又之ニ一等ヲ加重スレハ五年十月十一日ト爲ル即チ此場合ニ於テハ加減ノ結果五年十月十一日以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキモノナルニ重禁錮六年ノ刑ヲ科シタルハ不當ナリトス
○刑法施行前ニ犯シタル數罪ト其施行後ニ犯シタル數罪トニ付キ同時ニ判決ヲ爲ス場合ニ於テ前者ニ對シ舊刑法ノ規定ヲ適用スヘキトキハ刑法施行法第九條ノ明文アルカ爲メ舊刑法第七十條第二項ハ之ヲ適用シ得サルモノトス

第四章 不論罪及ヒ減輕

第一節 不論罪及ヒ宥恕減輕

第七十五條

第七十五條

○抗拒スヘカラサル強制ニ關スル事實ヲ認定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

舊刑法 總則 不論罪及ヒ減輕 不論罪及ヒ宥恕減輕

二六	三〇五
三五	一五五
三六	一四三六
四四	七九
二四	一一
三一	三六

第七十七條

第七十七條

- 意思ノ繼續ト行爲ノ繼續トハ併存スヘキモノニ非ス
- 意思繼續ノ認定ハ承審官ノ職權ニ屬ス
- 犯罪ノ成立ニハ故意アルヲ以テ足レリトシ犯意アルヲ必要トセス
- 強盜ヲ毆打創傷シタル場合ト雖モ尙ホ毆打創傷罪ヲ構成ス從テ強盜ナリト誤信シテ他人ヲ毆打創傷セシメタル所爲ヲ以テ罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラザリシモノト謂フヲ得ス
- 竊盜ノ贓物ヲ隱匿遺失物ナリト信シ賣買ノ牙保ヲ爲シタル者ハ罪本重カルヘクシテ犯ス時知ラサル者ハ其重キニ從テ論スルコトヲ得ストアル刑法第七十七條ニ該當ス
- 甲者カ乙者ノ實印ヲ偽造行使スルニ當リ丙者ニ於テ之ヲ實印盜用ノ所爲ト誤信シ其犯罪ニ加功シタル場合ニハ丙者ハ刑法第七十七條第三項ノ適用ヲ受クルニ止マリ全然罪ト爲ルヘキ事實ヲ知ラザルモノトシテ同條第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス
- 他人ノ印類ヲ偽造シタル事實ヲ知ラス單ニ盜用ノ犯意ヲ以テ之ヲ使用セル場合ニ於テハ刑法第七十七條第三項ニ依リ其所爲ニ對シテ私印盜用ノ刑ヲ言渡スヘキモノトス
- 刑法第七十七條第四項ハ縱令實際ニ於テ法律規則ヲ知ラスシテ罪ヲ犯シタル者ト雖モ罪ヲ犯スノ意ナシト主張スルコトヲ許ササルコトヲ規定シタルモノトス而シテ同條項ニ所謂「法律規則」トハ其刑罰法ナルト否トナ問ハサルモノトス

第七十八條

第七十八條

- 飲酒酩酊ヲ以テ精神ノ喪失ト認ムルト否トハ承審官ノ事實認定ニ屬ス
- 法律ハ酒醉者ノ飲酒シタル事實ヲ以テ知覺精神ノ喪失ヲ推測スルコトヲ許ス

第七十九條

第七十九條

- 酌量ノ餘典ニ乘シ故意ヲ以テ放火ヲ爲シタル所爲ハ精神喪失ノ所爲ニ非ス
- 十二歳ニ滿タサル者ノ罪ヲ論セサルハ犯罪ノ要素タル意思ヲ缺ケルモノト看做スニ依ル從テ其加功アルモ共犯ヲ以テ論スルヲ得ス
- (反對) 罪ヲ犯ス時十二歳ニ滿タサル者ノ不論罪及七親族相竊ム者ノ竊盜ヲ以テ論セサルハ畢竟身分ニ依リ其罪ヲ論セサルノミ其性質ニ於テハ則チ竊盜タルコト論ヲ映タス故ニ十二歳未滿ニノ幼者及七親族間ノ竊取ニ係ル財物ヲ寄藏シ又ハ故買シタル者ハ刑法ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス
- 被告人ノ年齢ハ必スシモ戸籍ニ憑據スルヲ要セス證人及ヒ參考人ノ豫審調書ヲ採容シ之ニ依テ算定スルコトヲ得而シテ其年齢ノ算定ハ事實問題ニ屬ス
- 懲治處分ハ裁判權ニ付セラレタル特別ノ處分ニシテ刑ヲ言渡シタル公訴判決ト其性質ヲ異ニス從テ該處分ニ對シテ上訴スルヲ得ス
- 十二歳以下ノ幼者カ竊ニ他人ノ財産ヲ持出シタル行爲ハ犯罪ヲ構成セス從テ其物件ヲ收受スルモ贓物ニ關スル罪ヲ以テ論スルコトヲ得ス
- 懲治場ノ留置ハ特別ノ處分ニシテ刑ノ言渡ニ非ス
- 年齢ノ計算ハ月ヲ以テスヘキモノニシテ日ヲ以テスヘキモノニ非ス

第八十條

第八十條

- 刑法第八十條ニ謂フ是非ノ辨別トハ所爲ノ善惡ヲ識別スルノ知力ニシテ罪ヲ犯スノ意思ノ有無ヲ論ズ

舊刑法 總則 不論罪及七減輕 不論罪及七宥恕減輕

二九	二八	三六	四〇	三九	三二	三五	三三	三〇	三〇
八	一	一	一	一	一	四	五	九	九
三五	三四	一四六七	三五五	五六二	六二	四	三	三	三

○前科ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱ヲ異ニスルモ再犯加重ノ法律適用トシテハ何等ノ影響ヲ有セズ從テ第一審ニ於テ其言渡ヲ爲シタル裁判所ノ名稱ヲ誤記シタルニ對シ第二審ニ於テ之ヲ更正スルモ第一審判決ヲ取消スノ要ナシ

○關席判決ヲ以テ言渡シタル刑力法定期間ノ滿了ニ因リ期滿免除ト爲リタル場合ニハ法律ハ一方ニ於テ關席判決ヲ確定不可動ト爲シ之ト同時ニ其刑ヲ免除スルモノニ外ナラザレハ該判決ヲ以テ處罰セル犯罪ハ再犯ノ原由タルニ妨ナシ

○在韓帝國領事官ハ輕罪事件ノ裁判權ヲ有シ憲法第六十條ニ謂フ特別裁判所ノ職務ヲ行フモノニ該當ス而シテ刑法再犯加重ノ法則ハ特別裁判所ノ確定判決アル場合ニモ亦適用スヘキモノナレハ通常裁判所方該領事官ノ言渡シタル輕罪犯ノ確定判決ヲ以テ再犯加重ノ原由ト爲シタルハ相當ナリ

○舊法ニ於テ再犯加重ノ例ニ依ルヘキ犯罪ニ付キ新法カ再犯加重ノ例ヲ用井サル旨ヲ規定シタルトキハ其犯罪ハ如何ナル場合ト雖モ再犯罪ノ前科タルコトヲ得ス

○甲罪ニ對スル判決ノ確定前乙罪ニ著手シタル場合ト雖モ其確定後始メテ終了ニ至リタルトキハ乙罪ハ再犯ノ條件ヲ具備スルモノトス

第九十一條

第九十一條

○判決ハ特典ノ爲メニ其效ヲ失ハス從テ前犯重罪ノ判決ヲ受ケタル後特典ニ依リ輕罪ノ刑ニ減セラルルモ後犯重罪ニ係ルトキハ仍ホ重罪ノ再犯加重ヲ以テ論ス

第九十二條

第九十二條

○刑法第九十二條ニ所謂先ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者トハ重罪輕罪ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ノ義ニシテ刑ノ執行ヲ受ケタル者ノ謂ニ非ス

○舊刑法第九十二條後段ニ再犯輕罪ニ該ル時トアルハ再犯ノ罪輕罪ノ刑ニ當ル時ヲ指稱セルモノトス

(同(五七))

刑法第九十二條ニ再犯輕罪ニ該ル時トアルハ再犯ノ罪輕罪ノ刑ニ該ル時ヲ指シタルモノトス

第九十五條

第九十五條

○刑期服役中ト雖モ或場合ニ於テ犯罪行爲ヲ爲スハ不能ノ事ニ非サルヲ以テ服役中ノ犯罪ヲ判決スルニ當リ特ニ其場合ヲ設示セサルモ不法ニ非ス

第六章 加減順序

第九十九條

第九十九條

○自己ノ身體ニ暴行ヲ加ヘラレタルニ因リ直ニ怒ヲ發シ暴行人ヲ毆傷シ一目ヲ失明セシメタル場合ニ於テ其所爲三犯ニ係ルトキハ刑法第三百條第二項第三百九條第三百十三條ニ依リ酌減シタルモノヲ以テ本刑ト爲シ而シテ同法第九十八條第九十二條ニ依リ之ニ加重スヘキモノトス

第七章 數罪俱發

第一百條

第一百條

舊刑法 總則 加減順序 數罪俱發

三五	一	五三
三七		二〇三
三七		二二五
三六		九〇六
三九		三〇七
二八	三	五九

三七		一〇〇
四二		三三
三〇	九	九〇
三五	四	三二
三七		五六一

- 同一ノ偽造證書ヲ再度行使スルモ其第二ノ所爲タル第一ノ所爲ノ結果ニ外ナラサルトキハ別ニ一罪ヲ構成スルモノニ非ス
- 連續犯ハ繼續犯ト同シク前後ノ所爲ヲ通シテ一罪ト爲シ處斷スヘキモノナレハ其犯罪未タ終了ヲ告ケサルニ其幾分ヲ切斷シテ一罪ト爲シ處罰スルコトヲ得ス
- 明治十九年勅令第六十號酒造稅則附則ニ違犯シ清酒製造及ヒ制限高超過釀造ノ二所爲三期間ニ涉リ併發スルトキハ連續犯ヲ以テ論シ各一罪トシ科罰スヘキモノトス三期間ニ六罪ヲ組成シタルモノト爲シ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリ
- 偽造行使ノ罪ヲ成スニ必要ナル條件ヲ具備スル以上ハ其偽造シタル文書カ他ノ偽造行使罪ヲ構成スルニ必要ナルト否ヲ論セス各箇別罪ヲ成ス
- 原院裁判長カ被告ニ對シ是迄處刑ヲ受ケタルコトナキカト問ヒタレハ無シト答ヘ又檢事ニ於テモ二罪俱發ノ事ニ關シ何等ノ辯論ヲモ爲シタルコトナキモノハ審理外ノ事ニ屬スルヲ以テ刑法第百條ヲ適用シテ處斷セザリシモ不當ニ非ス
- 本件以外ノ被告事件ニ付キ原院ノ言渡シタル有罪ノ判決ニ對シテ上告中原院ニ於テ本件ノ判決ヲ爲シタルニ數罪俱發例ニ依テ相當ノ判決ヲ與ヘサルハ違法ナリト論告スレトモ曩ニ原院ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケタル事件ハ原院カ本件ト共ニ併合審理シタルモノニ非ス又原院カ本件ノ判決ヲ與フルノ當時上告中ニ係リ未タ確定判決ヲ經タルモノニ非サレハ數罪俱發例ヲ適用セザリシヲ以テ不當ト爲スヲ得ス
- 數罪俱發ノ事件ヲ斷スルニ當リ刑法第百條ヲ適用セサル裁判ハ不法ナリ
- 犯罪ノ日時場所ニ異同アルモ意思ノ繼續アル以上ハ一罪トシテ處斷スヘキモノトス而シテ其意思ノ繼續ヲ認定スルハ事實問題ニ屬ス

二四	二	二
二五	一	九二
二五	四	一〇一
二七	三	一一三
二七	三	一一三
二六	二	一一〇
二六	二	一一〇
二九	一	九二

○二箇各別ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合ニ在リテハ其一ハ控訴期間ヲ經過シタル爲メ棄却ノ言渡ヲ爲スモ仍ホ二箇ノ判決ヲ對照シ數罪俱發例ニ依リ處斷スヘキモノトス

(同(三))

- 被告カ一ノ犯罪ニ付キ甲地方裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケ又他ノ犯罪ニテ乙地方裁判所ニ於テ裁判ヲ受ケタル場合ニ被告カ右二箇ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルトキハ其判決ハ未タ確定セサルヲ以テ原院カ刑法第百二條ヲ適用處斷セサルハ相當ナレトモ數罪俱發ニ付キ刑法第百條ヲ適用シ一ノ重キニ從テ處斷スヘク決シテ各罪ニ付キ各本刑ヲ併科スヘキモノニ非ス故ニ甲乙裁判所ニ取消シ更ニ相當ノ判決ヲ爲スヘキニ右二箇ノ裁判ヲ認可シ遂ニ二刑併科ノ結果ヲ生スルニ至ラシメタルハ破毀ヲ免レサル裁判ナリ
- 爲替證書ト爲替報知書トハ其效用ヲ異ニス從テ二者ヲ偽造行使シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス
- 竊盜罪ヲ數回ニ犯シタル場合ニ在リテモ連續犯ト認メタル以上ハ一罪トシテ處斷ス
- 同一ノ目的ヲ以テ同時ニ二通ノ證書ヲ偽造シ之ヲ同一ノ場所ニ於テ同時ニ行使シタル所爲ハ一所爲ニシテ二所爲ニ非ス

(反對)

- 約定證書ヲ偽造シ同一ノ目的ヲ以テ同時ニ行使シタルトノ認定ナレハ證書偽造行使罪ハ一罪ニ止マリ二罪ヲ以テ論スヘキモノニ非スト被告論告スレトモ二通ノ證書ハ結局騙取ノ手段トシテ行使シタルトスルモ各直接ニ其效用ヲ異ニスル以上ハ縱令同時ニ之ヲ行使スルモ各別ニ犯罪ヲ成立セシムルコト明白ナレハ數罪俱發ノ例ヲ適用シテ處斷スルヲ當然トス
- 同一ノ人ニ對シ同一ノ目的ヲ以テ其意思間斷ナク繼續シテ數度ニ詐欺取財罪ヲ犯シタルトキハ一罪トシテ處斷ス

二九	八	四三
二七	三	二四三
三〇	五	二七〇
三〇	五	二七〇
三〇	五	二六
三〇	五	四八
二七	一	四四
三〇	五	六九

- 文書ノ正本副本若クハ原本贖本各通テ偽造行使シタル所爲ハ一罪ナリ
- 再犯ニ係ル數罪俱發ノ場合ニ於テハ先ツ再犯加重例ニ照シ其數罪ニ付キ各一等于加ヘ然ル後數罪俱發例ヲ適用シ一ノ重キニ從ヒ處斷スヘキモノトス
- 監守盜ヲ爲スニ因リ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シ又ハ毀棄シタル所爲ハ一罪ニ非スシテ二罪ナリ
- 地所賣買證書正副二通ヲ偽造シテ同時ニ行使シタル所爲ハ一所爲ニシテ二所爲ニ非ス
- 第一審裁判所ニ於テ二箇ノ所爲ヲ各別ニ判決シタルニ際シ共ニ控訴シタルトキハ第二審裁判所ハ之ヲ併合審理シ數罪俱發例ヲ適用シテ處斷スヘキモノトス
- 甲者乙者ノ泥醉ニ乘シ公正證書作成ニ關スル委任狀ヲ作り乙者ニ對シテハ債務ヲ保證セシコトヲ確ムル書面ナリト欺キ之ニ署名捺印セシメテ行使シタル所爲ハ私印盜用私書偽造行使ノ二罪ヲ構成ス
- 同一ノ事實ニ對シ第一回ニ於テ甲ヲ誣告シ第二回ニ於テ甲乙共謀ナリトシテ誣告シタル所爲ハ二罪俱發ナリ
- 幼者タル甲ノ智慮淺薄ナルニ乘シ證書類ヲ授與セシメタル後其證書ニ基キ乙ニ對シテ金圓ヲ騙取セントシタル所爲ハ二罪ヲ構成ス
- 一定ノ期日ニ登記ヲ履行セサレハ違約金ヲ支出スヘシトノ賣買契約證書ヲ騙取シタル上期日ニ登記履行ニ差支ヲ生セシメ以テ其違約金預書及ヒ違約賠償金ヲ騙取シタル所爲ハ賣買契約證書騙取ノ結果ナレハ一罪ニシテ二罪ニ非ス
- 數罪俱發一ノ重キニ從テ處斷スルハ其俱發セル數罪ノ全部ニ對シ單一ノ刑ヲ科スルモノニ外ナラス

三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

- 他人ノ相續人ト爲ラント欲シテ入籍届及ヒ家督相續届ヲ偽造シ後更ニ其財産ヲ騙取セントシテ建物證明願書等ヲ偽造行使シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス
- 他人ノ實印ヲ竊取シタル上之ヲ偽造證書ニ押捺シテ行使シタル所爲ハ竊盜及ヒ印影盜用ノ二罪ヲ構成ス
- 意思ノ繼續ヲ認メサル二箇ノ所爲ハ各別ニ犯罪ヲ構成ス
- 誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論スヘキモノナルヲ以テ同時ニ數人ヲ誹毀シタル場合ト雖モ各被害者ニ對シ各一罪ヲ構成ス
- 數罪俱發例ニ依テ處斷スヘキモノハ其管轄ニ屬スル事件ニ限ルモノトス
- 意思ノ繼續ニ依リ一罪ヲ成スト否ハ被害者ノ異同ヲ以テ標準ト爲スヘキモノニ非ス
- 二人ヲ殺害セントコトヲ豫謀シ以テ二人ヲ殺害シタルトキハ數罪俱發例ヲ適用スヘキモノトス

三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三	三三
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

- 數人共謀ノ上同一ノ決意ヲ以テ同時同所ニ於テ他ノ數人ニ對シ殺害ノ行爲ヲ加ヘタルトキハ各被害者ニ對シ各別ノ犯罪ヲ構成スヘキモノニシテ一罪トシテ處斷スヘキモノニ非ス
- 詐欺取財罪ヲ犯シタル後其犯跡ヲ掩蔽スル爲メ官文書ヲ偽造行使シタル所爲ニ對シ刑法第三百九十條第二項ヲ適用シタル判決ハ擬律錯誤ノ不法アリ

三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

- 監守盜罪ヲ犯シ其犯跡ヲ蔽ハンカ爲メ官ノ文書簿冊ヲ増減變換シタル所爲ハ監守盜ト官文書變造ノ二罪ヲ構成ス
- 郵便爲替證書ヲ竊取シテ其金員ヲ收受シタル所爲ハ該金員ヲ收受スルニ付キ擅ニ該證書ニ受取人ノ氏名等ヲ偽造シテ之ヲ行使シタル以上ハ郵便爲替證書竊取罪ト文書偽造行使罪トノ二

三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九

同時ニ之ヲ燒燬シタルトキハ人ノ住居セサル家屋ヲ燒燬シタル所爲ハ人ノ住居シタル家屋ヲ燒燬シタル重キ犯罪中ニ包括シ別ニ一罪ヲ構成セス

(同主目)

人ノ住居シタル家屋ト人ノ住居セサル家屋ト相接續セルモノヲ燒燬スルノ目的ヲ以テ火ヲ放チ共ニ之ヲ燒燬シタル所爲ハ一罪ニシテ數罪俱發ニ非ス

○二人以上ヲ曲庇陷害スル爲メ偽證ヲ爲シタル場合ニ在テハ其行爲ハ一箇ノ供述ニ基クトキト雖モ一罪ヲ構成スルニ止マラスシテ數罪ヲ構成ス

○犯人カーノ犯罪ヲ行ハントスルノ決意ヲ爲シ其決意ノ實行上犯罪遂行ニ必要ナル數箇ノ所爲ヲ爲シタル場合ニ其各所爲カ互ニ相連絡シ犯人カ當初企圖シタル目的ノ範圍内ニ於テ此等ノ行爲ヲ爲シタルモノナルニ於テハ各箇ノ所爲ハ獨立ノ犯罪ヲ構成セスシテ相共ニ一罪ヲ構成ス而シテ其行爲ノ日時場所ノ異同ハ之ヲ問フノ要ナシ

○徵收臺帳ヲ燒燬センカ爲メ市役所ニ放火シタル所爲ハ臺帳燒燬ノ所爲ト市役所燒燬ノ所爲ト箇箇別別ニ放火シタル二箇ノ所爲アルニ非ス從テ二罪俱發ニ非スシテ市役所燒燬ノ一罪ヲ構成スルニ過キサルモノトス

○犯罪ノ單一ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ犯人ノ爲シタル法益侵害ノ單一ナリヤ否ヤヲ以テ標準トス從テ犯人ノ所爲カ數箇ノ罪名ニ觸レ又ハ數回同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ所爲ノ單一ナルト否トヲ論セス其法律違反ノ數ニ相當スル犯罪ヲ構成スヘキハ當然ナリ

○刑ノ輕重ハ主刑ノ輕重ニ依リテ之ヲ定メ主刑相等シキトキハ附加刑アルモノヲ以テ重シト爲ス故ニ第二審ニ於テ第一審判決ヲ附加セザリシ罰金及ヒ監視ヲ附加スルモ其主刑ニシテ第一審判決ヨリ輕キトキハ之ヲ重キ刑ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

(同主目)

附加刑ノ罰金ト監視トハ之ヲ比較シテ其輕重ヲ定ムヘキ標準ナシ從テ重禁錮竝ニ附加罰金ヲ言渡シタル第一審判決ヲ變更シテ重禁錮竝ニ附加監視ノ刑ニ處スルモ之ヲ以テ被告人ノ不利益ニ變更シタルモノト云フヲ得ス

刑ノ輕重ハ主刑ヲ以テ標準トス從テ第一審判決ニ於テ附加セザリシ罰金ヲ附加スルモ主刑ニシテ第一審判決ヨリ輕キトキハ第一審判決ヲ被告ノ不利益ニ變更シタルモノニ非ス

○毆打創傷罪ハ其結果ニ依リ刑ヲ定ムルモノトス故ニ輕重ノ創傷アリテ其内ノ幾部カ致死ナル結果ヲ生シタルトキハ輕キ結果ハ最重ノ致死ナル結果ニ包含セラレヘキモノナレハ單一罪トシテ處斷スヘキモノトス

○同一事件ニ付キ同一ノ法廷ニ於テ同一ノ證人訊問ニ際シ證人カ數多ノ事項ニ涉リテ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル場合ト雖モ其陳述カ同種同性質ノモノニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルモノナルトキハ相共ニ一箇ノ偽證罪ヲ構成ス

○同一ノ目的ヲ以テ同時同所ニ於テ官權ノ執行ヲ妨害シタルトキハ縱令其執行者ハ數多ノ官吏ナリトスルモ一罪ヲ構成スルニ過キス

○委任狀ト登記申請書トハ各其性質ヲ異ニシ登記ニ關シテハ各別ニ效力ヲ有スルヲ以テ苟モ此二箇ノ文書ヲ偽造スルニ於テハ其行使ハ同時ナルモ二罪ヲ構成スヘキモノトス

○明治三十七年海軍省令第一號ノ發布後海軍大臣ノ許可ヲ得スシテ新聞紙上ニ前後數回軍艦御用船ノ動作ニ關スル事項ヲ掲載シタル場合ニ其所爲カ被告ノ意思ニ因リテ一罪ヲ成スモノナリヤ否ヤヲ定ムルハ事實審官ノ職權ニ專屬ス

○甲乙及ヒ丙郵便電信局ノ消印ヲ偽造行使シタル所爲ハ縱令其偽造印ヲ同一ノ文書ニ押用セル

三六	二	五六二
三三	二	九五
三六	一	六六七
三六	一	一三九二
三六	一	一五二七
三七	一	五一
三七	一	一四五
三三	二	八三
三四	二	四四
三七	一	二九三
三七	一	四七二
三七	一	五七〇
三七	一	五八〇
三七	一	六五八

- 數罪俱發例ニ據リテ處斷スヘキモノトス
- 一箇ノ意思ヲ繼續シテ數箇ノ犯罪行為ヲ行ヒタルトキハ其數箇ノ行為ハ之ヲ一罪トシテ處斷スヘキモノトス
- 數人ヨリ委託ヲ受ケテ保管スル數口ノ金圓ヲ不正ニ使用シタル場合ト雖モ唯一ノ意思ノ發動ニ因リ同一期間内ニ同一ノ場所ニ於テ之ヲ費消シタルモノナルトキハ單一罪トシテ處斷スヘキモノトス
- 免許ヲ受ケスシテ清酒竝ニ醗ヲ製造シタル場合ニハ清酒製造ノ所爲ニ付キ酒造稅法第二十二條ヲ適用スルト同時ニ尙ホ醗製造ノ所爲ニ付テハ酒母醗及麴取締法第九條ヲ適用シ二罪俱發トシテ處分セサルヘカラス
- 他人カ竊取シタル仕切書ヲ材料ト爲シ私書ヲ偽造變造シ其偽造若クハ變造文書ヲ行使シテ詐欺取財ヲ爲シタルトキハ緣由ノ如何ヲ問ハス竊盜罪ト獨立シテ別ニ犯罪ヲ構成スヘキモノナレハ之ヲ以テ竊盜罪ノ結果若クハ事後ノ從犯ナリト云フヲ得ス
- 犯罪ノ場所及ヒ被害者ヲ異ニスルモ意思ノ繼續アル以上ハ法律上一罪トシテ處斷スルノ妨ト爲ラス
- 阿片烟ヲ所有シ又ハ受寄シタル後之ヲ吸食シタル所爲ハ一罪ニ非スシテ二罪ナリ
- 恐喝取財罪ノ構成要件タル恐喝ノ手段カ不法ニ被害者ヲ監禁スルニ依リテ遂行セラレタル場合ト雖モ其所爲ハ二箇ノ別異ナル法益ヲ侵害シタルモノニシテ不法監禁及ヒ恐喝取財ノ二罪ヲ構成ス
- 他人名義ノ告訴狀ヲ偽造行使シテ誣告ヲ爲シタル所爲ハ文書偽造行使及ヒ誣告ノ二罪ヲ構成ス

三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

○一人若クハ數人共謀シテ數次ニ同種同性質ナル數箇ノ犯罪行為ヲ爲シタル場合ニ於テ各行爲ニ付キ單一罪ニ唯一ノ犯意存スルトキハ其數多クノ行為中目的ヲ達シタルモノトシテ之ヲ達セサルモノトアルニ拘ハラヌ所爲全體ヲ包含シタル一箇ノ犯罪ヲ構成スルモノトス

(同種罪)

- 同一ノ目的ヲ以テ同種同性質ナル數箇ノ所爲ヲ行ヒタルトキハ之ヲ一罪トシテ處斷スヘキモノトス
- 官吏其職務ヲ執行スルニ當リ暴行ノ結果之ヲ毆傷シタル者ハ刑法第四百十條ニ依リテ處斷スヘキ特定ノ一罪ヲ構成シ同第三百三十九條第一項ノ罪ト毆打創傷ノ各罪ノ數罪俱發ニ非ス
- 一箇ノ請託ニ對スル報酬トシテ二回ニ金錢ヲ收受スルハ收賄ノ一罪ニシテ二罪ニ非ス
- 八名ノ押印アル一通ノ債權證書ニ虛偽ノ事項ヲ記載シ之ヲ行使スルハ集合セル八箇ノ印影ニ對スル一所爲ナリトス故ニ其印ニシテ同一制裁ニ屬スルモノナルトキハ一箇ノ印影盜用罪トシテ之ヲ處斷セサルヘカラス
- 勳章年金支拂通知書ヲ騙取シ之ヲ偽造行使シタル所爲ハ一罪ニ非スシテ二罪ナリ
- 一ノ犯罪行為ニシテ他ノ犯罪ノ手段ト爲リ他ノ罪名ニ觸ルル場合ニハ特別ノ定ナキ限り之ヲ二罪トシテ處罰スヘキモノトス
- (同種罪)
- 犯罪遂行ノ手段ト雖モ一箇ノ犯罪ヲ構成スル場合ニ於テハ特別ノ定ナキ限ハ別罪ヲ成スモノトス故ニ監守盜罪ヲ犯スニ因テ私書ヲ偽造行使シタル所爲ハ私書偽造行使竝ニ監守盜ノ二罪ヲ構成ス
- 犯罪遂行ノ手段ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルニ於テハ特別ノ規定アル場合ノ外別罪ヲ構成ス從

三三	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇
三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇	四〇

テ森林盜幫助ノ手段トシテ官印ヲ盜用シタル所爲ハ官印盜用ト森林盜幫助トノ二罪ナリトス
犯罪ノ手段タル行爲ト雖モ刑罰法ニ觸ルルトキハ之ヲ一箇ノ犯罪トシテ處斷スヘキモノトス

○五十錢及ヒ二十錢ノ銀貨ニハ各料異ナリタル法益附著スルヲ以テ之ヲ偽造シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス

○犯人カ同一ノ目的ヲ以テ同時同所ニ於テ數通ノ文書ニ同一ノ偽造印ヲ捺捺シ之ヲ使用セル場合ト雖モ其文書ノ性質ニシテ各相異ナル以上ハ數罪ヲ構成スルモノトス

○公文書ヲ竊取シタル後之ヲ毀棄セル所爲ハ二罪ヲ構成スルモノトス

○數ハテ陷害スルノ目的ヲ以テ誣告ヲ爲シタル場合ニハ其被害者ノ數ニ應ジ各獨立シテ數箇ノ誣告罪ヲ構成スルモノトス

(同左) 二人以上ヲ陷害センカ爲メニ誣告ヲ爲シタルトキハ犯人ノ行爲ハ一ナルモ其結果ハ各人ニ付テ生スルカ故ニ二箇以上ノ犯罪ヲ構成ス

○數人ニ對シ日時ヲ異ニシテ數回誣告ヲ爲シタル場合ト雖モ其告訴ノ事實同一ナル以上ハ各被害者ニ對シ各一罪ヲ構成スルニ過キサレモノトス

○小切手ヲ騙取セル後之ヲ變造シテ行使シタル所爲ハ一罪ニ非スシテ二罪ナリ

○預金通帳ヲ竊取シ預金ノ拂戻ヲ受ケタル場合ニ於テハ其預金受領ノ所爲ハ自ラ通帳竊取ノ犯罪ニ包含セラレ獨立シテ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニ非ス從テ通帳竊取者カ受領シタル金員ハ詐欺取財ノ贓物ニ非スシテ竊盜ノ贓物ナリ

(同左) 郵便貯金通帳ヲ竊取シ其貯金ノ拂戻ヲ受ケタル場合ニ於テハ貯金引出行爲ハ自ラ通帳竊取ノ行爲ニ包含セラレ別ニ獨立シタル詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

○別箇ノ法益ハ獨立ノ犯罪ヲ構成スルモノトス而シテ各箇ノ法益侵害カ別異ナル犯意ノ發動ニ基クヤ將タ同一ノ目的ヲ遂行スル爲メ同一意思ノ發動ニ因ルヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○數箇ノ法益侵害ノ所爲カ互ニ原因結果ト爲リテ相連絡シ犯人ノ目的ヨリ之ヲ包括的ニ觀察スルコトヲ得ル場合ト雖モ法律カ特別規定ヲ設ケテ單一罪ト爲ササル限り裁判所ハ之ヲ數罪トシテ處分スヘキモノトス

○公正證書ト其作成ノ委任狀トハ文書トシテノ性質效用ヲ同ウセス故ニ偽造委任狀ヲ行使シテ公正證書ヲ偽造シタル所爲ハ一罪ニ非スシテ二罪ナリ

(同左) 委任狀ヲ偽造シ他人ノ代理資格ヲ冒シテ公正證書ニ署名捺印シタル所爲ハ各獨立セル文書偽造罪ヲ構成ス

○場所ヲ異ニシテ犯サレタル所爲ト雖モ犯人ノ意思及ヒ其所爲ノ性質ニ因リ相共ニ一罪ヲ構成スルコトヲ妨ケス

○詐欺取財ヲ爲スニ因リ公文書ヲ偽造行使シ其公文書ヲ偽造行使スルニ因テ公印ヲ盜用シタル所爲ハ法律上之ヲ一罪ト做シ單一ノ刑ヲ以テ處分スヘキモノナレハ右各箇ノ行爲ハ一罪ノ一部トシテ包括的ニ之ヲ觀察シ其全部カ公訴ノ時効ニ罹ルヤ否ヤヲ定ムヘキモノトス

○公正證書作成ノ代理委任狀及ヒ本人證明願書ヲ偽造シ公證人ヲシテ公正證書ヲ作成セシメ之ヲ行使シ他人ヲ欺罔シテ金圓ヲ騙取シタル場合ニハ其本人證明願書ハ詐欺取財ヲ爲ス手段ト

舊刑法 總則 數罪俱發

四八三

テ森林盜幫助ノ手段トシテ官印ヲ盜用シタル所爲ハ官印盜用ト森林盜幫助トノ二罪ナリトス

○五十錢及ヒ二十錢ノ銀貨ニハ各料異ナリタル法益附著スルヲ以テ之ヲ偽造シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス

○犯人カ同一ノ目的ヲ以テ同時同所ニ於テ數通ノ文書ニ同一ノ偽造印ヲ捺捺シ之ヲ使用セル場合ト雖モ其文書ノ性質ニシテ各相異ナル以上ハ數罪ヲ構成スルモノトス

○公文書ヲ竊取シタル後之ヲ毀棄セル所爲ハ二罪ヲ構成スルモノトス

○數ハテ陷害スルノ目的ヲ以テ誣告ヲ爲シタル場合ニハ其被害者ノ數ニ應ジ各獨立シテ數箇ノ誣告罪ヲ構成スルモノトス

(同左) 二人以上ヲ陷害センカ爲メニ誣告ヲ爲シタルトキハ犯人ノ行爲ハ一ナルモ其結果ハ各人ニ付テ生スルカ故ニ二箇以上ノ犯罪ヲ構成ス

○數人ニ對シ日時ヲ異ニシテ數回誣告ヲ爲シタル場合ト雖モ其告訴ノ事實同一ナル以上ハ各被害者ニ對シ各一罪ヲ構成スルニ過キサレモノトス

○小切手ヲ騙取セル後之ヲ變造シテ行使シタル所爲ハ一罪ニ非スシテ二罪ナリ

○預金通帳ヲ竊取シ預金ノ拂戻ヲ受ケタル場合ニ於テハ其預金受領ノ所爲ハ自ラ通帳竊取ノ犯罪ニ包含セラレ獨立シテ詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニ非ス從テ通帳竊取者カ受領シタル金員ハ詐欺取財ノ贓物ニ非スシテ竊盜ノ贓物ナリ

(同左) 郵便貯金通帳ヲ竊取シ其貯金ノ拂戻ヲ受ケタル場合ニ於テハ貯金引出行爲ハ自ラ通帳竊取ノ行爲ニ包含セラレ別ニ獨立シタル詐欺取財罪ヲ構成スヘキモノニ非ス

四八三

四八三

四八三

四八三

四八三

四八三

四八三

四八三

四八三

(同左)

刑法第二百二條ニ所謂餘罪トハ或犯罪ノ判決後ニ至リ發覺シタル以前ノ犯罪ヲ云フ

○前發ノ刑カ禁錮罰金監視ニシテ後發ノ刑亦禁錮罰金監視ナルトキハ前發罪ニ科シタル禁錮ノミナラス罰金監視ノ刑モ同シク通算スヘキモノトス

○文書偽造ニシテ詐欺取財ノ手段タルトキハ二者通シテ一罪ヲ爲スモノナレハ詐欺取財罪ノ成立シタル日時ニ於テ文書偽造罪モ亦共ニ成立シタルモノトス從テ餘罪後發ノ場合ニ在リテハ一罪トシテ其法則(刑法第二百二條)ヲ適用ス

○前ニ發シタル一罪ニ付キ既ニ期滿免除ニ依リ開席判決ヲ以テ言渡サレタル刑ノ執行ヲ免レタル後餘罪發覺シ刑法第二百二條ヲ適用スルトキハ被告ハ刑ノ執行ノ全部又ハ一部ヲ免ルルノ結果ヲ生スヘキモ前發ノ罪ニ付キ確定判決ヲ經タル以上ハ同條ノ規定ヲ適用スヘキハ當然ニシテ其被告カ刑ノ執行ヲ免ルルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○刑法第二百二條第一項ノ通算スヘキ刑ニハ死刑ヲ包含セス

○刑法第二百二條ニ依リ前發ノ刑ヲ通算スルハ二箇ノ犯罪カ同時ニ發シタルトキハ數罪俱發例ニ因リ一ノ重キニ從テ處斷スヘキニ發覺ノ時期ヲ異ニスルカ爲メ通算方法ヲ以テ特ニ刑ノ併科ヲ避クルモノニ外ナラス

○刑法第二百二條第一項ノ場合ニ於テハ主刑ト附加刑トハ之ヲ通算スヘキモノニ非ス

○甲乙二罪ニ對シテ既ニ確定判決ヲ經タル後更ニ丙罪發覺シタル場合ニ於テ乙丙二罪ハ孰レモ甲罪ノ餘罪ナルトキハ刑法第二百二條第一項ニ依リ前發罪ノ刑ヲ以テ丙罪ノ刑ニ通算セサルヘカラス之ニ反シテ丙罪ハ甲乙二罪ニ對シテ等シク餘罪タルニ拘ハラズ乙罪ハ甲罪ノ餘罪ニ非スシテ其再犯罪ナルトキハ甲罪ト乙罪トハ各別ニ其刑ヲ科シ應ニ丙罪ノ刑ノ通算スヘキモノトス

○私文書ヲ偽造シ之ヲ行使シテ財物ヲ騙取セントシタルモ其目的ヲ遂ケザリシ場合ニハ縱令私文書偽造行使ノ所爲ハ或前科ノ判決確定ニ前ニ在リトスルモ詐欺取財未遂ノ所爲ト共ニ一罪ヲ爲スモノナレハ爾後該未遂罪ノ成立シタル日ヲ以テ始メテ完成スルモノトス從テ此場合ニハ刑法第二百二條ヲ適用スヘキモノニ非ス

○舊刑法第二百二條ニ所謂前發ノ刑ニ以テ後發ノ刑ニ通算スヘキ場合ニ於テ新舊法比照ノ基礎タルヘキ對照刑ヲホムルニハ後發罪ニ對スル法注刑ノ長期ヨリ前發ノ刑ヲ控除スヘキモノニシテ右法定刑ノ範圍内ニ於テ被告ニ科スヘキモノト量定シタル刑ヨリ之ヲ控除スヘキモノニ非ス

○舊刑法第二百二條ノ規定ハ犯人ヲ無期徒刑ニ處スヘキ場合ニ於テ前發ノ自由刑アルトキハ之ヲ通算スヘキ旨趣ナリトス

○舊刑法第二百二條第一項ニ所謂前發ノ刑ニハ其執行ヲ終リタルモノヲモ包含スルヲ以テ拘留ノ刑ニ處セラレタル後他ノ罪ニ付キ引續キ裁判所ニ拘留セラレタル場合ニ在テハ其刑ノ執行ヲ終リタルト否トニ拘ハラズ時効ノ經過スヘキモノニ非ス

○刑法第二百二條第二項ハ前發ノ罪ヲ判決スル時未ダ發覺セサル罪カ再犯ノ罪ト俱ニ發シタル場合ニ適用スヘキ特別ノ規定ナリ

(同左)

刑法第二百二條第二項ハ前發ノ罪ヲ判決スルトキ未ダ發覺セサル罪カ再犯ノ罪ト俱ニ發シタル場合ニ適用スヘキ特別ノ規定ナレハ之ニ適當セサル場 即チ俱ニ發シタルニ非サル場合ニ於テハ一般ニ係ル規定即チ同條第一項ヲ適用シテ處斷セサルヘカラス

二九	八	八九
三四	五	一八
三四	二	九
三五	一	三六
三六		四八三
三六		一五六七
三八		一二七七

三九		八三五
四一		三〇一
四二		一一六二
四二		八九〇
四四		九八七
四三	一	三〇
二八		四九〇

(反對)

茲ニ被告人アリ明治二十二年中他ノ犯罪ニ依リ處刑セラレタル本件ノ罪ヲ包藏シ同二十
四年中再犯ノ罪ニ依リ處刑セラレル際仍ホ之ヲ包藏シ其刑期滿限後本件ノ罪發覺シタルト
キハ刑法第百一條第一項ノ再犯ノ罪ト俱ニ發シタルノ例ニ依リ其再犯ノ刑ト通算スヘキモ
ノナルヲ以テ二十四年中ニ處斷セラレシ刑ハ通算シ二十二年中ノ處刑ハ通算セサルモノト
ス

○舊刑法第百二條第二項ニ所謂再犯ハ同第九十一條乃至第九十三條ノ加重セラレヘキ再犯タル
コトヲ要セスト雖モ陸軍ニ關スル法令ノ罪ト舊刑法ノ罪トノ關係ニ付テハ同條項ヲ適用スヘ
キモノニ非ス

(參照)

公文書偽造私文書偽造及ヒ詐欺取財罪等アル場合ニ於テ第一審カ無罪ヲ言渡シタル公印盜
用公文書偽造行使ノ點ニ對シ檢事ヨリ控訴ヲ爲シ其控訴ヲ理由アリトスルトキハ前記ノ各
罪ハ各箇ニテ罪ヲ構成スヘキモノニシテ一罪ナリト云フヲ得ス故ニ原院カ公文書偽造行使
ト公印盜用トノ各二罪ニ對シ刑法第百條ヲ適用シ尙ホ前發ノ刑ヲ通算スル爲メ同法第百二
條ヲ適用シタルハ相當ナリトス之ニ對シ同法第三百九十條第二項ヲ適用スヘキモノニ非ス
二罪俱發ノ事件ニ付キ一罪ノミヲ控訴シタルトキハ他ノ一罪ハ確定ノルヲ以テ控訴ニ係ル
一罪ハ餘罪後發ノ例 依リ處斷スヘキモノニシテ數罪俱發ノ法條ヲ適用スヘキモノニ非ス
第一審裁判所ニ於テ恐喝取財及ヒ賭博ノ二罪アレコトヲ認メ刑法第百條ニ基キ一ノ重キ恐
喝取財罪ニ依リ處斷シタル判決ニ對シ被告人ハ賭博罪ニ服シ恐喝取財罪ノミヲ控訴シタル
トキハ第二審裁判所ハ賭博罪ヲ以テ恐喝取財罪ノ餘罪ト爲シ刑法第百二條ヲ適用スヘキモノ
トス

數罪俱發一ノ重キニ從テ處分シタル第一審判決ノ一部ノ控訴ヲ受理審判スルニ當リ第一審
判決カ刑法第百二條ヲ適用セサルヲ不法トシテ其判決ヲ取消シタル第二審判決ハ不法ナリ

『第百三條』

○數罪俱發シタルトキハ主刑ハ重キニ從テ處斷シ沒收ノ附加刑ハ之ヲ併科ス

第八章 數人共犯

○刑法ト罰令トヲ問ハス犯罪行爲ニ科スル刑罰罰金ハ其共犯者各自ニ於テ全部ノ責任ヲ負フヘ
キモノトス從テ之ヲ分割負擔スルヲ得ヘキモノニ非ス

(同法第百)

刑罰ハ共犯者間ニ分割スヘキモノニ非ス

第一節 正犯

『第百四條』

○甲者乙者ト共ニ強盜ヲ爲ス際乙者ヲ助ケテ婦女ヲ強姦セシメタル所爲ハ強盜強姦罪ノ實行ニ
加功シタルモノナルヲ以テ正犯トシテ論セサルヘカラス

○數人共謀ノ事實アル以上ハ其共謀者中何人カ之ヲ實行スルモ共謀者一體ノ行爲ナリトス
(反對)

犯所ニ臨マサル者ニシテ教唆者ニ非サル者ハ縱令犯罪ヲ共謀スルモ正犯ノ刑ヲ科スルコト

舊刑法 總則 數人共犯 正犯

二九	一〇	一
三二	五	九
二九	一〇	六
三六		一六六
二九	二	三六
二九	三	四三
二九	一〇	

二六	二五八
四二	二六二
二八	二五〇
二八	一〇

ヲ得ス

- 私書偽造罪ハ行使ニ依リテ成立ス從テ知情行使ノ事實アルトキハ偽造ノ所爲ニ加功セサルモ犯罪執行ノ正犯ヲ以テ論ス
- 詐欺取財事件ニ付キ共犯ノ一人財物ヲ占有シタル以上ハ他ノ一人之ヲ占有セサルモ共ニ騙取ノ責任 道ルルヲ得ス
- 情ヲ告ケスシテ他人ヲシテ犯罪行爲ニ加功セシメタルトキハ犯罪者ニ於テ其刑責ヲ受クヘキモノトス
- 放火罪ヲ犯スニ當リ火ヲ放ツ者ト其發覺ヲ防キ若クハ逃亡ニ便スル爲メ見張ヲ爲ス者トハ兩者相俟テ犯罪ヲ遂行スルモノニシテ共ニ正犯ナリトス
- 情ヲ知ラサル第三者ヲ使役シテ犯罪行爲ヲ爲サシメタルトキハ縱令自ラ其所爲ヲ行ハサルモ正犯タルノ責任ヲ免レシ
- 取引所法ニ依リ處斷ヘキ犯罪ニシテ二人共犯ニ係ルトキハ刑法總則ニ從フヘキモノナレハ同法第五條第二項ヲ適用スヘキモノトス
- 公選投票詐欺報告罪(刑法第二百三十六條)ハ調書ヲ作成シ投票ノ結局ヲ報告スル身分ヲ有スル者ニ非サレハ實行正犯ニ非ス而シテ自身ガチ有セサル者ト雖モ教唆又ハ幫助ノ所爲アルトキハ教唆者又ハ從犯トシテ其犯罪ヲ構成ス
- 是非ノ辨別ナク犯罪ノ決心ナキ者ヲ用ヒテ放火セシメタルモノハ教唆者ニ非スシテ實行正犯ナリ
- 犯罪全部ニ付キ其方法ヲ畫策シタルコトヲ認定シタルニ拘ハラズ從犯トシテ處斷シタル判決ハ(雙律條)ノ不法アリ

二四	一	四五
二九	四	三〇
二九	五	二六
二九	八	二四
二九	一一	五六
三〇	二	五九
三〇	五	四
三〇	九	一一四
三一	三	六四

- 印影ノ盗用ヲ共謀シタル上他ノ共謀者ニ於テ之ヲ盜採シタル以上ハ自ラ手ヲ下サスト雖モ犯罪ノ實行ニ干與シタルモノトス
- 數人一體ヲ組成 犯罪行爲ヲ爲スモ各人自ラ干與セサル部分ニ付キ刑法上ノ責任ヲ負フモノニ非ス
- 詐欺破産罪ノ共犯ニハ刑法總則共犯ノ規定ヲ適用セシ
- 刑法第三百八十八條ノ虛偽ノ負債ヲ増加シタル者ト之ヲ増加スル爲メ虛偽ノ負債ヲ承諾シタル者トハ性質上共犯ナリトス從テ訴訟費用ハ連帶負擔セシム
- 共犯ノ一人ハ他ノ共犯者ヲ代表シテ行動ヲ爲スモノナルガ故ニ共犯中一人ノ行爲ニ付テハ他ノ共犯者モ共ニ其責ニ任スヘキモノトス
- 數人共謀シテ誣告ヲ爲ス場合ニ在テハ共謀者中一人ノ犯罪行爲ノ實行ハ共謀者全體ノ行爲ト看做スヘキモノトス

(同罪者)

誣告罪ニ共犯アリ

(反對)

- 誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ告訴狀ノ作成ニ加功シタル所爲ハ從犯ナリ
- 誣告罪ハ告訴人ノ外他ニ實行正犯アルコトナシ而シテ告訴人ト共謀シ其代人ト爲リ告訴狀ヲ檢事ニ提出シタル所爲ハ從犯ナリ
- 實行正犯トハ犯罪ノ成立ニ重要ナル行爲ヲ爲ス者ヲ云フ從テ見張ナルモノカ竊盜罪ノ成立ニ重要ナル行爲ナル以上ハ實行正犯ノ責ニ任スヘキモノトス

三二	九	二六
三二	一〇	六三
三三	六	一三
三四	一一	一三五
三五	三	八九
三五	六	六六
三〇	五	四八
三〇	四	五一
三〇	七	一
三六		三六

ノ行爲ナリトスルモ共犯者ハ共ニ強盜竊入罪ヲ以テ處斷スヘキモノトス
強盜ヲ爲サンコトヲ共謀シ其實行ニ與リタル以上ハ共犯者ノ一人カ爲シタル傷ハノ行爲ニ
付テ責任ヲ負フヘキハ當然トス

○數人共謀シテ罪ヲ犯サンコトヲ企テ一團ト爲リテ犯罪ヲ遂行シタル場合ニハ縱令共謀者ノ一
人ニ於テ實行ノ所爲ニ手ヲ下スコトナク唯共犯罪遂行ニ必要ナル所ルノミナ分擔シタルトキ
ト雖モ尙ホ實行正犯タル責罰ヲ免ルルコトヲ得ス

〔同五五〕

同類相謀リ豫メ欺罔ノ手段ヲ定メ其定メタル手段ノ如ク共謀者ニ於テ人ヲ欺罔シ金圓ヲ騙
取シタルハ即チ詐欺取財ノ實行ヲ分擔シタルモノニテ自ラ其事ヲ行ヒタルト同一ナリ
二人以上共ニ相謀リ各其分擔スル所ヲ定メ犯罪行爲ニ著手シタル以上ハ分身一體ニシテ均
シク正犯ナリ

二ハ共謀シテ一體ト爲リ犯行ニ著手シタル以上ハ其一人縱令手ヲ下ササルモ二人同一ノ罪
責ニ任セサルヘカラス

人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取センコトヲ共謀シ分身一體其目的ヲ遂行シタル以上ハ共犯者ハ表
面上直接加功セサル行爲ニ付テモ責任ヲ負フヘキモノトス

○數人共謀シテ公文書ヲ偽造行使センコトヲ企テ其決行ニ從事シタル場合ニハ縱令共謀者ノ一
人ニ於テ自ラ行使ノ所爲ニ干與セザリシトキト雖モ共ニ正犯タル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

〔同五五〕

詐書ヲ偽造シタルノミニシテ其行使ニ關與セサルモ共謀ノ事實アル以上ハ共ニ正犯タルノ
責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○強姦ヲ爲サンコトヲ共謀シ其目的ヲ遂ケタル以上ハ該犯罪ヲ遂行スル爲メ共謀者ノ一人カ被
害者ニ創傷ヲ負ハシメタル行爲ニ付テモ其責任スヘキハ當然ナリトス

○數人相共ニ他人ヲ教唆シテ竊盜ヲ爲サンコトヲ協謀シ之ヲ遂行シタル以上ハ縱令共謀者ノ一
人ニ於テ自ラ教唆ノ行爲ニ干與セサルモ俱ニ竊盜罪ノ教唆者タル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○數人共謀シ不正ニ行使スルノ目的ヲ以テ文書ヲ偽造セル以上ハ縱令共謀者ノ一人カ裁判所ニ
向テ之ヲ提出行使シタルハ當初ノ所期ニ違フ行爲ナリトスルモ其犯罪ヲ構成スル點ニ於テ更
ニ異ナル所ナクレハ孰レモ正犯タル責任ヲ免ルルコトヲ得ス

〔第百五條〕

〔第百五條〕

○被告ノ教唆ニ因テ被教唆者カ官林ヲ竊盜シ通常ノ竊盜罪ヲ以テ處斷セラレタルハ唯其監守者
タル身分ナキカ爲メノミナレハ之カ爲メ被告カ監守物件ヲ竊取スルノ教唆ヲ爲シタル罪實ヲ
變スヘキモノニ非ス故ニ原院カ刑法第百五條第二百八十九條ヲ適用シテ被告ヲ處斷シタルハ
相當ナリ

○縣會議員ノ言行ヲ憤リ人ヲ教唆シテ毆打セシメタル場合ニ於テ被教唆者ハ被害者ノ議員タル
コトヲ知ラザリシ等ノ事情ノ爲メニ違罪ニ處セラレルコトアルモ教唆者ハ仍ホ刑法第百五
條ノ刑責ヲ免ルルコトヲ得ス

○情ヲ告ケテ偽造官印ノ彫刻ヲ依頼シタル所爲ハ官印偽造罪ノ教唆ナリ

○教唆者ハ被教唆者ノ所爲ニ對シ其身分 從ヒ自身ニテ犯シタルト同一ノ刑責ヲ負フヘキモノ
トス

○教唆ハ被教唆者カ重罪輕罪ヲ犯シタルニ因テ犯罪ヲ構成ス從テ被教唆者カ罪ヲ犯シタル場所

三五	二五	四一	二九	二五	三〇	三五	四一	二九
六	八	一三六	九	三	五	一一	九	六
二八	九四	一三六	四	六七	七	二二	四	七
二八	二三五	二三五	四	五三九	四	四	四	四
二	四	四	二	二	二	二	二	二

○町長方融通ノ爲メニ收入役ヲシテ其職務上保管スル税金ヲ取出サシメタル所爲ハ監守盜ノ教唆罪ヲ構成ス

○目的物ヲ指定シ之ヲ竊取センコトヲ教唆シタル場合ニ於テ被教唆者カ其指定以外ノ物ヲ竊取シタリト雖モ教唆ニ因リ竊取ノ決意ヲ爲シタルトキハ教唆者ハ竊盜教唆ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○毆打ノ所屬ヲ教唆スル者ハ被教唆者ノ行フヘキ毆打ニ因リテ生スル結果ニ關シ一切ノ責任ハナルヘカラス故ニ被教唆者ニシテ其毆打ノ爲メ被害者ヲ死ニ致シタルトキハ教唆者モ亦毆打致死ノ罪責ヲ免レサルモノトス

〔同主旨〕

入テ毆打スルトキハ死傷疾病等ノ結果ヲ生スルハ理ノ當ニ然ルヘキ所ナリ故ニ毆打ヲ教唆スルモ創傷ハ關スル所ニ非スト云フヲ得ス苟モ毆打ヲ教唆シタル以上ハ其結果タル創傷ノ責任免ルルコトヲ得サルモノトス

○毆打ニ關スル犯罪ハ其結果ニ依テ刑責ヲ定ムヘキモノナレハ致死ノ場合ニ在リテハ單ニ毆打ヲ教唆シタル者ト雖モ仍ホ毆打致死罪ノ教唆者タル責任免レス

○毆打創傷罪ハ結果ニ依リテ刑法上ノ責任ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ苟モ毆打ヲ教唆シタル以上ハ其結果ニ對スル罪責ヲ免レサルモノトス

○人ヲ教唆シテ詐僞ノ婚姻届出ヲ爲サシメタル事件ニ付キ檢事ニ於テ男子ヲ教唆シタルコトノミヲ指摘シ起訴ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所カ女子ヲモ教唆セル事實アリト認ムルトキハ男女二名ヲ教唆シ犯罪ヲ爲サシメタルモノトシテ被告人ヲ處罰セサルヘカラス

○舊刑法第百五條ニ所謂教唆ハ直接ニ人ヲ教唆スル場合ノ外間接ニ人ヲ教唆シテ各本條所定ノ重罪輕罪ヲ犯サシメタル場合ヲモ包含セルモノトス

〔同主旨〕

○シメタルモノニ該當ス從テ其所爲ハ同法第二百二十五條第百五條ニ關シスヘキ犯罪ナリトス

○教唆犯ヲ罰スルニハ被教唆者カ其指定ノ罪ヲ犯シタル事實ヲ確定スレハ足り被教唆者ニ於テ裁判所ノ審理判決ヲ受クルト否トハ教唆罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

○舊刑法第百五條ニ所謂教唆ハ直接ニ人ヲ教唆スル場合ノ外間接ニ人ヲ教唆シテ各本條所定ノ重罪輕罪ヲ犯サシメタル場合ヲモ包含セルモノトス

〔同主旨〕

○刑法第百五條ハ被教唆者自ラ指定セラレタル重罪又ハ輕罪ヲ犯ス場合ナルト更ニ他人ヲシテ被教唆罪科ヲ執行セシメタル場合ナルトハ同ハス齊シク教唆者ヲシテ其責ニ任セシムルノ注意ナリトス

○刑法第百五條ハ被教唆者自ラ重罪又ハ輕罪ヲ犯シタル場合ナルト更ニ他人ヲシテ其教唆ニ係ル罪ヲ行ハシメタル場合ナルトハ同ハス苟モ他人ニ重罪輕罪ヲ犯スノ決意ヲ起サシメ教唆ニ係ル犯罪ノ結果ヲ生シタルトキハ教唆者ヲシテ其責ニ任セシムルノ注意ナリトス

〔同主旨〕

○刑法第百六條ニ所謂身分トハ官公吏及ヒ親族ノ身分等ノ身上ノ地位ヲ指稱シタルモノトス故ニ或權利義務ノ主體タル人ニ對シテ特別ニ科シタル加重ノ刑罰ハ之ヲ權利義務ノ關係ナキ他ノ共同正犯ニ科スルコトヲ妨ケス

〔同主旨〕

○刑法第百八條ハ毆打罪ノ如ク結果ニ依テ其罪責ヲ定ムヘキモノニ適用セヌ

〔同主旨〕

○舊刑法 總則 數人共犯 正犯

〔第百六條〕

○刑法第百六條ニ所謂身分トハ官公吏及ヒ親族ノ身分等ノ身上ノ地位ヲ指稱シタルモノトス故ニ或權利義務ノ主體タル人ニ對シテ特別ニ科シタル加重ノ刑罰ハ之ヲ權利義務ノ關係ナキ他ノ共同正犯ニ科スルコトヲ妨ケス

〔第百八條〕

○刑法第百八條ハ毆打罪ノ如ク結果ニ依テ其罪責ヲ定ムヘキモノニ適用セヌ

〔同主旨〕

○舊刑法 總則 數人共犯 正犯

三七	三七	三七	三七	四二	四二	四二	四二	四二	四二	四〇	三三	二九	二五	三九	三七	三七
五〇	二六五	二四九	八〇二	一七九五	五二九	一五二	一九	五〇	八七	一三五	五四〇	四四七				

○強盜ノ教唆ヲ爲シタル者ハ其實行方法ニ關シテ何等ノ制限ヲ付セザリシ場合ト雖モ強盜殺人教唆ノ責任ヲ負フコトナシ從テ強盜教唆者ヲシテ強盜殺人教唆ノ責任ヲ負ハシムルニハ教唆者ニ於テ被教唆者カ財物強取ニ關シ被害者ヲ殺害スルコトヲ豫見シタリトノ事實ヲ說示セサルヘカラス

第二節 從犯

〔第九九條〕

○刑法第九九條ニ從犯ハ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ストアルハ正犯カ現ニ受ケタル刑ヨリ一等ヲ減スヘキモノニ非スシテ法律ニ定メタル正犯ノ刑ヨリ一等ヲ減スヘキ趣意ナリトス〔同一判例二八年一〇四頁〕

○墮胎ヲ爲スノ情ヲ知テ房室ヲ給與シタル所爲ハ墮胎罪ノ從犯ナリ

○犯罪行爲ノ繼續中豫備ノ所爲ヲ以テ正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯ナリ

(同主旨)

器具ヲ給與シ正犯ヲ幫助シテ犯罪ヲ容易ナラシメタル者ハ器具ノ精粗其方法手段ノ巧拙ニ關セス皆從犯ナリ

○甲者カ乙者ノ丙者ニ硫酸ヲ注キ掛ケテ創傷ヲ成サシメントスルノ情ヲ知り硫酸買収ニ要スル書面ヲ作爲シテ乙者ニ渡シタルハ乙者ハ之ニ因テ硫酸一ポンドヲ買収シテ犯罪ヲ遂ケタルトキハ甲者ハ從犯ヲ以テ論スヘキモノナリ

○自ら證人タルノ資格ナキ者ト雖モ證人カ偽證ヲ爲スノ情ヲ知り乍ラ豫備ノ所爲ヲ以テ之ヲ幫助シタルトキハ偽證罪ノ從犯ナリトス

○從犯ノ罪ハ正犯ヲ幫助スル罪ナルヲ以テ正犯ノ行爲ニシテ犯罪ノ構成要素ヲ具備スル以上ハ從犯ノ罪モ亦成立スルモノトス從テ賄賂收受罪ニ付テハ正犯ニシテ官公吏タル身分ヲ有スル以上ハ從犯ノ身分如何ヲ問フノ要ナシ

(同主旨)

官吏ノ收賄ヲ幫助シタル非官吏ノ所爲ハ官吏收賄罪ノ從犯ナリ

○刑法第九九條ハ正犯者カ罪ヲ犯ス意思ノ確定シ居ルコトヲ知テ之ヲ幫助スル場合ノミナラス唯其意アルモノト察知シテ之ヲ幫助スル場合ヲモ包含ス從テ從犯者カ正犯者ノ決意以前ニ爲シタル行爲ト雖モ爾後正犯者カ犯罪遂行ノ幫助ト爲リタル以上ハ其行爲ハ從犯罪ヲ構成スルモノトス

○刑法第九九條ニ所謂豫備ノ所爲トハ正犯者カ犯罪ニ着手ノ前後ヲ問ハス其犯罪ヲ容易ナラシムル爲メノ加擔行爲ナリトス

○賭博罪ノ他ノ犯罪ト異ナル點ハ唯現行犯ニ限り之ヲ罰スルニ在リ從テ賭博正犯ノ成立スル以上ハ之ヲ幫助シタル從犯モ亦成立ス而シテ賭場開張又ハ賭博ヲ爲スニ付キ必要ナル帳簿ノ記載ヲ爲スハ幫助ノ行爲ナルヲ以テ從犯トシテ處分スヘキモノトス

○懷胎者ヲ幫助シテ墮胎罪ノ實行ヲ容易ナラシメタル事實ヲ以テ墮胎手術者ヲ幫助シ其犯罪ヲ容易ナラシメタルモノト認定シタル判決ハ不法ナリ

○犯罪遂行ノ手段ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルニ於テハ特別ノ規定アル場合ノ外別罪ヲ構成ス從テ森林盜幫助ノ手段トシテ官印ヲ盜用シタル所爲ハ官印盜用ト森林盜幫助トノ二罪ナリトス

○刑法第九九條ノ規定ハ正犯幫助ノ爲メニ用フヘキ手段方法ハ必ス犯罪實行以前ニ於ケル豫備ノ行爲タルコトヲ要ストノ旨趣ニ非スシテ單ニ從犯行爲ノ重ナルモノヲ例示シタルニ過キス

三七

八〇一

三〇

九四七

六二

三二

一

二六

二四

一

二〇六

二六

二

三五

三

八九

三三

一〇

四九

三五

三

八九

三五

三

八九

三五

四

一五五

三六

一

一四七

三六

一

一九五

○訴訟費用ヲ請求スルニ當リ一人ノミ出頭シタルニ三人カ出頭シタルモノノ如ク計算書ニ記載シ確定決定ヲ受ケ執達吏ニ其取立ヲ委任シ金錢ヲ騙取セントシタル所爲ハ詐欺取財未遂罪ヲ構成ス

○恐喝取財未遂ノ場合ニ於テハ犯人ノ用ヒタル恐喝手段カ人ヲシテ恐怖ノ念ヲ生セシムヘキ性質ノモノタルヲ以テ足ル而シテ被害者カ豫期ノ如ク恐怖ノ念ヲ生シタルヤ否ヤハ未遂罪ノ成立ニ影響ヲ及ボサス

(同左)

○恐喝取財未遂ノ場合ニ於テハ被恐喝者カ畏怖シタルヤ否ヤハ必スシモ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ボスモノニ非ス從テ其恐喝手段ニシテ苟セ人ヲ畏怖セシムヘキ性質ヲ有スル以上ハ被恐喝者ニ對シテ效力ナカリシ場合ト雖モ恐喝取財未遂罪ヲ構成ス

○委託物ヲ費消スルノ意思ヲ以テ之ヲ隱匿シタルノミノ事實ハ委託物費消ノ未遂罪ナリトス

○犯罪ノ豫備トハ犯罪構成ノ要素タル行爲ニ著手スル以前ノ行爲ヲ云フ是故ニ苟モ其要素タル行爲ニ著手シタル以上ハ如何ナル程度ニ於テ發覺スルモ常ニ犯罪ノ未遂ヲ以テ論スヘキモノトス

○刑法第三百二十一條ノ自殺ニ關スル放銃罪ハ自殺者ヲ以テ犯罪ノ目的物ト爲シ放銃ノ行爲ヲ犯罪構成ノ要素トシ其行爲ノ結果被殺者カ自殺ヲ遂クルニ因リテ完成ス故ニ被殺者カ自殺セントシテ遂ケサリシ場合ニ於テハ同條ノ未遂罪ヲ構成スルモノトス

○人ヲ殺スノ意思ヲ以テ毒藥ヲ施用シタル以上ハ縱令少量ノ爲メ人ヲ殺スニ足ラサルモ犯人意外ノ件錯ニ外ナラサレハ未遂罪ヲ構成セサルモノト云フヲ得ス

(同左)

殺意ヲ以テ人ヲ殺スニ足ルヘキ劇藥ヲ服用セシメタルトキハ縱令少量ノ爲メ死ニ至ラサルモ仍ホ刑法第一百二十二條ニ所謂意カノ件錯ニ因リ遂ケサリシモノニシテ毒殺未遂罪ヲ成立ス

○文書偽造行使印影盜用ノ罪ハ偽造ノ文書ヲ行使シ又印影ヲ不正ニ使用スルニ因リテ成立ス從テ單ニ文書ヲ偽造シ又印影ヲ盜捺シタルニ止マリ未タ其行使又ハ使用ニ著手セサルトキハ未遂罪トシテ處罰スルコトヲ得ス

○受託者カ擅ニ委託物ヲ入質セント欲シ其入質方ヲ他人ニ依頼シタルモ他人ニ於テ入質ノ手續ニ著手セル事實ナキ以上ハ受託者ノ所爲ハ委託物費消罪ノ準備行爲ト稱シ得ヘキモ未タ其未遂犯ヲ以テ論シ得ヘキモノニ非ス

○欺罔手段ヲ以テ金員ヲ騙取セントシタルモ被害者ニ於テ之ヲ調達シ得サルトキハ詐欺取財未遂犯ヲ構成スルモノトス

○犯人カ一定ノ範圍ヲ有スル犯罪行爲ヲ爲サントスルノ意思ヲ起シ其企畫セル行爲ノ一部ヲ遂ケタル以上ハ爾餘ノ部分ハ意外ノ件錯其他ノ事由ニ因リテ之ヲ遂行スルコトヲ得サリシ場合ト雖モ包括的ニ其犯罪既遂ノ刑ヲ適用スヘキモノトス

(同左)

○犯人カ犯罪ノ一部ヲ遂行シ他ノ一部ハ未遂ノ状態ニ在ル場合ニ於テハ其所爲ヲ總括シテ既遂ノ刑ヲ適用スヘキモノトス

第十章 親屬例

○親屬例(刑法第一編第十章)ハ民法上親屬ト爲スヘキ者ヲ規定シタルニ非スシテ親屬又ハ姻屬ノ關係ヨリシテ刑法上特別ニ處分スヘキ者ヲ列擧シタルモノトス刑事訴訟法第二十四條モ亦

三五	五	七八
三五	八	五五
三五	四	一四三
三六	二	二二三
三六	一	一九〇五
三七	三	二六九
三七	一	一四〇三

三〇	六	五七
三六	一	六二二
三八	一	七二一
四〇	一	二八〇
四二	一	四
四〇	一	七二九

○舊刑法第三百三十七條ノ暴動ニ該當スル行爲ト雖モ同時ニ官吏ノ職務執行ヲ妨害スルモノナル以上ハ舊法ノ適用ニ於テハ兇徒嘯聚罪ノ外別ニ官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪(同第三百三十九條)ヲモ構成スヘキモノトス

○兇徒嘯聚ノ罪 舊刑法第三百三十七條)及ヒ騷擾ノ罪(刑法第六條)ハ多衆カ共同ノ意思ヲ以テ共同シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スニ依リ成立ス而シテ其共同シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲スノ意思カ多衆集合ノ當初ヨリ存在スルト否トハ問フ所ニ非ス

(同第三百)

○兇徒嘯集罪 刑法第三百三十七條)ハ多衆カ共同ノ意思ヲ以テ暴動行爲ヲ爲スニ依リテ成立ス從テ多衆集合ノ初ニ於テ暴動ヲ爲スノ意思ナキモ其後ニ至リ暴動ノ意思ヲ生シ共同シテ暴動ヲ爲シタルトキハ本罪ヲ成立ス

○多衆集合シテ暴動ヲ爲シ村落ヲ騷擾シテ公安ヲ害シタル所爲ハ舊刑法第三百三十七條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其騷擾ヲ爲スニ至リタル動機カ官又ハ公衆ニ對シテ示威強制ヲ爲スニ在ルト將々個人ヲ強テ自己ノ意思ニ屈伏セシメントスルニ在ルトハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサズ

第三百三十八條

○刑法第三百三十八條第一項ハ暴動者ノ燒燬シタル物體ヲ船舶若クハ家屋倉庫ノミニ限定シタルモノニ非スシテ船舶ト同視スヘキ汽車電車ノ類又ハ家屋倉庫ニ準スヘキ橋梁棧橋其他ノ工作物ヲモ包含セシムルノ旨趣ナリトス

○一團ノ暴動者中甲カ燒燬ノ目的ヲ以テ建造物ヲ土地ヨリ分離シ乙之ニ火ヲ放ツトキハ甲乙ハ共同一體ト爲リ行動スルモノニシテ燒燬ノ行爲ヲ分擔スルモノニ外ナラザレハ共ニ刑法第三百

三十八條第一項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

○官吏侮辱罪ハ官吏抗拒罪ニ包含ス

第三百二十九條

○司法警察官ノ命ニ依リ調査カ捜査上ノ點アリテ其指名者ノ承諾ヲ得テ之ヲ目的ノ地ニ同行スルカ如キハ法ノ禁セサル所ナレトモ現行犯ニ非サル被告ニ對シ調査カ強テ同行シタルカ如キハ所謂職權外ノ行爲ニシテ法律規則ノ執行ト云フヲ得ザレハ被告カ其行爲ニ對シ同行ノ途中ニ於テ其調査ニ抗拒シ負傷セシメタルモ別ニ一罪ヲ構成セス

○官吏職務上法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル所爲ハ官吏抗拒罪(刑法第三百二十九條)ヲ構成ス而シテ其特定ノ人ニ對シテ執行スル場合ナルト否トハ毫モ犯罪ノ成立ニ影響アルコトナシ

○沖商人カ雜貨ヲ外國汽船ノ船室ヨリニ携ヘ行キ彼我ノ物品ヲ交換スルハ貿易規則ニ悖戻スル所爲ニシテ沖商業違犯ノ行爲ナリ而シテ税關監吏補充カ該所爲ヲ制止スルハ職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シタルモノニ外ナラス從テ其執行ニ抗拒シタル所爲ハ官吏抗拒罪ヲ構成スヘキモノトス

○暴行強迫ヲ以テ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタルトキハ利害關係ノ有無ニ拘ハラズ官吏抗拒罪ヲ構成ス

○犯罪嫌疑ノ爲メ職權ヲ以テ逮捕セントスル調査ニ對シテ抗拒シタル所爲ハ眞ノ犯罪者タルト否トハ問ハズ官吏抗拒罪ヲ構成ス

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

三九	三五	三二	二九	二七	三三	三九
八〇〇	二二三	二七	四五	一七九	五二三	八〇〇

第三百三十八條

○刑法第三百三十八條第一項ハ暴動者ノ燒燬シタル物體ヲ船舶若クハ家屋倉庫ノミニ限定シタルモノニ非スシテ船舶ト同視スヘキ汽車電車ノ類又ハ家屋倉庫ニ準スヘキ橋梁棧橋其他ノ工作物ヲモ包含セシムルノ旨趣ナリトス

○一團ノ暴動者中甲カ燒燬ノ目的ヲ以テ建造物ヲ土地ヨリ分離シ乙之ニ火ヲ放ツトキハ甲乙ハ共同一體ト爲リ行動スルモノニシテ燒燬ノ行爲ヲ分擔スルモノニ外ナラザレハ共ニ刑法第三百

三十八條第一項ノ制裁ヲ免ルルコトヲ得ス

第二節 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

○官吏侮辱罪ハ官吏抗拒罪ニ包含ス

第三百二十九條

○司法警察官ノ命ニ依リ調査カ捜査上ノ點アリテ其指名者ノ承諾ヲ得テ之ヲ目的ノ地ニ同行スルカ如キハ法ノ禁セサル所ナレトモ現行犯ニ非サル被告ニ對シ調査カ強テ同行シタルカ如キハ所謂職權外ノ行爲ニシテ法律規則ノ執行ト云フヲ得ザレハ被告カ其行爲ニ對シ同行ノ途中ニ於テ其調査ニ抗拒シ負傷セシメタルモ別ニ一罪ヲ構成セス

○官吏職務上法律規則ヲ執行シ又ハ行政司法官署ノ命令ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ抗拒シタル所爲ハ官吏抗拒罪(刑法第三百二十九條)ヲ構成ス而シテ其特定ノ人ニ對シテ執行スル場合ナルト否トハ毫モ犯罪ノ成立ニ影響アルコトナシ

○沖商人カ雜貨ヲ外國汽船ノ船室ヨリニ携ヘ行キ彼我ノ物品ヲ交換スルハ貿易規則ニ悖戻スル所爲ニシテ沖商業違犯ノ行爲ナリ而シテ税關監吏補充カ該所爲ヲ制止スルハ職務ヲ以テ法律規則ヲ執行シタルモノニ外ナラス從テ其執行ニ抗拒シタル所爲ハ官吏抗拒罪ヲ構成スヘキモノトス

○暴行強迫ヲ以テ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタルトキハ利害關係ノ有無ニ拘ハラズ官吏抗拒罪ヲ構成ス

○犯罪嫌疑ノ爲メ職權ヲ以テ逮捕セントスル調査ニ對シテ抗拒シタル所爲ハ眞ノ犯罪者タルト否トハ問ハズ官吏抗拒罪ヲ構成ス

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

三九	三五	三二	二九	二七	三三	三九
八〇〇	二二三	二七	四五	一七九	五二三	八〇〇

○ 巡查カ違警罪現行犯人ヲ派出所ニ引致スルハ即決ヲ爲スヘキ官署ニ引渡ヲ爲ス爲メノ措置ナ
レハ其引致セラルル際暴行ヲ以テ抗拒シタル所爲ハ抗拒罪ヲ成スモノトス

○ 巡查ハ行政警察規則ニ於テ人民ノ妨害ヲ防護スルノ職務ヲ有ス從テ暴行ヲ以テ其防護中ニ在
ル人民ヲ奪ヒ去ラントシタル所爲ハ目的ノ如何ニ拘ハラズ官吏ノ職務執行ニ抗拒シタル所爲
ナリトス

○ 何人ト雖モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ暴行脅迫ヲ以テ之ヲ妨害シタル者ハ官吏抗拒罪(刑
法第三百二十九條)ノ制裁ヲ受クヘキモノトス而シテ其妨害者ノ執行ヲ受クヘキ人タルト其以
外ノ第三者タルトハ之ヲ問フノ要ナシ

(同(刑三九))

官吏抗拒罪ノ主體タルニハ被執行者タルト否トチ區別セス(同一判例二八年五卷八頁)

○ 巡查カ現行犯ト認メタルハ誤ナリトスルモ其當時眞ニ現行犯ナリト信シ引致セントシタル場
合ハ其引致手續ハ職務ノ執行タルコトヲ妨ケス從テ其職務ニ對シ抗拒シタル所爲ハ官吏職務
執行抗罪ヲ構成ス

(同(刑三九))

官吏カ職務ヲ以テ正當ニ法律規則ヲ執行スル場合ニ在テハ縱令其執行カ事實上ノ誤認ニ基
因シタルトキト雖モ被執行者ハ之ニ服從スルノ義務アルモノトス從テ之ニ暴行ヲ加ヘ抗拒
シタル以上ハ官吏抗拒罪ヲ構成ス

○ 甲乙共謀シ犯人ヲ逃走セシメント欲シ甲者ハ監守ノ右手ニ組付キ且乙者ニ對シ同監守ノ指ヲ
折ルヘキコトヲ命ジタルニ乙者之ニ應ジテ其左手ヲ握指ヲ逆折シ犯人ヲ逃走セシメタル場合ニ
於テハ甲者カ犯人ヲ逃走セシメタル所爲ハ官吏抗拒罪ノ實行正犯ニシテ監守ノ指ヲ折斷シタル

ル所爲ニ付テハ毆打創傷ノ教唆ナリトス

○ 執達吏代理ハ執達吏カ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ選任シ其職務ヲ代行セシムルコトヲ得ニ止マ
リ官制上高等官及ヒ判任官ノ資格ナキハ勿論又特ニ官吏ニ準スルモノニモ非ス從テ執達吏代
理ハ官吏タル資格ヲ有セス

○ 同一ノ目的ヲ以テ同時同所ニ於テ官權ノ執行ヲ妨害シタルトキハ縱令其執行者ハ數多ノ官吏
ナリトスルモ二罪ヲ構成スルニ過キス

○ 刑法第三百二十九條ニ所謂暴行ハ必スシモ官吏ノ身體ニ對シ直接ニ之ヲ加フルコトヲ要セス苟
モ官吏カ職務ヲ執行スルニ當リ暴行ヲ以テ之ニ抗拒シタルトキハ直接タルト間接タルトニ論
ナク同條ノ犯罪ヲ構成ス

○ 數名ノ官吏カ執行行為ヲ爲ス場合ト雖モ其行為ノ目的ニシテ同一ナル法律規則其他官署ノ命
令ヲ共同執行スルニ在ル以上ハ各自別別ニ數箇ノ執行行為ヲ爲スモノニ非スシテ相共ニ一ノ
執行行為ヲ爲スモノトス從テ之ヲ抗拒スル犯人ノ所爲ハ數名ノ官吏ヲ對手トスルニ拘ハラズ
單ニ一罪ヲ構成スヘキハ當然ナリ

○ 舊刑法第三百七條ノ暴動ニ該當スル行為ト雖モ同時ニ官吏ノ職務執行ヲ妨害スルモノナル
以上ハ舊法ノ適用ニ於テハ兇徒囂聚罪ノ外別ニ官吏ノ職務執行ヲ妨害スル罪(同第三百十九
條)ヲモ構成スヘキモノトス

○ 刑法第三百二十九條第二項ハ其第一項ヲ承ケタル法文ニシテ不法ニ官吏ノ職務執行セシメタ
ル場合ヲ規定シタルモノトス故ニ官吏ヲシテ行ハシメタル行為カ適法ナルカ又ハ其職務ニ關
係セザルトキハ同項ノ犯罪ヲ構成スルコトナシ

(第四百十條)

【第四百十條】

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七	三七
九七	五九	五七〇	一五〇〇	二二二	六五七	五三	五三

(第四百十條)

【第四百十條】

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

三五	三六	三三	三五	三四	三一	三〇	二八
五	九二七	七	六〇	三四	一〇	一〇	一八

○官吏ニ毆打ヲ加ヘタルトキハ侮辱及ヒ毆打ノ二罪ヲ構成ス

〔第四百十一條〕

○市長ハ公吏ナルカ故ニ官吏侮辱罪ハ其職務ニ對シテモ成立ス

○原判文ニ「大聖寺警察署ノ警部巡查一同ノ職務ニ對シ侮辱シタルモノナリト說明シアレハ現在大聖寺警察署詰ノ警部巡查即チ特定ノ官吏ヲ侮辱シタルコトヲ明示シタルモノナレハ之ヲ特定ノ官吏ヲ侮辱シタルノ證據ナシト云フヲ得ス

○官吏ノ職務ニ對シテ侮辱シタル以上ハ事實ノ眞否ヲ問ハス官吏侮辱罪ヲ構成ス

○官吏侮辱罪ハ必スシモ侮辱スルノ意思アルヲ要セス單ニ侮辱ノ結果ヲ生スルコトヲ豫知スルヲ以テ足ル

○町村助役ニシテ町村制第三十九條ノ規定ニ基キ村會議長ノ職務執行中ニテ侮辱シタル所爲ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス

○官吏侮辱罪ヲ構成スルニハ官吏ノ汚行ナリトシテ摘發シタル事項カ其官吏ノ職務行爲タルコトヲ要セス

(反對)

○官吏侮辱罪ハ官吏ノ職務ニ對シ惡事醜行ヲ摘發シタルカ又ハ惡口嘲言ヲ爲シタルニ非サレハ成立セス

○侮辱トハ誹毀ト罵詈トヲ意味スル法語ナリトス從テ罵詈ニシテ公吏ノ職務ニ對スルモノナル以上ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス

○公廷内ニ於テ立會辦事ノ職務ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ檢事ニ面シタル儘故ラニ兩手ニテ額ヲ撞テ大ナル威嚇ノ聲ヲ發シ雙手ヲ高ク差伸シ大聲ヲ發シタル所爲ハ刑法第四百十一條第一項ニ所謂形容ヲ以テ侮辱シタルモノトス

○訟廷ニ列席セル判事檢事等ニ對シ單一ノ行爲ヲ以テ侮辱ヲ加ヘタル所爲ハ則チ一ノ官憲ニ對スル侮辱行爲ニシテ各人ニ對スル毎ニ一罪ヲ構成スルモノニ非ス從テ審理ノ結果被害者ノ數ヲ増減スルモ之カ爲メ殊別ノ判決ヲ爲スノ要ナシ

○刑法ニ所謂官吏中ニハ法律規則ニ依リ官吏ト同一ノ待遇ヲ受ケ又ハ之ニ準スル旨ノ規定アル者ヲモ包含ス

○雇員ハ官吏ニ非ス

○縣立中學校長ハ刑法ニ所謂官吏ナリトス從テ其職務ニ對シ侮辱シタル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成ス

○檢疫委員ノ職務ハ傳染病豫防法第十五條市制第六十一條ニ依リ市參事會員ニ屬ス而シテ市長ハ市參事會員ナルヲ以テ檢疫委員長ハ公吏タル市長ノ公務ナルコト勿論トス從テ其職務ニ對シ侮辱シタル所爲ハ公吏侮辱罪ヲ構成ス

○他人ニ對シテ形容ヲ爲シ又ハ言語ヲ發スルモ其形容言語カ目前ニ在ル官吏ノ職務ニ對シ之ヲ侮辱スヘキモノナルニ於テハ官吏侮辱罪ヲ構成ス

○官吏ノ職務行爲ニ對シテ惡事醜行ヲ摘發シタル所爲ハ個人ニ對スル誹毀ヲ包含ス從テ侮辱セラレタル官吏ハ個人トシテ名譽權回復ノ訴權ヲ有スルモノトス

○苟モ官吏ノ職務ニ牽聯スル事項ヲ以テ侮辱ノ材料ト爲シタル以上ハ其職務執行中ニ在ラサルトキト雖モ官吏侮辱罪ノ成立ヲ妨ケス

○官吏ニ毆打ヲ加ヘタルトキハ侮辱及ヒ毆打ノ二罪ヲ構成ス

○官吏ニ對シ毆打セントスル姿勢ヲ示スハ形容ヲ以テスル侮辱ナリ

○舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪
官吏ノ職務ヲ行フヲ妨害スル罪

三九	二四	二八	三〇	三一	三三	三四	三五
七六〇	一九七	三三四	六一	六一	一〇八	三四	八七

三五	三五	三五	三五	三六	三八	三九	三九	三九	三五
一三五	一〇三	一〇三	一〇三	一〇三	一〇元	一五六	七五一	七六〇	七六〇

○官吏ノ現在スル場所ニ於テ之ヲ侮辱シタル所爲ハ刑法第四百十一條第一項ノ犯罪ヲ構成ス而シテ官吏カ自ラ其侮辱ノ言ヲ聞キタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス
○官吏ノ威嚴ヲ害スヘキ材料ニシテ苟モ其職務ニ關スルモノナル以上ハ其官吏ノ一般ノ動作ニ關スルト將タ特定ノ行爲ニ關スルトニ論ナク官吏侮辱罪ヲ構成ス
○新聞紙ハ刊行ノ文書ナリ
○刑法第四百十一條第二項ノ演説トハ或事項ノ問題ヲ掲ク之ヲ演説示スルモノノミチ云フニ非ス

○裁判所構内辯護士控所ニ於テ辯護士初聞記者廷丁給仕傍聽人等數十名居合セタル際暗ニ檢事ヲ指シ侮辱ノ語ヲ放テ大聲演説シタル所爲ハ刑法第四百十一條第二項ニ所謂公然ノ演説ヲ以テ侮辱シタルモノトス
○特ニ當該官吏ノ氏名ヲ掲ケサルモ東京地方裁判所刑事部ト記載アル以上ハ特定ノ官吏ヲ指示シテ侮辱シタルモノナリトス
○休職官吏ハ依然官吏タル身分ヲ保有シ其官職上ノ待遇ヲ受クルモノトス從テ休職官吏カ休職以前ニ取扱ヒタル事務ニ關シ刊行ノ文書ヲ以テ之ヲ侮辱シタル所爲ハ官吏侮辱罪ヲ構成ス
○官吏ノ職務ニ關シ故意ヲ以テ其威嚴ヲ損スヘキ事項ヲ新聞紙ニ掲載スルニ於テハ官吏侮辱罪ハ完全ニ成立ス而シテ犯人カ之ヲ掲載スルニ當リ其事項ハ官吏ヲ侮辱スルモノニ非ストノ見解ヲ抱持シタリトスルモ此事實ハ毫モ犯罪ノ成立ヲ妨クルコトナシ

第三節 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

○拘留狀ハ職權ヲ有スル檢事ニ非ザレハ之ヲ發スルコトヲ得ス而シテ司法官試補ハ地方裁判所以上ノ職權ヲ有スル檢事ニ非ザレハ之ヲ發スルコトヲ得ス

○甲裁判所ノ發シタル引狀ヲ以テ乙裁判所ニ傳遞スルノ效力ナシ從テ其途次逃走ノ所爲アルモ囚徒逃走罪ヲ成立セス
○囚徒逃走罪ハ多少ノ時間繼續スルモノトス從テ逃走ノ終リタル日時場所ヲ判示スルヲ以テ足レリトシ逃走ノ始マリタル日時場所ヲ判示スルヲ要セス

第四百四十四條

○未決囚徒逃走罪ノ構成ニハ一旦入監シタル事實ヲ必要トス

(同(前項))

竊盜犯嫌疑ノ爲メニ捕獲セラレ警察署ニ於テ取調中巡查ノ隙ヲ窺ヒ逃走シタル者ハ入監以前ノ逃走ニ係ルヲ以テ刑第四百四十四條ノ制裁ヲ受クヘキ所爲ニ非ス

○警察官カ刑事訴訟法第五十八條ノ規定ニ基キ令狀ヲ待タズシテ逮捕シタル被告人ハ未決ノ囚徒ナリトス而シテ其囚徒ニシテ監獄ノ一部ナル警察署ノ留置場ニ拘禁セラレタルトキハ其入監中ナルコト論ヲ疎タズ從テ該囚徒ニシテ逃走シタルトキハ刑法第四百四十四條ノ囚徒逃走罪ヲ構成スルモノトス

第四百四十六條

○刑法第四百四十六條前段ノ罪ハ囚徒ヲ逃走セシムル爲メ其逃走ノ方法ヲ指示スルニ因テ成立スルモノニシテ囚徒力逃走ニ著手スルト否トニ關係ナク又囚徒力逃走ノ意思ヲ中止スルモ爲メニ其犯罪ヲ消滅スルコトナシ

第四百五十一條

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 囚徒逃走ノ罪及ヒ罪人ヲ藏匿スル罪

二八	三	一七六
二八	四	三四
三一	二	四五
三〇	八	三九
二五	三	九七
三五	四	一七〇
二六		二六

三九	一	七三五
四二	一	二二九
三五	五	三八
三五	六	一三五
三六		九〇七
三九		一三四四
四一		七三五

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 附加刑ノ執行ヲ通ルル罪

○犯人ヲ藏匿シ若クハ隠避セシムル犯罪ハ積極的ノ行為ヲ必要トス
○刑法第五十一條ノ犯罪人隠避ノ罪ハ自ら隠避ノ行為ヲ行ハサルモ犯罪人ニ隠避ノ便ヲ與ヘタルニ依リテ成立ス
○犯人隠避罪(刑法第五十一條)ハ犯罪人ナルコトヲ知りテ之ヲ隠避セシムルニ因リテ成立ス從テ隠避ノ所爲方其犯罪人ニ對スル告訴又ハ豫審請求前ニ在ルヤ若クハ其後ニ在ルヤハ犯罪ノ成立ニ影響ナシ

『第五十二條』

○爆發物取締規則第九條ニ謂フ所ノ湮滅トハ刑法第五十二條ニ謂フ如キ罪證ト爲ルヘキ物件ナルニ於テハ其物件ノ消滅セサル以上ハ之ヲ湮滅ト云フヲ得サルモ第九條ニハ罪證ノ湮滅ト云ヒ物件其モノノ湮滅ニ非サルカ故ニ縱令物件ノ形體ハ存スルモ其隱シテ罪證ト爲ルヲ得サルニ至ラシメタルニ於テハ則チ罪證ヲ湮滅シタルモノト云ハサルヲ得ス
○人ヲ教唆シ自己ノ犯罪ノ證ト爲ルヘキ物件ヲ隠蔽セシメタル所爲ハ刑法第五十二條罪證隱蔽罪ノ教唆罪ヲ構成ス
○刑法第五十二條ノ罪ハ他人ノ罪ヲ免レシメンカ爲メ其罪證ト爲ルヘキ物件ニシテ贓物ニ非サルモノヲ密藏隱蔽シタル場合ニ成立スルモノトス

第四節 附加刑ノ執行ヲ通ルル罪

『第五十六條』

○刑法第五十六條(附加刑ノ執行ヲ通ルル罪)ニ所謂其刑ノ限内再ヒ犯シタル時ニ非サレハ再テ前科ニ算入セストノ意義ニ非ス

『第六十二條』

○往來ノ妨害ト爲ルヘキコトヲ豫知シ乍ラ道路損壞ノ行為ニ著手シタル以上ハ犯人意外ノ障礙若クハ外錯ニ因リ其犯行ヲ遂ケサルモ往來妨害未遂罪ヲ構成ス
○刑法第六十二條ニ所謂道路トハ必スシモ國縣村道ノミニ限ラス苟モ公衆ノ往來ニ供シタルモノハ總テ之ニ包含セルモノトス

『第六十四條』

○電話線ヲ切斷シテ不通ニ至ラシメタル所爲ハ器物毀棄罪(刑法第四百二十一條)ヲ構成スルモ刑法第六十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス

『第六十五條』

○汽車軌上ノ石ヲ割ルヤ否ヤヲ試驗センカ爲メ軌上ニ石ヲ置キタル所爲ハ其直接ノ目的ハ往來ヲ妨害スルカ爲メニ非スト雖モ既ニ之ヲ知り乍ラ其所爲アリタル以上ハ汽車往來妨害罪(刑法第六十五條)ヲ構成ス
○刑法第六十五條ノ犯罪ハ汽車ノ往來ヲ妨害スルノ意ヲ以テ危險ナル障礙ヲ爲スニ因リテ成立シ現實ニ其往來ヲ妨害シタルコトヲ必要トセス
(同(五))
刑法第六十五條ハ汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メニ出テタルコトヲ要シ現ニ妨害ヲ爲シタルコトヲ必要トセス

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 附加刑ノ執行ヲ通ルル罪

三二	三五	三五	二八	三五	三五
一六	五	五	七	五	五
三五	一四七	一四七	四三六	一四七	一四七
三六	三五六	三五六	八三	三五六	三五六

三〇	三七	四〇	三三	三五	三五
一	二九	二九	四	四	四
三六	二九	二九	一四	一四	一四
三六	二九	二九	一四	一四	一四

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪 人ノ住所ヲ侵ス罪

五一八

刑法第六十五條ノ罪ハ汽車ノ往來ヲ妨害スル爲メ之ニ危險ヲ加フヘキ虞アル障礙ヲ現存セシムルニ依リテ完成シ現ニ汽車ノ進行ヲ阻害シタルコトヲ必要トセス

〔第六十七條〕

○刑法第六十七條ニ所謂其事務ニ關スル官吏及ヒ雇人職工自ラ犯シタル時トハ汽車ノ往來妨害罪ニ在テハ總テ鐵道ニ關スル事務ニ從事セル官吏雇人等カ自ラ其罪ヲ犯シタル場合ヲ指稱シタルモノニシテ擔當事務ノ如何ハ問フ所ニ非ス從テ鐵道停車場ノ驛夫見習ノ如キモ亦同條ノ雇人ニ包含ス

三七

一八〇八

第七節 人ノ住所ヲ侵ス罪

〔第七十一條〕

○刑法ニ所謂故ナク人ノ住居シタル邸宅ニ入ルトハ正當ノ事故ナクシテ人ノ住居ニ侵入スルヲ謂フ

三七

一八〇八

第八節 官ノ封印ヲ破棄スル罪

〔第七十四條〕

○裁判所ノ命令ニ基キ執達吏ノ施シタル封印ヲ破棄シタルトキハ當然封印破棄罪ヲ構成ス從テ其破棄ノ後差押解除ノ判決ヲ受クルコトアルモ犯罪ノ構成ニ影響ヲ及ボスヘキモノニ非ス ○封緘ヲ無効ニシタル所爲ハ封印破棄罪ヲ構成ス ○民事裁判所ノ命令ニ基キ執達吏ニシテ封印ヲ施シタル以上ハ總令債務ヲ擔當シテ假差押ノ理

二九

四八

由消滅シタル後ト雖モ債務者ハ自ラ其封印ヲ解除スルヲ得ス犯ス者ハ封印破棄罪ヲ成立ス

三〇

一一

○差押ノ爲メ執達吏ノ爲ス封印ノ方法ハ物ノ開閉スヘキ部分ヲ封鎖スルニ限ルモノニ非ス從テ馬ノ轡ニ施シタル封印ヲ破棄シタルトキハ封印破棄罪ヲ構成ス

三三

四

○收税官吏カ容器ニ施シタル封印ヲ破棄シ在中ノ物品ヲ取出シ他ニ移シタル所ハ封印破棄罪(刑法第七十四條)差押物件藏匿 刑法第二百九十六條)ノ二罪俱發ナリトス從テ竊盜罪(刑法第二百七十一條)ヲ以テ論スヘキモノニ非ス

三五

八

○封印破棄罪ト刑法第二百七十一條ノ官署ノ命令ニ因リ他人ノ看守スル自己ノ所有物ヲ竊取スル罪トハ各獨立シタル犯罪ナリトス從テ封印破棄罪ハ右盜罪ノ成立要件ニ非ス

三六

一四六七

○刑法第七十四條ノ封印破棄罪ハ封印ヲ施シタル者ノ官署タルト否トハ犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ナシ

三七

一四六一

(同罪)

執達吏代理ハ執達吏規則ニ依リ執達吏ニ代リテ其職務ヲ執行スル者トス從テ執達吏代理カ裁判所ノ執行命令ニ基キ其職務上爲シタル封印ヲ破棄スルニ於テハ刑法第七十四條ノ犯罪ヲ構成ス而シテ其封印ヲ施シタル者ノ身分ノ官署又ハ公吏タルト否トハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ

二六

九二

○執達吏代理ハ官吏ニ非スト雖モ執達吏ニ代リテ差押其他執達吏ノ取扱フヘキ一切ノ手續ヲ行フノ權限ヲ有シ從テ執達吏代理カ執行力アル判決止本ニ基キ債務者ノ動産ヲ差押ヘテ之ニ施シタル封印ハ刑法第七十四條第一項ニ所謂官署ノ處分ニ因リテ施シタルモノニ該當ス

三七

一四六一

○刑法第七十四條第一項ニハ官署ノ處分ニ因リ特別ニ倉庫其他ノ物件ニ施シタル封印トアル

舊刑法

公益ニ關スル重罪輕罪 靜謐ヲ害スル罪

官ノ封印ヲ破棄スル罪

五一九

ヲ以テ其封印ニシテ苟モ違法ノ手續ニ依リ成立シタルモノナルカ若クハ或事由ノ爲メ失效ニ歸シタルモノニ非サル以上ハ總テ封印破棄罪ノ目的タルコトヲ得而シテ其差押手續ノ完了シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○執達吏代理カ債權者ノ委任ニ基キ債權者ノ住居ニ臨ミ其所有ニ係ル金庫ノ開扉ヲ命シタルモノ之ヲ開扉シ能ハサルヨリ後日ノ取調ヲ保スル爲メ該金庫ニ封印ヲ施シタルトキハ既ニ強制執行ニ著手シタルモノニシテ其封印ハ執達吏ノ職務上當然爲シ得ヘキ必要ノ行爲ナリトス故ニ惡意ヲ以テ之ヲ破棄シタル所爲ハ封印破棄罪ヲ構成ス

○膠ヲ差押ヘテ封印ヲ施シタル場合ニ在リテハ其容器ハ封印ノ一部ヲ成スモノトス從テ其容器ヲ破壊シタル所爲ハ封印破棄罪ヲ構成ス

(同左)

膠ヲ差押ヘテ封印ヲ施シタルトキハ其容器ニ亦封印ノ一部ヲ成スモノトス從テ容器自體ニ孔穴ヲ穿テ之ヲ破壊シタル以上ハ縱令其封印ノ紙片ニハ何等破壊除去ノ所爲ナキモ刑法第百七十四條ノ犯罪ヲ構成ス

○債務者ニ對スル執達吏ノ諭示書ハ常ニ差押處分ニ隨伴シテ生スルモノトス從テ文書ナレトモ封印其モノノ一部ニ非スシテ全然別箇ノ效用ヲ有スルモノナレハ差押物件ニ施シタル封印ヲ破棄シ併セテ諭示書ヲ毀棄スルトキハ封印破棄及ヒ官文書毀棄ノ二罪ヲ構成ス

○密造酒ヲ差押ヘテ其容器ニ蓋ヲ爲シ四方ニ釘ヲ打テ蓋ヲ以テ之ヲ蔽ヒ封印ヲ施シタル場合ニ在リテハ其蓋モ亦封印ノ一部ヲ成スモノトス從テ之ヲ取去リタル以上ハ縱令封印ノ紙片其物ヲ毀壞セザルモ封印破棄罪ノ成立ヲ妨ケス

第四章 信用ヲ害スル罪

第一節 貨幣ヲ偽造スル罪

○紙幣ト兌換銀券トハ其性質ヲ異ニス

○兌換銀券偽造罪ヲ處斷スルニ當リ日本銀行兌換銀行券條例第十二條ヲ適用セサル判決ハ法律ノ理由ヲ明示セサル瑕疵アリトス

(同左)

兌換銀券偽造罪ヲ處斷スルニ當リ刑法第百八十四條ヲ擬律スルニハ必ス兌換銀行券條例第十二條ノ明文ヲ缺タサルヘカラス

○金錢トハ通貨ノ總稱ニシテ紙幣モ亦其内ニ包含ス

○偽造紙幣ナリヤ否ノ事實ヲ決定スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

『第百八十二條』

(第百八十二條)

○貨幣偽造罪ハ其偽造ニ著手シタルトキハ即チ其罪ヲ構成シタルモノニシテ縱令爾後之ヲ中止スルモ中止犯ナリテ論スヘキモノニ非ス

(同左)

一旦紙幣ヲ偽造シタル上ハ其後偽造ノ念ヲ絶チ又終ニ偽造紙幣行使ノ念ヲ絶ツモ之ヲ中止犯ナリト云フヲ得ス

○偽造貨幣ノ精粗ヲ問ハス貨幣偽造罪ヲ成立ス

○偽造貨幣ヲ價格相當ノ貨幣トシテ授受シタルトキハ貨幣偽造行使罪トス

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪 貨幣ヲ偽造スル罪 五二二

二九	二九	二九	二九	二九	二九
二	二	二	二	二	二
二四	二四	二四	二四	二四	二四
二	二	二	二	二	二
二七	二七	二七	二七	二七	二七
二四	二四	二四	二四	二四	二四

三七	三七	三七	三七	三七	三七
二八七	二八七	二八七	二八七	二八七	二八七
二三四	二三四	二三四	二三四	二三四	二三四
一六六	一六六	一六六	一六六	一六六	一六六
四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇	四七〇

○偽造貨幣ノ行使トハ之ヲ眞貨トシテ其銘價同格ニ使用スルヲ云フ而シテ之ヲ商品トシテ銘價以下ニ賣買取引シタル所爲ノ行使ニ非ス

○貨幣偽造行使罪ハ其貨幣ヲ有用ニ行使スルヲ以テ成立ス而シテ偽造貨幣ヲ借金ノ擔保トシテ他人ニ交付シタル所爲ハ即チ有用ニ行使シタルモノニシテ當然貨幣偽造行使罪ヲ構成ス

○偽造貨幣ヲ他人ニ交付シテ其所有權ヲ移轉スルハ貨幣ノ用法ニ從ヒ之ヲ使用シタルモノトス從テ偽造貨幣ヲ小遣錢トシテ贈與シタル所爲ハ偽造貨幣行使罪ヲ構成ス而シテ其行爲ノ有償タルト無償タルトハ犯罪ノ成立ニ影響ヲ及ボサス

○自ラ犯罪ノ實行ニ著手シタル後他人ヲシテ其一部ヲ行ハシムルハ犯罪ノ教唆ニ非スシテ犯罪行爲ノ分擔ナリ從テ自ラ貨幣ヲ偽造シ他人ヲシテ之ヲ行使セシメタル場合ニ在テハ貨幣偽造行使ノ一罪ニ問フヘキモノトス

○銅貨ヲ用井テ銀貨ヲ作製シ又ハ銀貨ヲ用井テ金貨ヲ作製シタル所爲ハ刑法第八十二條ニ所謂內國通用ノ金銀貨ヲ偽造シタルモノニ該當ス

(同法第)

同質ノ貨幣ヲ變更スルノ所爲ヲ變造トシ他質ノ貨幣ヲ改削シ水銀ヲ鍍スル等ノ所爲ヲ偽造トス(三〇年一〇卷七七頁參照)

貨幣ノ變造トハ正當ノ貨幣ヲ材料トシテ同質ノ貨幣ヲ造成スルノ謂ナリ故ニ五厘銅貨ヲ材料ト爲シ二十錢銀貨ヲ造成スルハ變造ニ非スシテ偽造ナリトス

○五十錢及ヒ二十錢ノ銀貨ニハ各相異ナリタル法益附著スルヲ以テ之ヲ偽造シタル所爲ハ二罪ヲ構成ス (同法第)

五十錢二十錢十錢ノ銀貨ハ各異ナリタル法益ノ附著セルモノナルヲ以テ之ヲ偽造スルトキハ各銀貨固有ノ法益ヲ侵害ス從テ一銀貨毎ニ一罪ヲ構成スルモノトス

○偽造銀貨ノ行使トハ之ヲ眞貨トシテ使用スルノ義ニ外ナラス而シテ其使用方法ノ違法ナルコトハ偽造銀貨行使罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボスコトナシ

〔第八十六條〕

○二十錢銀貨ヲ偽造行使セントコトヲ企テ五厘銅貨ノ線ニ刻ミテ附シ文字ヲ改造シテ之ヲ銀色ト爲シタルモ其方法拙劣ナルカ爲メ未タ他人ヲ欺クコトヲ得サルトキハ刑法第八十六條ニ所謂貨幣ノ偽造未タ成ラサル者ニ該當ス

○貨幣偽造ニ關スル所爲ハ偽造ノ器械ヲ豫備スルヨリ之ヲ偽造シ行使スルニ至ルマテ法律ハ一之ヲ特別ノ罪トシテ處罰スルモノナレハ一旦偽造行使ノ目的ヲ以テ偽造ノ器械ヲ豫備シタル上ハ其罪即時ニ成立シ爾後偽造ノ目的ヲ絶止スルモ既ニ成立シタル犯罪ニ付キ其責任ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

○貨幣偽造器械ノ能力有無ハ事實ノ認定ニ屬ス

○貨幣偽造ノ器械ヲ豫備シタル上ハ其器械ノ偽造ニ直接主要ノ關係ヲ有スルト否トチ問ハス豫備罪ヲ成立ス

(同法第)

刑法第八十六條第二項ニ偽造ノ器械ヲ豫備スルトアルハ偽造ニ必要ナル諸器械悉皆ヲ豫備スルノ意ニ非スシテ其偽造ノ用ニ供スヘキ器械ノ幾分ヲ豫備スルモ同條項ノ犯罪ハ成立スルモノトス

貨幣偽造ノ器械ヲ備ヘタル上ハ其完備スルト否トチ問ハス偽造ノ器械ヲ豫備シタルモノトス

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪 貨幣ヲ偽造スル罪 五二三

二六	二六	二八	二九	三五	三五	三〇	二六
五	五	一	五	四	四	六	五
三	三	三〇五	七六八	六三	四八	三六	三
八九五	二三五	八五					

三六	三六	二八	二八	三六	三六	二八	二八
一七二六	一七二六	一	一	四	四	六	五
七五五	七五五	三〇五	七六八	六三	四八	三六	三
		三〇五					

ノトス

官職氏名ヲ刻シ職務上使用スル印章ハ刑法第百九十五條ニ所謂官印ニ包含ス

村長及ヒ助役ノ職印ハ明治二十三年法律第百號ニ所謂公署ノ印ニ包含ス

郵便電信局ノ印章ヲ偽造スルニ當リ電信ノ二字ヲ遺脱スルモ官印偽造罪ノ構成ヲ妨ケス

判所ノ廳印ハ其如何ナル種類ヲ問ハス官署ノ印ナリ

村長ノ認印ハ公署ノ印ニ非ス

官印偽造罪ノ成立ニハ其偽造印カ眞印ニ模擬スルヲ必要トセス官署ノ印章トシテ入テ欺クニ足ルヲ以テ十分ナリトス

(同(五))

官印偽造罪ノ構成ハ其印材ノ種類ニ拘ハラズ苟モ官署ノ印章ヲ模擬シ入テシテ官印ナリト信セシムヘキ程度ニ達スルヲ以テ足レリトス

○官署ノ契印ハ官印ナリ

○甲乙及ヒ丙郵便電信局ノ消印ヲ偽造行使シタル所爲ハ縱令其偽造印チ同一ノ文書ニ押用セル場合ト雖モ三箇ノ官印偽造行使罪ヲ構成ス故ニ其或モノニ對シテ起訴スルモ爾餘ノモノハ之ニ包含セラルルコトナシ

○刑法第百九十五條ニ所謂官署ノ印ヲ偽造シタル者ニハ官署ノ眞印ニ模擬シ或方法ヲ以テ其印影ヲ現出セシメタル者ヲモ包含ス

○苟モ實在セル官署ノ印ナリトシテ入テ欺クニ足ルヘキモノヲ偽造スルトキハ官印偽造罪ヲ構成ス從テ眞印ノ存在スルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ナシ

○印章偽造ノ行爲ハ行使ノ手段ニ外ナラス唯官印ニ付テハ特ニ手段タル偽造ノミナルモ之ヲ處罰スヘキコトヲ規定シタルニ過キサレハ官印ヲ偽造シテ行使シタル場合ニ於テハ其目的タル行使ノ所爲ニ付キ其罪ヲ論スヘキハ當然ナリ

(同(六))

印章偽造ノ行爲ハ行使ノ手段ニ外ナラス唯官印ニ付テハ特ニ手段タル偽造ノミナルモ之ヲ罰スヘキコトヲ規定シタルニ過キサレハ官印ヲ偽造シテ行使シタル場合ニ在テハ其目的タル行使ノ所爲ニ付キ其罪ヲ定ムヘキモノトス

○官吏公吏ノ用ユル印類カ私印ナルヤ將タ職印ナルヤハ其印類ノ性質如何ニ依リテ定ムヘキモノニシテ之ヲ押捺セル文書ノ性質ニ據リテ定ムヘキモノニ非ス

○金庫ハ大藏大臣ノ管理スル官署ニシテ金庫ニ關スル事務ハ官ノ事務ナリトス從テ其擔當者ノ官吏ナルト否トヲ論セス該事務ニ關シテ使用スル金庫ノ印ハ官印ナリ

○官署ノ用ニ供スル印類ハ縱令官署又ハ官吏ノ官職氏名ヲ表示セシモノニ非サルモ官印ナリトス

○京都市立官廳院長ハ現行法上官吏タル身分ヲ有スレトモ其管掌事務ハ公署タル京都市廳ノ事務ナリトス從テ院長カ其職務上使用スル印章モ亦官印ニ非スシテ公印ナリ

○某村ノ戶籍吏ノ名稱ヲ冒シテ其印章ヲ偽造シタル以上ハ縱令同村所屬ノ行政區畫ノ表示ヲ誤リタル場合ト雖モ其所爲ハ實在セル公署ノ印ヲ偽造シタルモノニ該當シ刑法ノ制裁ヲ免レサルモノトス

○法律命令又ハ特別ノ委任ナキモ公署官署ニ於テ其職務執行ニ付キ慣例上使用スル印類ハ公署官署ノ印ナリ

○犯人カ偽造ノ意思ヲ以テ情ヲ知ラサル者ヲシテ公印ヲ彫刻セシムルトキハ其彫刻ノ成ルト同

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪 官印ヲ偽造スル罪 五二七

二五	二八	二八	三〇	三三	三三	三三	三三	三三	三三
二	四	四	一〇	三	四	三	三	三	三
六	三	四	一五	一	一	一	一	一	一
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七	二七

三八	三五	三六	三六	三九	三九	三九	三九	三九	三九
二七	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二七	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二七	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二七	九	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

時ニ公印偽造罪ヲ構成ス而シテ犯人ガ偽造印願ヲ受取リタルヤ否ヤ將タ其彫刻ノ成リタルコトヲ知了セルヤ否ヤハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○或印章ノ官印ナルヤ將タ公印ナルヤハ其印章ヲ使用スル事務ノ性質ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトス(同一判例三九年四五頁)

○使用ノ目的ヲ以テ押捺ニ依リ官印ニ模擬セル影蹟ヲ現出スヘキ材料ヲ製造シタルトキハ其材料ノ一箇タルト數箇タルトト問ハス官印偽造罪ヲ構成スルモノトス

(同判例)

○押捺ニ依リ官印ニ模擬セル影蹟ヲ現出スヘキ材料ヲ製造スルニ於テハ其材料ノ一箇タルト數箇タルトト問ハス官印偽造罪ヲ構成スルモノトス

○郵便局ノ日附印ハ郵便局ヲ表示シ且郵便物ノ發著日時印紙ノ消印等ヲ證明スルモノナレハ舊刑法ニ在テハ官署ノ印ニ該當シ刑法ニ在テハ公務所ノ印章ニ該當ス

(同判例)

郵便局ノ日附印ハ官印ナリ

〔第九十六條〕

(第六條)

○官ノ記號印章タル形體ヲ存スル以上ハ寸法字體ノ真正ヲ模擬セサルモ其犯罪ヲ成立ス

○蠶種検査所ニ於テ蠶種検査ニ使用スル印章ハ刑法第九十六條第一項ニ所謂產物商品等ニ押用スル官ノ印章ナリ

○衡器ニ施用スヘキ官ノ印章ハ刑法第九十六條ニ所謂商品ニ押用スル官ノ印章ナリトス從テ檢定済ノ衡器ニ刻施シアル檢定印章ヲ挾取シ他ノ衡器ニ嵌入シタル所爲ハ刑法第九十七條ニ所謂官ノ印章ノ影蹟ヲ施用シタル所爲ニ該當ス

○工事請負人ガ其請負工事ニ用ユヘキ石材ノ検査ニ合格シタルコトヲ表示セシカ爲メ之ニ押用スル府縣廳ノ印章ハ刑法第九十六條第一項ノ所謂商品ニ押用スル官ノ印章ニ該當ス

○蠶種ニ押用スル検査合格ノ證印ハ蠶病豫防吏員タル公吏ニ於テ之ヲ押捺シタル場合ト雖モ亦產物ニ押用スル官ノ印章ナリトス

○林區署カ官林拂下等ノ場合 検査済ノ證トシテ豫定木ニ押捺シ又ハ立木伐採及伐採ノ證トシテ材木ニ押捺スル檢印ハ刑法ニ於テハ其第六十六條ニ所謂公務所ノ記號ニ該當シ舊刑法ニ在テハ其第九十六條ニ所謂產物商品ニ押用スル官ノ記號印章ニ該當ス

(同判例)

山林ノ樹木ニ押用スル印章ハ刑法第九十六條第一項ニ所謂產物ニ押用スル印章ナリトス大林區署ニ於テ山林ノ樹木及ヒ其伐根ニ押用スル檢字並ニ山字ノ兩印ハ刑法第九十六條ニ所謂產物ニ押用スヘキ官ノ印章ナリトス林區署カ官有林野ノ立木木材ノ検査ニ使用スル檢字及ヒ山字ノ印章ハ官印ナリ

〔第九十七條〕

(第七條)

○官印盜用罪ハ盜捺使用ニ依リテ成立ス

○官吏其職權ノ範圍ヲ超越シ不正ニ文書ヲ作成シ又ハ官印ヲ押捺セシ所爲ハ職權ノ濫用ニ止マラスシテ官文書偽造行使及ヒ官印盜用ノ犯罪ヲ構成ス

○官印ニハ官署ノ印ト官吏ノ職印トヲ包含ス

○登記ノ消印ハ官ノ印章ナリ

○他人ノ盜捺シタル官印ヲ使用シタル所爲ハ官印盜用罪ヲ構成ス

○村長其職印ヲ偽造ノ文書ニ押捺シタル所爲ハ公署印ノ盜用ナリ

舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪 官印偽造スル罪 五二九

三八	四〇	四三	三六	三七	四一	二九	三〇	三〇	三一	三二
八〇九	五一九	一二五	一一〇	一九三	八五四	二七	一	三六	五四	三六
										三一

三九	四〇	四〇	三八	四二	三三	二九	三二	三五
一一八	五九	九〇三	二七四	八四八	一〇二九	七二	六	四一

○官署若クハ官吏ノ名義ヲ用ヒテ文書ヲ偽造行使シ官印ヲ盗用スレハ公文書偽造行使官印盗用ノ罪ヲ構成スルモノニシテ必スシモ權限アル官署又ハ官吏ノ作成スヘキ文書官印タルヲ要スルモノニ非ス

(同主旨)

村役場ニ於テ地所ノ證明ヲ爲スハ其役場ノ職權ヲ以テ爲スヘキモノトス故ニ私ニ其文書ヲ作製スルハ公文書偽造タルコト論テ咎タス隨テ之ニ役場ノ印ヲ盜捺スレハ公印盗用タルコト勿論ナリ之ヲ公文公印ニ非スト云フヲ得ス

○衡器ニ施用スヘキ官ノ印章ハ刑法第九十六條ニ所謂商品ニ押用スル官ノ印章ナリトス從テ檢定濟ノ衡器ニ刻施シアル檢定印章ヲ挾取シ他ノ衡器ニ嵌入シタル所爲ハ刑法第九十七條ニ所謂官ノ印章ノ影贖ヲ盗用シタル所爲ニ該當ス

○石川縣立輸出織物検査所ハ石川縣内務部ノ監督ニ係リ縣廳ノ一部ニシテ官署ニ外ナラス從テ其検査所ノ印ハ官印ナリトス

○區裁判所出張所ノ消印ハ單ニ塗抹ノ用ヲ爲スニ止マラスシテ其職務上消印ヲ爲シタルコトヲ證明スヘキ印章ナリトス從テ擅ニ之ヲ押捺シタル所爲ハ官印盗用罪ヲ構成ス

○拂下ヲ受ケタル木材中ニ盜品ヲ混入シ當該官吏ナシテ全部正當品ナルカ如ク誤信セシメ之ニ官ノ極印ヲ押捺スルコトノ承諾ヲ經タル場合ト雖モ苟モ其押印ニシテ該官吏ノ眞意ニ反スル以上ハ官印盗用ノ制裁ヲ免レサルモノトス

○產物商品等ニ押用スル官印ヲ目的物ニ盜捺シ正當ノ手續ニ依リ其押捺ヲ經タルモノノ如クテ公衆ノ目ニ觸レシメ之ヲ利用シタル以上ハ縱令特定ノ人ニ對シテ該物件ヲ示ササルモ官印盗用罪ノ構成ヲ妨ケス

(同主旨)

產物商品等ニ押用スル官印ヲ目的物ニ盜捺シ正當ノ手續ニ依リ其押捺ヲ經タルモノノ如クシテ世人ニ示シ之ヲ利用シタルトキハ縱令特定ノ人ニ對シテ該物件ヲ示ササルモ官印盗用罪ヲ構成スルモノトス

○廢物ニ歸シタル蠶種臺紙ヲ利用シ之ニ他ノ蠶卵ヲ附著セシメ恰モ當初ニ於ケル有效ノ臺紙ナルカ如ク裝ヒ之ヲ行使シタル所爲ハ新ナル蠶種ニ關スル證書ヲ偽造行使シ同時ニ官公吏ノ印影ヲ盗用セルモノトス

○蠶病豫防吏員ノ印影ヲ盗用シタル所爲ニ對シ直ニ舊刑法第九十七條第一項ヲ適用シタル判決ハ不法ナリ

○小林區署ハ大林區署ノ事務ヲ分掌スル爲メニ設置セラレタル官署ニシテ其署長ハ大林區署長又ハ大林區支署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ掌理スルモノトス從テ小林區署長心得ハ拂下木ニ押用スヘキ極印ヲ保管スルノ職務權限ヲ有ス

○郵便局通信事務員ハ局長ノ指揮ニ從ヒ事務ヲ取扱フ雇員ニ過キスシテ官吏ノ資格ヲ有セサルハ勿論法律上局長印及ヒ日附印ヲ監守スルノ職責ヲ有スルモノニ非ス

○執達吏ハ送達證書ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ之ニ職印ヲ押捺スル權限ナケレハ其送達證書ノ全部カ偽造ニ非サレハトテ職印盗用罪ヲ構成セスト云フヲ得ス

○舊刑法第二百五條第一項第九十七條第二項ノ規定ハ管掌監守ノ職責アル官吏カ其職責ニ違背シテ官ノ文書ヲ偽造シ又ハ官印ヲ盗用シタルトキ之ヲ嚴罰スル爲メ設ケラレタルモノニシテ犯人ノ身分ニ因リ特ニ刑ヲ加重セル場合ニ屬スルモノトス

(第九十八條)

第九十八條

三	四二	四〇	三七	四三	四二	三九	三九	三九	三六	三五	二六	三
二六九	八六四	八五〇	一五〇〇	一一	七三	四二	一九二	四二	二九二	四一	一五〇	七

○一旦貼用ノ上消印ヲ施シ印紙ノ效用ヲ了リタルモノハ再ヒ印紙トシテ使用スヘカラサル紙片タルニ過キス從テ此紙片ヲ切斷シ其斷片ヲ彼此繼合シテ新ニ印紙ヲ製造シタル所爲ハ印紙ノ偽造ナリトス

○印紙偽造罪(刑法第九十八條)ハ真正ナル印紙ニ模倣シ新ニ製作行爲ヲ爲スニ因リテ成立ス故ニ行使ノ意思ヲ以テ使用濟ニ係ル印紙ノ消印ヲ洗滌スルモ犯罪ヲ構成セス

〔第九十九條〕

『第九十九條』

○郵便稅ヲ免ルル目的ヲ以テ使用濟ノ郵便端書ヲ使用シタル所爲ハ刑法第九十九條ノ犯罪ニ非スシテ郵便條例第二百三十七條ノ犯罪ナリ

○登記印紙ハ登記稅ニ外ナラス從テ一旦止當ノ印紙ヲ貼用シ登記ヲ經タル以上ハ縱令未ダ消印ヲ爲ササルモ印紙ノ效用ヲ遂ケタルモノトス

第三節 官ノ文書ヲ偽造スル罪

〔第二百三條〕

『第二百三條』

○登記官チ欺キ不實ノ登記ヲ爲サシムルモ申告不實ニ止マリ官文書偽造行使ノ罪ヲ構成スルモノニ非ス

○村役場ニ於テ地所ノ證明ヲ爲スハ其役場ノ職權ヲ以テ爲スヘキモノトス故ニ私ニ其文書ヲ作製スルハ公文書偽造タルコト論ヲ俟タズ隨テ之ニ役場ノ印チ盜採スレハ公印盜用タルコト勿論ナリ之ヲ公文公印ニ非スト云フヲ得ス

○執達吏力假差押調書ニ虛偽ノ事實ヲ記入シ之ヲ役場ニ備付ケタル所爲ハ官文書偽造行使罪ナリトス

二八 二五〇

二四 二二八

三二 二六 二五

四〇 三六七

三六 二七一

○登記簿ニ虛偽ノ記入ヲ爲シ之ヲ登記所ニ備置キタル所爲ハ官文書偽造行使罪ナリトス

二六 四九

○月簿簿ヲ變換スルノ所爲ハ公文書變造罪ニシテ犯後ニ至リ其訂正ノ出願ヲ爲スモ依テ其犯罪ヲ消滅スルヲ得ス

二九 七九

○印鑑簿ハ印章ニ非スシテ文書ナリ

二九 一一二

○印鑑簿ノ印影ヲ塗抹シテ更ニ偽印ヲ捺捺シタル所爲ハ文書變造罪ナリトス

二九 一一二

○官文書偽造罪ノ構成ハ其文書タル必スシモ官署一定ノ用紙ニ記入スルヲ要セス苟モ其文體ヲ官ノ文書ニ擬シ入ヲシテ官文書ナリト信セシムヘキ程度ニ達スルヲ以テ足レリトス

二九 一〇二

(同左同)

○恩給金證ノ偽造ハ其文辭中眞物ニ比スレハ多少ノ相違アルモノヲ以テ官文書偽造ニ非スト云フヲ得ス

二六 二七六

○官ニ於テ作成スヘキ文書ニ擬シテ偽造ノ所爲ヲ行ヒ而シテ其文書タル人ナシテ官文書ト誤信セシムルニ足ルモノナルトキハ即チ官文書偽造罪ヲ構成ス而シテ實際上果シテ之ト同一

二九 七

○文書アリシヤ否ヤハ敢テ問フ所ニ非ス

二九 七

○檢事局書記課ノ名義ヲ以テ金圓領收證ヲ作り之ヲ行使シタル以上ハ社會ノ信用ヲ害シタルモノニシテ其文書ノ性質如何ニ拘ハラズ官文書偽造罪ヲ成立ス

二九 二六

○郡長ノ發シタル地租領收證ヲ變改シテ村役場ニ備付ケタル所爲ハ官文書變造行使ナリトス

二九 二七

○村長ノ職務取扱ニ付キ錯誤ノ所爲アリタルコトヲ辯解スル趣意ノ上申書ハ一人ノ資格ヲ以テ提出シタル文書ニ非スシテ村長ノ職務執行ニ關スル公文書ナリ

二九 二七

○地所拂下願書ニ年月日ヲ與書シ村役場ヲ經由シタルモノノ如ク假裝シタル所爲ハ官文書偽造罪ヲ構成ス

三〇 三九

○舊刑法 公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪

三〇 三九

○官ノ文書ヲ偽造スル罪

三〇 三九

- 成立シ結局ノ目的ヲ達シ得ルト否トハ犯罪ノ構成ニ影響ナシ
- 電報送達紙ヲ偽造シ之ニ必要ナル文言ヲ記入シテ配達ノ手續ヲ爲シタルトキハ縱令日附印ノ押捺ナシト雖モ官文書偽造行使用罪ヲ構成ス
- 電報送達紙ハ郵便電信局ニ於テ作成スル文書ナレハ私人ノ通信ト雖モ尙ホ官文書ナリトス
- 官吏ニシテ其官廳ノ取扱例ニ依リ記入スヘキ事項ヲ偽造スルトキハ官文書偽造罪ヲ構成ス
- 同一ノ文書ニシテ一面ハ私文書偽造ト爲リ一面ハ官文書偽造ト爲ル場合ニ於テハ私文書偽造罪ハ自ラ官文書偽造罪中ニ包含ス
- 刑法第二百三條ニ所謂官文書トハ官吏カ其職務ノ執行上法令其他所屬官廳ノ職務規定ニ基キ作成スル書類ヲ總稱ス
- 官文書作成ノ目的及ヒ其本來ノ效用如何ニ拘ハラズ之ヲ他ノ目的ニ使用シ本來定マレル效用以外ノ效用ヲ致サシムルコトヲ得テ此場合ニ於テモ官文書偽造行使用罪ヲ構成ス
- 法律ニ於テ代理ヲ許ス場合ナルト其然ラサル場合ナルトヲ問ハス苟モ代理權限ヲ有セサル者カ擅ニ某代理ト記入シ之ヲ以テ眞ニ官ヨリ發シタル文書ナリトシテ行使シタルトキハ官文書偽造行使用罪ヲ構成ス
- 郵便貯金通帳ハ郵便局ナル官廳ニ於テ官吏カ職務上作成スヘキ文書ナリトス從テ其記載事項ハ一私人ノ貯金證明ニ過キスト雖モ官ノ文書ニ外ナラス

(同(前項))

○郵便貯金預渡郵便爲替貯金出納簿郵便貯金通帳ハ官文書ナリ
有體財產ノ差押ヲ爲シ其調書ヲ作成スルハ執達吏ノ職務ニシテ執達吏ハ右等ノ職務ヲ自己ノ責任ヲ以テ代理ノ資格ヲ有スル者ニ委任スルコトヲ得ヘ執達吏規則第十一條ニ從テ其代理人カ

三五	一	一四
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	五	一五
三五	五	一五
三五	六	一六
三五	六	一六
三五	九	一七
三五	〇	一八
三〇	四	二六

- 作成シタル調書ハ執達吏カ自ラ作成シタル文書ト同ジク官文書ナリトス
- 明治三十四年度第一期縣稅地租割ノ領收書中第一期ノ一ナル文字ノ上ニ更ニ一畫ヲ加ヘ二ノ字ト爲シ以テ第二期縣稅地租割ノ領收書ヲ作成シタル所爲ハ文書ノ變造ニ非スシテ偽造ナリトス
- 書類ノ作成者ニ非サル他ノ係官ニシテ承認ノ爲メ其書類ニ捺印スルモ書類ヲ作成シタルモノト云フチ得テ捺印ノ所爲ハ文書偽造變造罪ヲ構成セス
- 凡ソ文書ノ偽造變造アリトスルニハ其目的タル文書即チ言語文章ヲ以テ表出シタル記録アルヲ要ス而シテ捺印ノミハ一ノ記録ニ非サルヲ以テ文書偽造罪ヲ構成スルコトナシ
- 事務取扱ノ便宜上主任者ニ代リテ書類ノ文詞ヲ筆記シタルニ止マルトキハ書類ヲ作成シタルモノト云フチ得テ從テ其書類ハ職權アル主任者ノ作成シタルモノニシテ偽造文書ヲ以テ目スヘキモノニ非ス
- 官吏公吏カ其職務上作成スヘキ文書ト雖モ虛偽ノ事項ヲ記載シテ一箇ノ文書ヲ作りタルトキハ其所爲ハ一私人カ官公吏タル記録者ノ資格ヲ詐リ偽造文書ヲ作成シタルモノニ外ナラス從テ其所爲ハ官文書偽造罪ヲ構成ス
- 郡長ハ水利組合條例第二十九條ノ規定ニ基キ府縣知事ノ指定ニ依リ水利組合ヲ管理スルモノナレハ水利組合其者ハ公共事務ヲ處理スル團體ナリトスルモ之ヲ管理スルハ郡長ノ職務ナリ從テ其管理者タル郡長ノ作製スヘキ文書ハ公文書ニ非スシテ官文書ナリトス
- 町村學組合組合收入役ハ公吏ナリトス從テ其名義ノ領收證ヲ偽造行使用シタル所爲ハ公文書偽造行使用罪ヲ構成ス而シテ收入役任命ノ手續ニ不完全ノ點アリシヤ否ヤハ毫モ此犯罪ノ構成ニ關係ナシ

三五	二	一六
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三
三五	二	一三

○文書偽造罪ノ完成ニ必要ナル行使アリトスルニハ犯人ノ所爲カ文書ノ信用ニ對スル危險ヲ生
スルノ程度ニ達シタルノミヲ以テ足レリトシ犯人ノ行爲ヨリ生スル其後ノ結果如何ハ之ヲ問
フノ必要ナシ從テ犯人カ或方法ヲ以テ偽造文書ヲ利害關係人ノ閱覽ニ供シ利害關係人ヲシテ
其内容ヲ知ルコトヲ得セシムヘキ狀態ニ置キタルトキハ利害關係人ニ於テ現ニ之ヲ閱覽シテ
其内容ヲ認識シタルト否トニ拘ハラズ偽造文書ノ行使アリタルモノトス

○送達證書カ一旦執達吏ノ管掌ニ歸シタルトキハ其證書ハ全部官文書ト爲リ受取人ノ氏名ノ部
分ノミヲ分割シテ私文書ナリト云フヲ得ス從テ執達吏自ラ送達證書中受取人ノ氏名ヲ偽造又
ハ變造シ若クハ他人カ執達吏ノ手中ニ在ル送達證書ノ受取人ノ氏名ヲ偽造又ハ變造シタルト
キハ官文書ノ偽造又ハ變造罪ヲ構成ス

○町村制第六十四條ニハ町村ニモ區長ヲ置クノ制アリテ其第七十三條ニ依レハ區長ハ町村長ノ
事務ヲ補助執行スル町村吏員ナルコト明カナレハ區長ハ町村長ニ代リ當然公文書類ヲ保管ス
ルノ職責ヲ有ス從テ變造ノ地圖ヲ區長タル町村吏員ニ交付シ他人ヲシテ之ヲ閱覽スルノ狀態
ニ置キタル所爲ハ偽造文書行使罪ヲ構成ス

○村役場ニ於テ其必要上作成保管シタル地圖ハ法令ノ規定ニ基キ作成シタルモノニ非サルモ其
性質公文書ナリトス

○官文書トハ必スシモ官吏ノ作成シタル文書ノミナ云フモノニ非ス從テ一私人ノ作成シタル文
書ト雖モ之ヲ官廳ニ差出シ官廳ニ於テ保存スヘキ文書ナル以上ハ官ノ記録又ハ官ノ帳簿ニ外
ナラサルヲ以テ官文書ナリトス

(同前) 官文書トハ必スシモ官吏ノ作成シタル文書ノミナ云フモノニ非ス從テ一私人ノ作成シタル文書ト雖モ

一旦之ヲ官署ニ差出シ官署ニ於テ保存スル以上ハ官文書ナリ

○郵便取扱所ハ官衙ニ非ス且郵便取扱人ハ私人ニシテ官吏ニ非サルモ郵便取扱所ニ於テ取扱人
ノ擔任司掌スル所ノ郵便事務ハ官廳ノ事務ナリトス從テ取扱人名義ノ貯金拂戻證書ヲ偽造シ
之ニ取扱人ノ職印ヲ盜用シタル所爲ハ官文書偽造行使及ヒ官印盜用罪ヲ構成ス

○戶籍簿ノ謄本ハ戶籍簿内容ノ事項ヲ證明シテ人民ニ下付スル文書ニ非スシテ戶籍簿ノ記載其
儘ヲ謄寫シテ人民ニ下付スル文書ナリトス從テ戶籍簿ノ謄本ハ公證文書ニ非スシテ公文書ナ
リ

○公簿ハ刑法第二百三條ニ所謂文書中ニ包含ス

○文書偽造行使罪ヲ構成スルニハ其文書ヲ偽造行使シタルニ因リ他人ニ害ヲ生ジ又ハ生ジ得ヘ
キ事實ヲ要件ト爲スヘキモノトス而シテ其眞實ヲ偽リタルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシ

○警察署ハ古物商取締法第七條但書ニ依リ住所氏名ノ詳ナラサル者カ其所持品ヲ賣買交換セン
トスル場合ニ於テ其申請ニ依リ證明ヲ與フルノ職權ヲ有ス從テ其證明書ヲ偽造シタル行爲ハ
官文書偽造罪ヲ構成ス

○文書偽造行使罪ハ信用ヲ害スルノ罪ニシテ財産ニ關スル罪ニ非ス故ニ金錢ヲ私スルト否トハ
犯罪ノ構成ニ何等ノ影響ナシ

○本金庫カ支金庫ニ對シ振替拂ヲ通報スル電報賴信紙ハ官文書ナリトス

○府縣土木出張所ノ吏員カ其出張所ノ職務權限ニ屬スル事項ニ付キ出張所ノ名ヲ以テ作成シタ
ル證明書ハ官文書ナリトス

○土地ヲ抵當ト爲シ村ノ基本財産中ヨリ金圓ヲ借受ケタル者カ爾後村長ニ就任セシチ奇貨トシ
未ダ借用金ノ辨濟ナキニ拘ハラズ助役ヲシテ受取書ヲ作成交付セシメ其結果答記抹消申請ノ

三二	一四八
三六	一四八三
三六	一五四四
三六	一六七七
三六	一六八二
三六	一八一五
三六	一八五六
三七	四五
三七	一六一

三六	五〇七
三六	九二〇
三六	九八四
三六	九八四
三六	一一三〇

舊刑法

公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪 官ノ文書ヲ偽造スル罪

爲メ村長代理トシテ同助役ヲ區裁判所ニ出頭セシムル旨ノ命令書ヲ作成シ村長ノ公印ヲ押捺シテ借用證書ト共ニ之ヲ提出シタル所爲ハ公印盜用公文書偽造行使罪ヲ構成ス而シテ此場合ニ助役方後日村長ヨリ他ノ借用證書ヲ差入ルヘキ約定ニ基キ登記ノ抹消ヲ承諾シタル事實ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○官報ハ印刷局カ内閣總理大臣ノ管理ノ下ニ行政事務ノ一部トシテ編輯印刷スル官ノ報告書ナリトス從テ官報原版中既ニ植字セラレタル活字ヲ變換シ其印刷ヲ遂ケシメタル所爲ハ公文書偽造罪ヲ構成ス

○印刷局カ一私人ノ依頼ニ因リ或事項ヲ官報ニ掲載シテ發行スル場合ト雖モ其公文書タル性質ヲ變スルコトナシ

○官吏ノ出張旅費内譯明細表ハ旅費請求ノ爲メ出張日數及ヒ金額等ヲ詳記セル疏明書ニ外ナラサレハ其職務上作成シタルモノニ非スシテ自己ノ權利ニ關スル私文書タルニ過キス從テ虛偽ノ内譯明細表ヲ作成スルモ公文書偽造罪ヲ構成セス

○一私人名義ノ文書ヲ偽造シ豫テ官署又ハ公署ニ保存セラレタル書類ナルカ如ク裝ヒテ之ヲ官署若クハ公署ニ備付ケタル所爲ハ公文書又ハ公文書ノ偽造行使罪ヲ構成ス

○傳染病豫防補助稟請書ニ包括的ニ金額ヲ掲記シ之ヲ補助ヲ申請シタル場合ニ於テ其記載金額不實ナル以上ハ該稟請書ハ全部偽造ニ係ルモノトス從テ其金額ノ割合ニ應ジ之ヲ分割シテ一部ヲ偽造トシ他ノ一部ヲ真正ノモノト爲スヲ得ス

○官署ノ名稱ニ多少ノ相違アルモ苟モ實在セル官署ヨリ出テタル文書ナリトシテ人ヲ欺クニ足ルヘキモノヲ偽造シ之ヲ行使シタル所爲ハ公文書偽造行使罪ヲ構成ス

○有モ官署ヨリ出クヘキ文書ヲ偽造行使スルトキハ其公權關係ニ於テ作成シタル文書ナルト否トヲ論セス公文書偽造行使罪トシテ處斷スヘキモノトス

(同左)

刑法第二百三條第一項ニハ單ニ「官ノ文書ヲ偽造シ又ハ増減變換シテ行使シタル者ハ云云」トアリテ公法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルト私法上ノ關係ニ於テ作製スヘキ文書ナルトヲ區別スルコトナシ從テ苟モ官吏カ其職務上作製スヘキ文書ナル以上ハ總テ官ノ文書ナリトス

○村役場書記カ擅ニ戶籍簿ヲ變造シタル後戶籍吏ノ名義ヲ冒シ其職印竝ニ役場印ヲ捺捺シテ戶籍簿本ヲ作成シタル所爲ハ戶籍簿變造行使竝ニ謄本偽造行使ノ二罪ヲ構成ス而シテ其謄本ノ記載カ變造ニ係ル原簿ノ記載ト同様ナルヤ否ヤハ之ヲ問フノ要ナシトス

○物品會計規則第十五條第二項ハ前任ノ物品會計官吏ヲシテ在職中ノ職務ニ關スル公文書ヲ作成セシムルノ必要ヲ認メ特ニ之ヲ規定シタルモノトス故ニ前任物品會計官吏トシテ物品出納ノ計算書ヲ作成スルニ方リ自己ノ犯罪ヲ掩ハンカ爲メニ虛偽ノ事項ヲ記載シテ行使シタル所爲ハ公文書偽造行使罪ヲ構成ス

○執達吏カ執達吏職務細則ノ規定ニ依リ債務者ニ諭示スル爲メ作成シタル文書ハ公文書ナリ

○執達吏規則第二十二條ニ執達吏ハ此規則ニ依ルノ外總テ一般官吏ノ例ニ依ルトアリテ執達吏ハ官吏ノ身分ヲ有スルモノナレハ其職務ニ關シテ作成シタル文書ハ公文書ニ非スシテ公文書ナリトス

○師團經理部ニ於テ馬糧購買手續ノ便宜ヲ圖リ各町村役場ニ對シ納入命令書ノ發付ヲ委託シタル場合ニ豫メ上司ヨリ其受託ノ原由ト爲ルヘキ指令アリタルトキハ町村長カ右ノ事務ヲ取扱フハ即チ職務上ノ行爲ニ外ナラス從テ其取扱ニ係ル文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ公文書偽造

舊刑法

公益ニ關スル重罪輕罪 信用ヲ害スル罪 官ノ文書ヲ偽造スル罪

三七	一四三五
三七	一四四二
三七	一四四二
三七	一九九四
三七	二二五二
三六	一七〇
三六	二二七

三八	二二七
三六	二二二
三六	二九七
三六	四七〇
三六	四七〇
三六	四七〇